

官報 號外

大正九年七月十四日 水曜日

印刷局

第四十三回 衆議院議事速記録第十號

大正九年七月十三日(火曜日)午後一時十六分開議

議事日程 第九號 大正九年七月十三日

午後一時開議

- 第一 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第三 關稅定率法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第五 電信事業公債法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第七 電話事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第九 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十一 臺灣事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十三 樺太事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第十五 所得稅法改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十六 所得稅法ノ施行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十七 酒造稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十八 酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十九 麥酒稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第二十 明治四十一年法律第二十四號中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十一 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十二 議院法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(與繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

〔原田書記官朗讀〕

一昨十二日政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

關稅定率法中改正法律案

電信事業公債法案

電話事業公債法中改正法律案

朝鮮事業公債法中改正法律案

臺灣事業公債法中改正法律案

樺太事業公債法中改正法律案

國債償還資金ノ繰入ヲ爲サ、ルコトニ關スル法律案

事業公債金特別會計法中改正法律案

道路公債法案

帝國大學特別會計法中改正法律案

大正八年法律第十二號中改正法律案

公立學校職員年功加俸國庫補助法案

一今十三日政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

現受恩給者ノ恩給等ノ増額ニ關スル法律案

軍人恩給等ノ増額ニ關スル法律案

大正五年法律第四號中改正法律案

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

一昨十二日議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

刑法中改正法律案

提出者 宮古啓三郎君

丸山巖峨一郎君

作間 耕逸君

因美鐵道支線敷設ニ關スル建議案

提出者 清瀬規矩雄君

山本 藤助君

吉野縱貫鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 岩本 平藏君

一昨十二日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

明治二十九年法律第十三號中改正法律案

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

昨十二日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

大正四年法律第十六號中改正法律案委員

菅原 傳君 淺石 惠八君 野口忠太郎君

樋渡次右衛門君 南里 琢一君 風間八左衛門君

木村作次郎君 河崎 清君 岡田伊太郎君

吉木 陽君 河上 哲太君 池田 龜治君

高田 松平君 田中 善立君 佐藤 啓君

內藤 濱治君 長場龍太郎君 吉村鉄之助君

大正七年度豫備金支出ノ件外七件(承諾ヲ求ムル件)委員

小山田信藏君 長谷場 敦君 石井 三郎君

川口誠三郎君 鈴木 義隆君 岩本 平藏君

安原仁兵衛君 玉置 良直君 松山常次郎君

三善 清之君 三好 徳松君 森田 茂君

野田文一郎君 平出喜三郎君 川副 綱隆君

清水留三郎君 倉石 知藏君 佐々木平次郎君

一今十三日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

大正四年法律第十六號中改正法律案

委員長 菅原 傳君 理事 南里 琢一君

委員 河上 哲太君

大正七年度豫備金支出ノ件外七件(承諾ヲ求ムル件)委員

委員長 小山田信藏君 理事 岩本 平藏君

委員 平出喜三郎君

倉石 知藏君

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス

一 議事日程第一、明治四十一年法律第三十七號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第一 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

第一條中「百分ノ十三」ヲ「百分ノ三十四」ニ「百分ノ

第二百二十三號中「每百斤」ヲ削リ「二、〇〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百二十四號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第二百二十五號中「同」ヲ削リ「八二、〇〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百二十七號中「同」ヲ削リ「二割」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百二十八號中「每百斤」ヲ削リ「六、六五」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百二十八號中「二」及「ヤボランシ葉」ヲ、「ヤボランシ葉及パッチェリー葉」ニ改ム

第二百二十九號中「每百斤」ヲ削リ「二、八五」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百三十號中「同」ヲ削リ「二、六〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百三十二號中「次」左ノ如ク加フ

一三二ノ二 杏仁及苦扁桃仁

一三二ノ三 番木鱧

第二百三十三號中「同」ヲ削リ「一四、三〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百三十七號中「同」ヲ削リ「六、一〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百三十八號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第二百四十一號中「次」左ノ如ク加フ

一四一ノ二 甘草越幾斯

第二百五十一號中「次」左ノ如ク加フ

一五一ノ二 プROOM

第二百五十二號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第二百五十七號中「左」ノ如ク改ム

一五七 サリチール酸及アセチール酸 從 價 三割五分

第二百五十八號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第二百五十九號 削除

第二百六十號中「每百斤」ヲ「同」ニ改ム

第二百七十二號中「左」ノ如ク改ム

一七二 サリチール酸曹達及サリチール酸曹達シオフロミン 從 價 三割五分

第二百七十九號中「左」ノ如ク改ム

一七九 プROOM水素酸、プROOM加里其ノ他別號ニ掲ケサ從 價 三割五分

第二百八十號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第二百九十七號及第二百九十八號中「〇、七三」ヲ「一、〇〇」ニ改ム

第二百六號中「同」ヲ「從價」ニ「一、〇〇」ヲ「三割五分」ニ改ム

第二百七號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第二百十五號中「左」ノ如ク改ム

二一五 コールタール分餾物ヨリ誘導シタル化學的生成品(ベンザルアルド、ナイトロベンゾール及ナイトロトリニール以外ノ香料、石炭酸、サリチール酸、パークライト及醫藥ヲ除ク)

第二百十六號中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第二百二十號中「〇、七三」ヲ「一、〇〇」ニ改ム

第二百三十七號中「左」ノ如ク改ム

二二七 人造藍

第二百四十三號中「左」ノ如ク改ム

二四三 別號ニ掲ケサルコールタール染料

第二百五十九號中「每百斤」ヲ削リ「〇、五五」ヲ「無稅」ニ改ム

第四百十八號中「纖維狀ノモノ」ノ下ニ「(白金粉ヲ有スルモノヲ含ム)」ヲ加フ

第四百二十三號中「每百斤」ヲ削リ「〇、〇六」ヲ「無稅」ニ改ム

第四百三十五號中「從價」ヲ削リ「五分」ヲ「無稅」ニ改メ第二項中「同」ヲ削リ「一割」ヲ「無稅」ニ改ム

第四百五十八號中「鑛」ノ下ニ「(燒キタルモノヲ含ム、マツト、ボトム及鑛滓ヲ加フ)

第四百五十九號中「左」ノ如ク改ム

四五九 白金、イリヂウム、オスミウム、パラヂウム、ロヂウム、インヂウム及ルセウム

第四百六十四號第七項中「每百斤」ヲ削リ「一、三〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第四百六十五號第一項中「同」ヲ「每百斤」ニ改メ第六項中「同」ヲ削リ「〇、三〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第四百六十六號中「同」ヲ「每百斤」ニ「五分」ヲ「無稅」ニ改メ第四項中「從價」ヲ削リ

第四百七十一號第七項中「同」ヲ削リ「二、二五」ヲ「無稅」ニ改ム

第五百九十六號中「三七、五〇」ヲ「五〇、〇〇」ニ「二、五〇」ヲ「三〇、〇〇」ニ「一四、三〇」ヲ「一九、一〇」ニ「二、八〇」ヲ「七、一〇」ニ「一、三〇」ヲ「一五、一〇」ニ「九、八〇」ヲ「一三、一〇」ニ「六、八〇」ヲ「九、一〇」ニ「六、〇〇」ヲ「八、〇〇」ニ「三、八〇」ヲ「五、一〇」ニ「三、五〇」ヲ「四、七〇」ニ改ム

第六百十二號第一項中「同」ヲ削リ「一、八〇」ヲ「無稅」ニ改ム及「ハコヤナギ」ヲ「ハコヤナギ及胡桃」ニ改メ同號第二項中「左」ノ如ク改ム

丙 燐寸軸木 無 稅

同號第二項中「左」ノ如ク加フ

丁 其ノ他 從 價 二割五分

第六百四十四號中「每百斤」ヲ削リ「〇、三〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第六百四十五號中「同」ヲ削リ「〇、〇六」ヲ「無稅」ニ改ム

附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣男爵高橋是清君登壇拍手起ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 關稅定率法中改正法律案ノ說明ヲ簡單ニ致シマス、本案ハ關稅定率法中ノ改正デゴザイマシテ、政府ハ前議會ニ本會ト同様ノ提案ヲ致シマシテ、衆議院ニ於テ「二」ノ點ニ修正ヲ加ヘテ通過致シマシタガ、議會解散ノ爲メニ、未ダ貴族院ノ議ヲ經ルニ至ラズシテ終リマシタノデゴザイマス、今回ノ提案ハ前議會ニ衆議院ニ於テ修正可決セラレタル其案ヲ提出シタル次第デゴザイマス、元來現行關稅率ハ、世界大戰ノ影響ニ依リマシテ、根本的ノ整理改正ヲ行フノ必要モアルノデゴザイマスガ、右ハ其調査ニモ相當長キ時日ヲ要スベキコトデアリマスカラ、此際ハ差當リ急速ニ實施ヲ要シマスル種類ノモノヲ撰ンデ、提案シタル次第デゴザイマス、即チ本案ノ内容ハ、戰時中ニ勃興致シタル染料、並ニ藥品等ノ工業ニ對シマシテ必要ノ保護ヲ加ヘマスコト、又各種ノ原料品ノ關稅ヲ免除スルコト、又外國品ノ不當ナル廉賣ニ依テ、本邦ノ産業ガ危害ヲ被ルト云フ虞ノアル場合ニ對シマシテ、是ガ對策ヲ必要ノ場合ニ於テハ、不當廉賣品ニ對シマシテ、附加稅ヲモ爲シ得ルノ途ヲ開クコト、並ニ別ニ本會ニ提案サレテ居リマス酒ノ稅ノ改正ニ伴ヒマシテ、是ト權衡上輸入

酒類ノ輸入稅ヲ増率スルコト等デゴザイマス、御審議ノ上
協賛アランコトヲ願ヒマス(拍手起ル)

○議長(奧繁三郎君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託
スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 委員ノ數ハ特ニ二十八名トシ、議長ニ於テ指
名セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ
如ク決シマシタ

○岩崎勳君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致
シマス、即チ茲ニ豫算關係法律案タル、政府提出國債償還
資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ關スル法律案、政府提出事業
公債金特別會計法中改正法律案、政府提出道路公債法
案、此三案ノ第一讀會ヲ開キ、日程第五乃至第十三ノ事
業公債ニ關スル五案ト共ニ一括シテ議題ニ供シ、政府ノ説
明ヲ求メ、且ツ其審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ行ハレン
コトヲ望ミマス(贊成々々ト呼フ者アリ)

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌ
カ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ
變更セラレマシタ、今動議ニアリマスル八案ヲ一括シテ議題
ニ供シ、第一讀會ヲ開キマス

國債償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ關
スル法律案(政府提出) 第一讀會

國債償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ關スル法律案
政府ハ國防ノ充實ニ關スル經費支辨ノ爲大正九年度
乃至大正十二年度限リ國債整理基金特別會計法第
二條ノ規定ニ依ル元金償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコト
ヲ得

事業公債金特別會計法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會

事業公債金特別會計法中改正法律案
事業公債金特別會計法中左ノ通改正ス

「事業公債金特別會計法」公債金特別會計法ニ改
ム

第一條 各種ノ經費ノ支辨ニ充ツヘキ公債金ノ會計ハ
之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分スヘシ

第二條 公債金ヲ使用セムトスルトキハ之ヲ以テ支辨
スヘキ經費ノ屬スル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第六條 公債金ハ之ヲ以テ支辨スヘキ經費毎ニ區分
整理シ其ノ經費ヲ要セサルニ至リタル後剩餘アルトキ
ハ之ヲ其ノ經費ノ屬シタル會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第八條 本法ハ大正五年法律第四號ニ依リ發行スル
公債ノ收入金ニ關シテハ之ヲ適用セス

附則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

道路公債法案(政府提出)

第一讀會

道路公債法案

道路公債法

第一條 國道改良費支辨又ハ國道府縣道若ハ市ノ
重要街路ノ改良費補助ニ關スル經費支辨ノ爲政府
ハ二億八千二百八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ
之ヲ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ
補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ
公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

第五 電信事業公債法案(政府提出)

電信事業公債法案 第一讀會

第一條 電信擴張及改良費支辨ノ爲政府ハ七千三百
八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之ヲ繰替支辨ノ
爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ
補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外
ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

第七 電話事業公債法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會

電話事業公債法中改正法律案
電話事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「一億二百五十萬圓」ヲ「三億二千八百萬圓
ニ改ム

第二條中「本法ニ依ル公債又ハ借入金借換ノ爲必要
アルトキ亦同シ」ヲ削ル

第九 朝鮮事業公債法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會

朝鮮事業公債法中改正法律案
朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス

「第一項」ヲ「前項」ニ「一億七千八百萬圓」ヲ「二億六
百五十萬圓」ニ改メ第二項ニ削ル

第十一 臺灣事業公債法中改正法律案
(政府提出) 第一讀會

臺灣事業公債法中改正法律案
臺灣事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「事業費支辨ノ爲」ヲ「事業費又ハ事業費補
助ニ要スル經費支辨ノ爲」ニ「九千二百五十萬圓」ヲ
「一億六千二百萬圓」ニ改ム

第十三 樺太事業公債法中改正法律案
(政府提出) 第一讀會

樺太事業公債法中改正法律案
樺太事業公債法中左ノ通改正ス

第一條中「五百五十萬圓」ヲ「千二百五十萬圓」ニ改ム
第二條中「本法ニ依ル公債又ハ借入金借換ノ爲必要
アルトキ亦同シ」ヲ削ル

○國務大臣(男爵高橋是清君) 國債償還資金ノ繰入ヲ
爲ササルコトニ關シマスル法律案ト云フモノニ就テ、説明ヲ
致シマス、國防ノ充實ニ關シマスル新規計畫ノ財源ニ充當
スル爲メニ、大正九年度以後一時國債償還資金ノ繰入ヲ
停止スルノ計畫ハ、既ニ追加豫算ノ提出ニ際シマシテ、申
述ベマシタル通りデゴザイマスガ、然ルニ國債整理基金特別
會計法ニ依リマスレバ、毎年度國債償還資金ニ繰入ヲ要
スルコト、ナラテ居リマスル、仍テ本案ノ提出ヲ必要トシタル
次第デゴザイマス、現在ノ豫算計畫ニ於キマシテ、大正十三
年度以後優ニ之ヲ復活スル餘裕ヲ生ジマスガ故ニ、大正九
年度ヨリ大正十二年度ニ至ル此四箇年ノ間ニ、元金償還
資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ致シマシタ、尤モ此期間ニ於キ
マシテモ、歲計上餘裕ヲ生ジマスル場合ニハ、元金償還資
金ニ繰入ヲ爲ス考デゴザイマス、事業公債金特別會計法

中改正法律案ニ就テ一言説明ヲ致シマス、高等教育機關ノ増設、又ハ其擴張ニ關シマスル公債法、帝國鐵道會計法、及此度提案致シマシテ道路公債法等ニ依リマシテ發行スル、公債ノ收入シテ從來ノ事業公債金ト共ニ、第一整理致シマスルコトガ便利デゴザイマスノデ、事業公債金特別會計法ヲ公債金特別會計法ト改メマシテ、之ニ伴ヒマシテ、二三ノ條項ヲ修正致シタト考ヘルノデアリマス、道路公債法案ニ就キマシテハ、我國ノ道路ハ甚タ不十分デゴザイマスカラ、政府ハ大正九年度ヨリ三十八年マデ三十箇年ノ間ニ、總額二億八千二百八十萬圓ヲ支出致シマシテ、或ハ軍用國道ノ改良ヲ爲シ、或ハ府縣以下ノ公共團體ニ對シマシテ補助ヲ與ヘテ、國道縣道、若クハ市ノ重要街路等ノ改良ヲ爲サシムルノ計畫ヲ立テマシタ、其財源ハ之ヲ公債ニ求ムルコト、致シマシテ、是ガ起債ノ法律ヲ制定致セントスル次第デゴザイマス、電信事業公債法案、現在ノ電信ノ設備ハ、時勢ノ進歩ニ伴ヒテ居リマセヌノデ、著シク不便ヲ感ジテ居ルノデアリマス、故ニ大正九年度ヨリ十五年度マデ七箇年間ニ、繼續費總額七千三百八十萬圓ヲ支出致シマシテ、電信線路ノ増築、又ハ改築、局所ノ増設、機械ノ敷替改良等、何レモ必要ナル施設ヲ遂行致シタト考ヘルノデアリマス、是ガ財源ハ之ヲ經常歳入ニ求ムルコトガ出來マセヌカラシテ、此起債法ヲ制定セントスル次第デゴザイマス、電話事業公債法中改正法律案——此度電話交換擴張費一億二百五十萬圓、之ヲ既定額ニ對シマシテ、大正九年度以降八箇年間で、繼續費總額二億二千五百五十萬圓ヲ追加致シマシテ、其全部ヲ公債財源ニ依ルコトニ計畫ヲ致シマシタ、故ニ銀行ノ起債法定額一億二千五百五十萬圓トアリマスルノヲ、三億二千八百萬圓ト改正セントスルノデアリマス、其他ハ序ヲ以テマシテ、法規ノ整理ヲ爲サントスルノニ過ギナイノデアリマス、朝鮮事業公債法中改正法律案、朝鮮ニ於キマシテ鐵道建設及改良費、鹽田擴張費、醫院新營費、其他ノ事業費ノ爲メ、大正九年度ヨリ十五年度ニ亙リマシテ、公債ヲ以テ支辨スベキモノ、總額二千八百四十六萬圓ヲ增加スルノ計畫ヲ立テマシタ、之ヲ銀行ノ起債法定額一億七千八百萬圓ニ追加致シマシテ、其法定額ヲ一億六百五十萬圓ニ改正セントスルモノデゴザイマス、其他ハ法規ノ整理ニ止マルモノデゴザイマス、臺灣事業公債法中改正法律案——是ハ從來政府ニ於テ經營致シテ居リマシタル官佃溪ハ、埤圳工事、水利組合ノ事業ニ移シマシテ、其經費ノ一部千二百萬圓ヲ、六箇年間で補助スルコトノ計畫ヲ致シマシタ、此補助費ハ從來公

債財源ニ依テ支辨シテ居リマシタル、水利事業費ノ一部ニ代ルベキモノデゴザイマス、ソレ故同ジク公債ヲ以テ支辨スルコトニ致シタト考フルノデアリマス、是ガ改正ヲ要スル一點デアリマス、又基隆築港工事費、鐵道建設費等ノ公債ヲ以テ支辨スベキモノ、千三百六十五萬圓ヲ增加スルコトニ致シマシタカラ、銀行ノ既定法定額九千二百五十萬圓ヲ、一億六百二十萬圓ト改正スルノデアリマス、是ガ此改正ノ第二點トナシテ居ルノデアリマス、樺太事業公債法中改正法律案——是ハ大泊港修築ニ要シマスル繼續費總額四百九十萬圓、鐵道建設費追加額二百二十萬圓、合セテ七百萬圓ノ公債財源ニ依ルコトニ致シタト考ヘルノデアリマス、現行起債法定額五百五十萬圓ヲ、千二百五十萬圓ニ增加セントスルモノデゴザイマス、何レモ御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ望ミマス(拍手起ル)

○議長(與繁三郎君) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ致シマス

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

- 岩崎勳君 緊急上程ニ係ル三案、及日程第五ヨリ第十三ニ至ル五案、合計八案ヲ一括シテ、委員ノ數ハ特ニ二十八名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス
- 〔贊成々々ト呼フ者アリ〕
- 議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ
- 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
- 議長(與繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
- 岩崎勳君 再ビ議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、乃チ此豫算關係ノ法律案タル政府提出、帝國大學特別會計法中改正法律案、政府提出大正八年法律第十二號中改正法律案、政府提出公立學校職員年功加俸國庫補助法案、此三案ヲ一括議題トシ、其第一讀會ヲ開キ、政府ノ説明ヲ求メ、之ヲ審議シ、且ツ此審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ行ハレンコトヲ望ミマス
- 〔贊成々々ト呼フ者アリ〕
- 議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ議事日程變更ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
- 〔異議ナシト呼フ者アリ〕

功加俸國庫補助法案、此三案ヲ一括シテ議題ト爲シマス、第一讀會ヲ開キマス——中橋文部大臣

帝國大學特別會計法中改正法律案(政府提出)

帝國大學特別會計法中改正法律案

第二條中「金百六十七萬七千三百二十圓」ヲ「金二百五十萬七千九百七十六圓」ニ、「金百三萬五千圓」ヲ「金百四十七萬三千三百十八圓」ニ改ム

大正八年法律第十二號中改正法律案(政府提出)

第一讀會

大正八年法律第十二號中改正法律案

大正八年法律第十二號中左ノ通改正ス

「東京帝國大學工學部」ヲ「東京帝國大學醫學部及工學部」ニ、「百五十萬圓」ヲ「百八十萬圓」ニ改メ左ノ二項ヲ加フ

前項ノ規定ニ依ル臨時政府支出金ノ外擴張ニ伴ヒ要スル經常費ニ充ツル爲當分ノ内毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ必要ナル金額ヲ一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

東京帝國大學及京都帝國大學ノ入學期線上ニ關シ臨時授業ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲必要ナル金額ハ東京帝國大學ニ在リテハ大正九年度乃至大正十二年度ニ互リ、京都帝國大學ニ在リテハ大正九年度乃至大正十三年度ニ互リ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ當該帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

公立學校職員年功加俸國庫補助法案(政府提出)

- 公立學校職員年功加俸國庫補助法案
- 公立學校職員年功加俸國庫補助法案
- 第一條 師範學校並公立ノ中學校高等女學校及實業學校ノ職員ノ年功加俸ニ要スル經費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス
- 第二條 前條ノ規定ニ依リ補助スヘキ金額ハ前年六月一日現在ニ於テ五年以上勤續スル學校職員ノ數ニ比例シテ之ヲ北海道府縣ニ交付ス
- 第三條 學校職員ノ範圍及勤續ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 第一條ノ實業學校ニハ實業専門學校ヲ包含セズ

附則

本法ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣中橋徳五郎君登壇、拍手起ル〕

〔高聲ニ願ヒマス〕ト呼フ者アリ

○國務大臣(中橋徳五郎君) 唯今議題ニ上リマシタ案ノ説明ヲ致シマス、此帝國大學會計法中改正案ハ、此度官吏ノ増俸其他旅費雜費等ノ増額ヲ要スルコトナリマシタノデ、豫算ニ提出致シマシタカラ、其金額繰入ノ爲メニ、法律ノ改正ヲ必要トスル次第デアリマス、又大正八年法律第十二號中改正法律案モ、略、同様ノ案デアリマシテ、帝國大學ノ擴張ヲ致シマスルデ、相當ノ金額ヲ豫算ニ見込シテ居リマス、其繰入ヲスルガ爲メニ、法律改正ノ必要ヲ認メタ次第デアリマス、ソレカラ年功加俸國庫補助法案ハ、久シイ問題デアッタノデアリマス、デ大抵御承知ノ事ト思ヒマス、即チ此過ノ第四十二議會ニ於テ之ヲ提出致シマシテ、本院ハ通過シタ譯デアリマス、途中ニシテ解散ノ爲メニ止タ譯デアリマス、此度ソレト同様ノモノヲ提出シタ譯デアリマス、デ金額ハ豫算ノ中ニ計上致シ、新ニ此法案ヲ提出シテ、茲ニ御審議ヲ願フ次第デアリマス、宜シク御審議ヲ願ヒマス(拍手起ル)

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 三案ヲ一括シ、委員ノ數ハ十八名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十五乃至第二十一ハ同一委員ニ付託シタル議案デアリマスカラ、一括シテ議題ニ供スル考デアリマスガ、異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ一括シテ議題ニ供シマス、委員長松田源治君

第十五 所得税法改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一所得税法改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十二日

所得税法改正法律案委員長

松田 源治

衆議院議長奥繁三郎殿

(小字及一ハ委員會修正)

所得税法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二 本法施行地ニ於テ公債、社債、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子支拂ヲ受クルトキ

三 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種

甲 法人ノ超過所得

乙 法人ノ留保所得

丙 法人ノ配當所得

丁 法人ノ清算所得

戊 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ヨリ生スル所得

第二種

甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子

乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ

利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種

第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第四條 法人ノ所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ利益金又ハ剩餘金ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ所得ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シテ計算ス

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 法人ノ各事業年度ノ所得カ同年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ八ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項計算ノ場合ニ於テ繰越損金アルトキハ其ノ各月末ニ於ケル金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算シ資本金額ヨリ控除ス

第七條 本法施行地ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有セサル法人又ハ所得稅ヲ課スヘキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ計算ス

第八條 本法ニ於テ積立金ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハス法人ノ所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條 法人ノ各事業年度ノ所得中積立金ト爲シタル金額ヲ以テ法人ノ留保所得トス

法人カ積立金ヲ減少シタルトキハ其ノ減少額ヲ填補スルニ至ル迄其ノ後ノ各事業年度ノ留保所得ニ付所得稅ヲ課セズ

積立金ヲ減少シタル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ付前項ノ規定ヲ適用ス但シ合併ノ際合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ積立金ヲ以テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ株式金額又ハ出資金額ニ充當シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 法人ノ各事業年度ノ所得中利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ヲ以テ法人ノ配當所得トス
法人ノ積立金ヲ減少シテ利益ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ充當シタル金額ハ之ヲ前項ノ配當所得ニ加算ス

第十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ剩餘財産ノ價額ヲ解散當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス
法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ所得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第十三條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リテ算出ス
一 俸給給料歳費年金恩給退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與、營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債社債及預金ノ利子ハ其ノ收入豫算年額
二 田又ハ畑ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セス、小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額
三 山林ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
四 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額

第十四條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除ス
戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ其ノ年四月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者アルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
一 所得千圓以下ナルトキ
年齡十八歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者
一人ニ付百圓
二 所得二千圓以下ナルトキ
一人ニ付七十圓
三 所得三千圓以下ナルトキ
一人ニ付五十圓

第十六條 北海道府縣郡市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得税ヲ課セス
第十七條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得税ヲ課セス
一 軍人從軍中ノ俸給及手當
二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
三 旅費、學資金及法定扶養料
四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得
七 乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧、繫畜料及馬匹保續料
第十八條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得税ヲ免除ス

第十九條 第三種ノ所得ハ六百圓ニ滿タサルトキハ所得税ヲ課セス第十四條及第十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル爲六百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ
戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リテ算出ス
一 俸給給料歳費年金恩給退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與、營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債社債及預金ノ利子ハ其ノ收入豫算年額
二 田又ハ畑ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セス、小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額
三 山林ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
四 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額

第二十一條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ剩餘財産ノ價額ヲ解散當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス
法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員カ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ所得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金錢ノ總額カ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第二十二條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二十三條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リテ算出ス
一 俸給給料歳費年金恩給退隱料及此等ノ性質ヲ有スル給與、營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債社債及預金ノ利子ハ其ノ收入豫算年額
二 田又ハ畑ノ所得ハ前三年間毎年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタルモノノ平均ニ依リ算出シタル收入豫算年額但シ前三年以來引續キ自作セス、小作セス又ハ小作ニ付セサル田又ハ畑ニ在リテハ近傍類地ノ所得ニ依リ算出シタル收入豫算年額
三 山林ノ所得ハ前年ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額
四 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月末日ニ至ル期間ノ收入金額

第二十四條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル金額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與及此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ其ノ十分ノ一、六千圓以下ナルトキハ同十分ノ二ニ相當スル金額ヲ控除ス
戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十五條 前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額三千圓以下ナル場合ニ於テ其ノ年四月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者アルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ左ノ各號ノ規定ニ依ル金額ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依ル納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
一 所得千圓以下ナルトキ
年齡十八歳未滿若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癡疾者
一人ニ付百圓
二 所得二千圓以下ナルトキ
一人ニ付七十圓
三 所得三千圓以下ナルトキ
一人ニ付五十圓

第二十六條 北海道府縣郡市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ所得税ヲ課セス
第二十七條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得税ヲ課セス
一 軍人從軍中ノ俸給及手當
二 扶助料及傷痍疾病者ノ恩給又ハ退隱料
三 旅費、學資金及法定扶養料
四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子
五 營利ノ事業ニ屬セサル一時ノ所得
六 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ本法施行地外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生スル所得
七 乘馬ヲ有スル義務アル軍人カ政府ヨリ受クル馬糧、繫畜料及馬匹保續料
第二十八條 勅令ヲ以テ指定シタル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生スル所得ニ付所得税ヲ免除ス

第二十九條 第三種ノ所得ハ六百圓ニ滿タサルトキハ所得税ヲ課セス第十四條及第十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル爲六百圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ
戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第二十條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ八ノ割合ヲ以テ算出シタル

金額ヲ超ユル金額 百分ノ二

同百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額 百分ノ四

同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額 百分ノ八

同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額 百分ノ十五

額ヲ超ユル金額 百分ノ十七

額ヲ超ユル金額 百分ノ十五

八百圓以下ノ金額 百分ノ一

八百圓ヲ超ユル金額 百分ノ一・五

千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二

千五百圓ヲ超ユル金額 百分ノ三

二千圓ヲ超ユル金額 百分ノ四

三千圓ヲ超ユル金額 百分ノ五

五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ七

七千圓ヲ超ユル金額 百分ノ八

一萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ九

一萬五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ十

二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十一

三萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十二

五萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十五

七萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十七

十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十九

二十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十一

五十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十五

百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十七

二百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十

百分ノ三十三

百分ノ三十六

百分ノ三十九

百分ノ四十二

百分ノ四十五

百分ノ四十八

百分ノ五十一

百分ノ五十四

百分ノ五十七

百分ノ六十

百分ノ六十三

百分ノ六十六

百分ノ六十九

百分ノ七十二

百分ノ七十五

百分ノ七十八

百分ノ八十一

百分ノ八十四

百分ノ八十七

百分ノ九十

令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並第四條乃至第十條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スヘシ但シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルヘキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ毎年四月中ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スヘシ

第十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スヘシ

第二十五條 第一種ノ所得金額ハ第二十三條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會開會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第二十六條 稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ

第二十七條 各稅務署所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市又ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ所得調査委員會ヲ置クコトヲ得

調査委員ノ定數ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム但シ定數ノ増減ハ改選期ニ於テスルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

第二十九條 調査委員及補闕員ノ選舉區域ハ所得

第二十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ山林ノ所得ト山林以外ノ所得トハ之ヲ區分シ各別ニ稅率ヲ適用ス

第二十三條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ命

調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村又ハ北海道、沖繩縣ノ區ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

第三十條 選舉區域内ニ住居シ前年第三種ノ所得

稅ヲ納メ其ノ年第二十四條ノ申告ヲ爲シタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補關員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補關員ニ選舉セララルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 破産若ハ家資分故ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第七十三條乃至第七十五條ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

前項ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相續人ノ納稅又ハ申告ト看做ス
選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戶長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第三十二條 稅務署長ハ調査委員及補關員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第三十三條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補關員ノ各選舉ニ付一人一票ニ限ル選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所

ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ
投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第三十四條 市區町村長又ハ戶長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第三十五條 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第三十六條 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補關員ニ當選スルモ補關員タルコトヲ得ス

第三十八條 調査委員及補關員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戶長ニ通知スヘシ
市區町村長又ハ戶長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第三十九條 調査委員又ハ補關員ニ當選シタル者ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第四十條 調査委員及補關員ノ任期ハ選舉期日ノ屆スル月ヨリ四年トス但シ選舉區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ選舉區域ニ變更ヲ生シタル日ノ屆スル月ヲ以テ終了スルモノトス

第四十一條 調査委員及補關員ノ改選ハ前任者ノ任期終了ノ月ノ翌月ニ於テ之ヲ行フ

第四十二條 調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補關員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ關員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補關員ナキトキハ調査委員ノ補關選舉ヲ行フ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補關員ト爲リタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス
選舉區域ノ變更ニ因リ新ニ選舉セラレタル調査委員及補關員ノ任期ハ選舉區域變更前ニ於ケル調査委員及補關員ノ選舉期日ノ屆スル月ヨリ四年ヲ以テ終了ス

第四十四條 調査委員又ハ補關員第三十條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ、第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有セサルニ至リタルトキ又ハ其ノ選舉區域内ニ住居セザルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第四十五條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 所得調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第四十七條 所得調査委員會ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第四十八條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第四十九條 調査委員ハ自己及自己ト同一戶籍内ニ在ル者ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ス

第五十條 八月三十日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

所得調査委員會開會ノ日ヨリ第四十五條ノ期間内又ハ八月三十日迄ニ調査終了セザルトキハ政府ニ於テ調査未済ノ所得金額ヲ決定ス

第五十一條 政府ハ所得調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ七日以内ノ期間ヲ定メ之ヲ再調査ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再調査期間内ニ調査終了セザルトキハ政府ニ於テ所得金額ヲ決定ス

第五十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委

員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十三條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ給ス

第五十四條 本法施行地ニ於テ利子支拂ヲ爲スヘキ公債又ハ社債ヲ募集シタル者ハ遲滞ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調書ヲ政府ニ提出スヘシ

一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額
二 利子支拂期限及利率
三 償還ノ方法及期限
四 數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第五十五條 第三種ノ所得ニ屬スル俸給給料歳費年金恩給退隱料賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當若ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ支拂調書ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル金額ヲ交付スルコトヲ得

第五十六條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者、納稅義務アリト認ムル者又ハ前條第一項ノ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ニ質問スルコトヲ得

第五十七條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ付質問スルコトヲ得

第五十八條 第二十五條、第五十條又ハ第五十一條ノ規定ニ依リ第一種又ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

本法施行地内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲ササルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第六十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス

第六十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ハ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第五十一條ノ規定ハ所得審査委員會ノ決議ニ之ヲ準用ス

第六十二條 各稅務監督局所轄内ニ所得審査委員會ヲ置ク

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人
二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者府縣ニ在リテハ各一人
北海道ニ在リテハ四人

所得審査委員會、審査委員及其ノ補闕員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ給ス

第六十四條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者收入豫算年額四分ノ一以上ヲ減損シタルトキハ政府ニ所得金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

所得金額決定後贈與ヲ爲シタル爲所得金額ヲ減損シタル場合ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第六十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ所得金額ヲ査覈シ收入豫算年額ニ對シ四分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第六十六條 納稅義務者第六十條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限
第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限
第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第六十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ所得稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第六十九條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收セラルル税金ヲ納付セスシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第七十條 第六十三條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第七十一條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ稅務署所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ政府ハ納稅義務者ノ住所、居所以外、住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スヘシ

第七十二條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、居所、住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

本法施行地ニ住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府

ニ申告スヘシ申告ナキトキハ政府其ノ納税地ヲ指定ス
第七十二條 納税義務者納税地ニ現在セザルトキハ其ノ所得ノ申告、納税其ノ他所得税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲メ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サトスルトキ亦同シ

第七十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ所得税ヲ通脱シタル者ハ其ノ通脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス
前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得税ヲ通脱シタル者ノ所得金額ハ第二十五條第一項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第七十四條 正當ノ事由ナクシテ第五十五條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書ヲ提出セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其提出ニ係ル支拂調書ニ付第五十五條第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第七十五條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用井ス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得税ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十五條ノ規定ハ大正九年分所得税ニ付テハ之ヲ適用セス

賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ從前ノ規定ニ於テ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ本法施行前ニ於ケル收入金額ニ限リ、銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金ノ利子ニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限リ大正九年分第三種所得トシテ計算ス

第七十八條 所得税法ニ依リ所得税ヲ課セラレタル人又ハ所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ免除セラレタル法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ニ屬スル第十三條第一項第四號及第五號ノ所得其ノ他本法施行前ニ於ケル第十三條第一項第四號ノ所得ニ付テハ本法ヲ適用セス

第七十九條 本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第八十條 法人ノ超過所得ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ大正十年七月三十一日ニ至ル間ニ終了スル各事業年度分ノ超過所得ニ限リ本税ノ比割七分増徴ス
大正九年七月一日以後ニ於テ法人ノ事業年度ノ期間ニ變更アリタルトキハ前項ニ該當スル舊事業年度ノ期間内ニ始期又ハ終期ヲ有スル各事業年度分ノ超過所得ニ付テハ本法ニ依リ所得税ヲ課シ仍本税ノ比割七分増徴ス

第八十一條 所得調査委員及所得審査委員ニ關シテハ大正十年五月一日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ從前ノ規定中八月三十日トアルハ九月三十日トス從前ノ規定ニ依ル所得調査委員、補員及所得審査委員ノ任期ハ大正十年五月一日ヲ以テ終了ス

第八十二條 第三種ノ所得ニ付テハ大正九年分所得税ニ限リ第一期ノ納期ヲ大正九年十月一日ヨリ三十一日限トス

第八十三條 所得税法ハ當分ノ内小笠原島及伊豆七島ニ之ヲ施行セス

第十六 所得税ノ施行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(報告)

報告書
一 所得税法ノ施行ニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正九年七月十二日
所得税法ノ施行ニ關スル法律案委員長 松田 源治
衆議院議長與繁三郎殿

第十七 酒造税法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(報告)

報告書
一 酒造税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正九年七月十二日
酒造税法中改正法律案委員長 松田 源治
衆議院議長與繁三郎殿

第十八 酒精及酒精含有飲料税法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(報告)

報告書
一 酒精及酒精含有飲料税法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正九年七月十二日
酒精及酒精含有飲料税法中改正法律案委員長 松田 源治
衆議院議長與繁三郎殿

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十二日

酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案委員長 松田 源治

衆議院議長奧繁三郎殿

第十九 麥酒稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一麥酒稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十二日

麥酒稅法中改正法律案委員長 松田 源治

衆議院議長奧繁三郎殿

第二十 明治四十一年法律第二十四號中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一明治四十一年法律第二十四號中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十二日

明治四十一年法律第二十四號中改正法律案委員長 松田 源治

衆議院議長奧繁三郎殿

第二十一 明治四十一年法律第二十一號中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一明治四十一年法律第二十一號中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十二日

衆議院議長奧繁三郎殿

明治四十一年法律第二十一號中改正法律案委員長 松田 源治

衆議院議長奧繁三郎殿

(松田源治君登壇、拍手起ル)

○松田源治君 今議題ニナリマシタル所得稅法改正法律案外六件ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、本議案ハ増稅ニ關スル重要ナル案デアリマスカラ、委員會ニ於テハ慎重審議ヲ盡シマシテ、委員會ヲ開クコト六回、各關係國務大臣及政府委員ノ出席ヲ求メマシテ、質問應答ヲ重ネテデアリマス、其實問應答ハ諸君ニ配付サレテ居ル所ノ速記録ニ明カデアリマスカラ、省略致シテ置キマス、昨日討論ニ入りマシテ、政友會ノ三土忠造君カラ所得稅改正案ニ就テ、修正案ガ提出サレタノデアリマス、其修正案ハ今日諸君ノ御手許ニ配付サレタヤウデアリマス、浩瀚ノモノデゴザイマスカラ、一々委員長ガ朗讀致シマセヌ、而シテ茲ニ修正ノ原則ヲ述ベタ方ガ便宜デアリ、且ツ明瞭デアラウト思フ、其修正ノ原則トスベキモノハ、法人ノ配當金ヲ第一種ノ所得ト致シマシテ、之ニ百分ノ四ノ稅率ヲ課稅スルコト、即チ原案ニ無カッタ所ノ配當所得ト云フモノヲ、第一種ノ所得ト致シマシテ、之ニ百分ノ四ノ稅率ヲ課稅スル、是ガ第一ノ原則デアリマス、第二ハ如何ナル原則デアルカト申シマスレバ、此百分ノ四ヲ課シテ得タル財源ニ依リマシテ、第三種ノ所得ヲ輕減シヤウ、ソレハ原案ニハ配當金ノ控除ノ割合ガ二割デアリマシタノヲ、之ヲ三割トシ、ソレカラ第三種ノ所得稅ノ稅率ヲ輕減スルノデアリマス、ソレハ如何ニ輕減スルカト申シマスレバ、原案ニ就テハ八百圓以下ノ金額ハ百分ノ一デアリマシタ、ソレヲ半分ニシマシテ百分ノ〇・五、是デ今マデモ色々非難ガアリマシタル、選舉權トノ調和ガ出來ルノデアリマス、現行ノ所得稅法ニ依リマシタル、所得稅ノ最低額ハ十圓五十錢デアリマス、ソレカラ政府原案ニ依リマシテモ六圓ニナリマス、然ルニ選舉權ハ三圓納ムレバ有スルコトガ出來ルノニ、政府ノ原案ノヤウニシマスレバ、六圓納メテ始メ得ルコト云フ、之ヲ半分ニシテ百分ノ〇・五ト致シマシタカラ、是デ三圓納メル人モ選舉權ガアルト云フコトニナテ、洵ニ選舉權トノ調和モ取レルコトニナタノデアリマス、ソレカラ八百圓ヲ超ユル金額ガ、是ハ原案デハ百分ノ一、五デアリマシタノヲ、百分ノ一ニ致シマシタ、ソレカラ千圓ヲ超ユル金額、千五百圓ヲ超ユル金額、二千圓ヲ超ユル金額、三千圓ヲ超ユル金額、之ニハ稅率ノ變更ハアリマセヌ、ソレカラ五千圓ヲ超ユル金額ハ、百

分ノ七「デアッタノヲ」百分ノ六・五、「ソレカラ七千圓ヲ超ユル金額ハ」百分ノ九「デアッタノヲ」百分ノ八、「一万圓ヲ超ユル金額」百分ノ十一「デアッタノヲ」百分ノ九・五、「一万五千圓ヲ超ユル金額」百分ノ十三「デアッタノヲ」百分ノ十一・二「二萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ十五「デアッタノヲ」百分ノ十三・三「三萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ十七「デアッタノヲ」百分ノ十五・五「五萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ十九「デアッタノヲ」百分ノ十七・七「七萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ二十一「デアッタノヲ」百分ノ十九・九「十萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ二十三「デアッタノヲ」百分ノ二十一・二「二十萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ二十五「デアッタノヲ」百分ノ二十三・五「五十萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ二十七「デアッタノヲ」百分ノ二十五・九「百萬圓ヲ超ユル金額」百分ノ三十「デアッタノヲ」百分ノ二十七・二「二百萬圓ヲ超ユル金額ハ」之ヲ「百分ノ三十」ト致シタノデアリマス、三百萬圓ヲ超ユル金額「百分ノ三十三」・四百萬圓ヲ超ユル金額「百分ノ三十六」・原案デハ「百分ノ四十四」マデアッタノヲ、一番最高ノ稅率ガ「百分ノ三十六」トナッタノデアリマス、斯ウ云フヤウニ稅率ヲ變更シテ、三種ノ稅率ヲ輕減シタノデアリマス、ソレカラ第三ニハ本年ハ此會社カラ個人ガ受クル配當所得ヲ綜合シナイノデアリマス、綜合シナイノデアリマスカラシテ、ソレデ此配當所得カラ稅ヲ取ルト云フト、大分金ガ餘ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、大正九年度ノ歳入豫算額ニ合致セシメル爲メニ、此原案デ申シマスルト八十條、修正案デ申シマスルト八十一條、此超過所得ノ「七割七分」トアッタノヲ六割一分ニ稅率ヲ減ジマシテ、是ガ改正案ノ大要デアリマス、此改正案ノ原則ヲ條文ニ拵エタマデ、アリマスカラ、條文ハ此爲デ朗讀致シマセヌ、ソレカラ數字ハ——斯ウ云フヤウニ致シマス、稅額ノ數字ハドウナルカト申シマスレバ、平年度ニ於テハ配當金ノ百分ノ四ヲ課スル爲メニ、第一種ノ所得稅ガ増シマス、ソレガ二千三百二十八萬三千六百十六圓増シマス、ソレカラ配當金ノ控除割合ガ增加致シマシタ爲メニ、三種ノ所得ガ減ジマス、ソレガ如何ニ減ズルカト申シマスレバ、一千四百二十九萬六千九百六十二圓減ジデアリマス、ソレカラ稅率ノ變更ニ依ル三種ノ所得ノ減ガ九百二十八萬六千九百六十二圓減リマス、差引收入減ガ二十九萬九千九百三十一圓ニナリマス、併シ其三種ノ所得ノ金額ガ減リマシタカラ、交付金モ隨テ減リマス——減少致シマスカラ、此減少ガ六十九萬八千三百八圓トナリマス、ソレデ差引キ致シマシテ增收ガ——矢張實際ノ增收ガ三十九萬八千三百

七十七圓トナリマス、ソレカラ九年度ノ稅額ハ如何ニナルカト申シマスレバ、配當金二百分ノ四ヲ課スル第一種ノ所得稅ノ増加ガ一千八百九千五百七十七圓、ソレカラ超過所得ニ對スル増徴ヲ六割一分ト減ジマシタカラ、其ノ減ガ四百七十三萬二千八百八十八圓トナリマス、ソレカラ稅率變更ニ依ル所ノ三種ノ稅ノ減ズルガ、五百四十萬七千八百八十八圓トナリマス、差引減ガ四萬七千六百四十圓トナリマス、併シ三種ノ稅額ガ減ジマシタカラ、交付金モ減少致シマスカラ、此減少ガ十六萬三千三百三十三圓トナリマス、ソレカラ之ヲ差引致シマスト云フト、實收増ガ十一萬二千四百六十三圓トナリマス、是ガ數字ノ關係デアリマシテ、數字ハ極ク増モ減モ餘リ差ガアリマセヌ、是ガ政友會ノ三土君カラ此所得稅ノ改正法律案ニ對スル修正デアリマス、此修正ヲ議題ニ供シマシタ所ガ、贊成ガアリマシテ、而シテ採決ヲ致シマシタ、採決ハ多數デアリマシテ、修正案ハ可決サレマシタ、ソレカラ此修正案ヲ除ク他ノ所得稅ノ原案ニ就テ決ヲ採リマシタ所ガ、是モ多數デ可決致サレマシタ、是ガ所得稅ノ結果デアリマスソレカラ其次ハ所得稅法ノ施行ニ關スル法律、是ハ其第一種ニ配當所得ト云フモノヲ拵ヘマシタカラ、第二條ノ丁上云フ字ガ「戊」ト直リマス、是ダケデ、字句ノ修正ガ當然ノ結果デアリマス、是ハ原案ヲ可決サレマシタ字句ヲ修正シテ「丁」ヲ「戊」ニ訂正シ、外ハ總テ原案ノ通り可決致シマシタ、ソレカラ酒造稅法中改正法律案、此討議ニ移リマシタ所ガ、憲政會ノ本田恆之君ヨリ修正案ガ提出サレマシタ、其修正案ハ第八條第二項ノ但書ヲ左ノ如ク改ムト云フ所ノ百分ノ五トアルノヲ、百分ノ六以內ニ改ム、貯藏減ト滓引減デアリマス、原案デハ百分ノ五以內トアルノヲ、百分ノ六以內ト修正スル、ソレカラ第十三條ノ金四圓ヲ七圓ニ改ムトアルノヲ、六圓ニ改ム、是ハ増稅ノ保證金デ、此修正案ガ出マシテ議題ニ供シマシタ所ガ、贊成者ガアリマシテ、議題トハナリマシタガ、採決致シマシタ所ガ、少數デ否決サレマシタ

故ニ酒造稅法中改正法律案ハ、原案ニ就テ採決致シマシタ所、原案ハ多數デ可決致シマシタ、其他ノ法律案、即チ酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案、麥酒稅法中改正法律案、ソレカラ明治四十一年法律第二十四號中改正法律案、明治四十年法律第二十一號中改正法律案、是ハ原案ノ儘確定致シマシタ、各派ノ黨議ノ內容ハ是カラ各派ノ討論スル諸君ガ、此壇上ニ於テ詳細論ズルコトデアラウカラ、私ハ省イテ置キマス、要點ハ憲政會國民黨ハ、一年延期ノ意味ヲ以テ所得稅法案ニ反對致シマシタ、庚申俱樂部ノ上田君、政友會ノ前田君ハ修正案ニ贊成致サレ

マシタ、而シテ前二報告シタ所ノ結果ニナッタデアリマス、是ガ委員會ノ經過並ニ結果ノ大要デアリマスカラ、御承知ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○上島益三郎君 重要ナル點ニ就テ質疑ガアリマス、發言ノ許可ヲ求メマス

○議長(與藤三郎君) 上島益三郎君ヨリ、委員長ノ報告ニ對シテ質疑ガアルト云フコトデアリマスカラ、此際質疑ヲ許シマス、上島益三郎君

マシタ、而シテ前二報告シタ所ノ結果ニナッタデアリマス、是ガ委員會ノ經過並ニ結果ノ大要デアリマスカラ、御承知ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○議長(與藤三郎君) 上島益三郎君ヨリ、委員長ノ報告ニ對シテ質疑ガアルト云フコトデアリマスカラ、此際質疑ヲ許シマス、上島益三郎君

セルト云フコトハ、立憲政治ノ精神ニ悖ルモノデアル、義務ヲ負ハシタ以上ハ、義務ヲ履行シタ者ニ對シテ尊敬ヲ拂ヒ、權威ヲ認ムルガ當然デアル、ソレカラ尙ホ第二十六條ニ依ルト「稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシ」稅務署長ガ勝手ニ調査ヲシテ、其ノ調査ノ書類ヲバ所得稅調查委員會ニ廻スト云フコトガアル、肝腎ノ法律ノ制裁ヲ附シテ、嘘ヲ吐イタラ懲役ニ行クソト云フヤウナ、強イ制裁ヲ附シテ申告セシメタ所ノ其申告書ヲ、稅務署長ガ机ノ抽斗カ本箱ノ底ニ抛リ込シテシマツテ、調査委員ノ手許ニ廻スコトスラ命ジナイハ甚ダ不審デアル、折角義務ヲ負ハシ、制裁ヲ附シタル各所得稅納稅者ノ申告ト云フモノニ對シテ、法律上如何ニ之ヲ處理シ、而シテ其義務ノ結果ハ法律上如何ナル程度ニ於テ、其權威ヲ認メテ尊敬スルカト云フコトハ不明デアル、此三點ニ對シテドウカ満足スベキ御說明アラシコトヲ希望致シマス(拍手スル者アリ)

○松田源治君 今ノハ委員會デ餘リ委シイ質問ガ無いノデアリマス、委員長ハ委員會ノ經過並ニ結果ヲ報告スルニ止マルノデアリマス、今ノ上島君ノ質問ハ、幸ニ國務大臣、大藏省ノ政府委員ガ出席セラレテ居リマスカラ、國務大臣及政府委員ニ御聽ニナツタ方ガ、質問者モ満足ヲ得ラレ、且ツ便宜デアラウト思ヒマス

○上島益三郎君 然ラバ大藏大臣ノ説明ヲ求メマス

○政府委員(松本重威君) 議長

○議長(與繁三郎君) 松本政府委員

○上島益三郎君 重要ナル問題デアリマスカラ、成ベク大臣ノ説明ヲ願ヒタイ

〔政府委員松本重威君登壇〕

○政府委員(松本重威君) 今ノ御質問ニ御答致シマス、法人ノ課稅所得ヲ算定シマスニ就テハ、法人ニ繰越缺損金ガアリマシタ場合ニ於テハ、之ヲ控除致スコトニ致シテ居リマス、ソレハ法人ノ總益金總損金ト云フモノ、定義ハ、特ニ法律ニ附シテ居リマセヌケレドモ、是ハ解釋アス様ニ決定致シテ居リマス、何トナレバ總益金ト申シ總損金ト申シ、其内容ハ頗ル種々雜多デアリマスカラシテ、一々之ヲ法律ニ明記スルノ煩ヲ避ケテ、解釋デ右ノ如ク致シテ居ル次第デアリマス、ソレカラ第二ノ資本金ノ計算ニ於テ、毎月末ノ金高ヲ計算シテ居ル、隨テ毎月末ニ於テ缺損金ガアツタナラバ、其缺損金モ矢張平均ノ中ニ加ヘルノハ、不當デハナイカト云フ御話デアリマスケレドモ、法人ノ益金ナルモノハ、一事

業年度ヲ通ジテ計算致シマス、隨テ其資本金モ一事業年度ヲ通ジタル所ノ平均ニ依ルト云フコトハ、當然ノ結果デアリマス、隨テ毎月末ノ現在ヲ平均シテ繰越缺損金ノアル場合ニ於テモ、其繰越缺損金ヲ通算スルコトハ當然ノ事デアラウト思ヒマス、其次ニ二十五條ノ規定ニ第一種ノ所得、即チ法人ノ所得ハ申告ニ依リ、若シ申告ナキトキ、或ハ申告ヲ不當ナリト認メタルトキハ、政府ノ調査ニ依テ之ヲ決定スル、然ルニ第三種ノ所得ハ申告ニ依ル、或ハ申告ヲ不當ト認メタルトキト云フヤウナ場合ヲ規定セズニ、イキナリ所得調査委員會ノ調査ニ依テ、政府之ヲ決定スルコト云フコトハ、亂暴デアル、斯様ナ御質問ト承リマシタガ、第三種ノ所得、即チ個人ノ所得ト雖モ勿論申告ヲ徵シマス、而シテ此申告ニ重キヲ措イテ調査致シマスノミナラズ、特ニ所得納稅者中ヨリ選舉セラレタル所ノ所得調査委員會ノ調査ニ付議シテ、然ル後之ヲ決定スルノデアリマスカラ、此關係ヨリ申シマスルト、第三種即チ個人ノ所得決定ニ就テハ、法人ヨリモ尙ホ一層鄭重ニ致シテ居ルモノト御了解ヲ願ヒタイ、其次ニ第二十六條ニ稅務署長ハ毎年第三種ノ所得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スヘシト云フ規定ガアルガ、是ハ唯今ノ御質問ニ依リマスルト、申告ヲ待タズシテ勝手ニ調査ヲシテ、勝手ニ所得稅ヲ決定スルノハ、不穩當デアルト云フヤウナ御意見ノヤウニ承リマシタガ、勿論所得稅ハ申告稅ニナツテ居リマス、併ナガラツイ申告ヲ怠ル者ガアリマス、其申告ヲ怠ル者ノ中ニハ、故意ニ怠ル者モアリ、或ハ故意デナクトモ、ツイ忘レテ申告ヲシナイ場合モアリマス、法律ニハ如何ニ規定シテアリマシテモ、事實納稅資格アル者ガ漏ナク申告スルト云フコトハ、到底實行上望ミ得難イ次第デアリマス、ソレデアリマスカラ、稅務署長ハ、毎年其所轄管内ニ於ケル所ノ納稅義務アリト認ムル者ノ所得金額ヲ調査シテ、之ヲ調査委員會ニ付議シテ決定スル、斯様ナ次第ニナツテ居リマス、勿論法律ノ立場カラ申シマシテモ、納稅義務アル者ノ申告ガナクテモ、此手續ニ依テ決定セラレタラバ、自然納稅義務ヲ生ズルコトニナルノデアリマスカラ、申告ナクとも調査スルノハ當前デアラウト思ハレマス、是デ御了解ニナツト存ジマス

○議長(與繁三郎君) 是ヨリ討論ニ移リマス——本田恒之君

〔本田恒之君登壇、拍手起ル〕

○本田恒之君 諸君、本員ハ政府案及政友會ノ修正案、ソレニ反對ヲ致スモノデアリマス、聊カ其反對ノ理由ヲ申上

ゲマス、所得稅ト云フ稅法ハ、御承知ノ通り我國ノ稅ノ組織ニ於キマシテ、最も重要ナル位置ヲ占メテ居リマスルモノデアリマスカラ、此稅法所定ノ如何ニ依リマシテハ、産業ノ發達、經濟ノ消長ニ重大ナル關係ガアリマス、故ニ輕々ニ斯ノ如キ法律ヲ規定スベキモノデナイコトハ、更ニ申上グル必要モアリマセヌ、一體此稅法ヲ政府ガ提案サレマシタル沿革ヲ考ヘテ見マサルニ、政府ハ四十二議會ニ於テ、此所得稅法改正案ヲ國防計畫ト結付ケマシテ、國防計畫ヲ遂行スル爲メニ、其財源ガ必要デアル、ソレ故ニ其財源ヲ此所得稅ニ求メタルデアルト云フノデアリマス、國防計畫ト結付ケマシテ、提案ニナツタデアリマス、斯ノ如キ重大ナル稅法案ヲ通過スルニ方テ、之ヲ國防計畫ニ結付ケラル、ト云フノハ、我々ハ甚ダ其當ヲ得ヌト考ヘテ居リマス、併ナガラ政府ハ國民ノ愛國心ヲ刺戟シテ、此案ノ通過ヲ容易ナラシメルト云フ策略ノ上カラ申シマシタナラバ、或ハ其策略ノ當ヲ得タモノデアルカモ知レマセヌガ、我々ガ此增稅案ヲ見マスルトハ、必シモ國防計畫ト云フモノト、原因結果ノ關係ヲ成シテ居ルモノデナイト考ヘテ居リマス、如何トナレバ諸君御承知ノ通り、此豫算案ニ現レテ居リマス我々ガ歳出ノ狀態ヲ審查致シテ見マスルニ、物價騰貴ノ爲メニ、約三億圓ト云フモノガ歳出増加ニナツテ居リマス、若シ政府ニシテ適當ノ時機ニ於テ、物價騰貴ヲ抑制スルコトガ出來マシタナラバ、必シモ斯ノ如キ增稅案ヲ提出致シマセヌガ、普通ノ歳入ニ於テ此國防計畫ノ問題ヲ解決シテ餘アルト云フコトハ、明白ナル道理デゴザイマス、一面ニハ非常ニ物價ノ騰貴ヲ其儘ニ致シテ置イテ、歳出ノ不足ヲ——特ニ此ニ至ツテ歳出ノ補充ヲ致シマス爲メニ、增稅計畫ヲ致スニ方テ、是ハ國防計畫ノ財源デアル、國防計畫ト因果ノ關係アル如ク結付ケテ出シタト云フコトハ、政府トシテハ、此案ノ通過ヲ容易ナラシムルト云フ策略カラ來タノカ知リマセヌガ、此增稅ヲスル必要ノ起リタ原因ハ、物價騰貴ニ在ルト云フコトハ、此豫算案ヲ御通覽ニナツタ方ハ疑ハナイコト、考ヘマス、ソレ故ニ本案ヲ決定致シマスニ就キマシテハ、ソレト國防問題——國防計畫ト云フモノモ、勿論此案ヲ決定スルノ參考ニ供シナケレバナリマセヌガ、主トシテ此案ヲ決定スベキ重要ナル論點ハ第一ハ案其モノ、内容ガ完全ニ出來テ居ルヤ否ヤ、第二ハ他ノ稅法トノ關係、例ヘバ地租トカ營業稅等トノ關係ガ、均衡ヲ得テ居ルヤ否ヤ、第三ハ此增稅ヲ斷行スベキ時期其モノガ適當シテ居ルヤ否ヤ、此三點ヨリ觀察スル必要ガアルト思ヒマス、以下私ハ此三點ヨリ簡單ニ卑見ヲ申上ゲマスガ、第一政府ハ四十二議會ニ於テ、此案ヲ提出致サレタル

○議長(與繁三郎君) 是ヨリ討論ニ移リマス——本田恒之君

〔本田恒之君登壇、拍手起ル〕

○本田恒之君 諸君、本員ハ政府案及政友會ノ修正案、ソレニ反對ヲ致スモノデアリマス、聊カ其反對ノ理由ヲ申上

際ニ於ケル政府ノ態度ヲ觀察致シマスルニ 政友會ノ山本
 二郎君ニ依テ、政府ノ原案ニ對シテ大分ノ修正ヲサレタ
 ノデアリマス、所ガ政府ハ直チニ此山本君ノ修正ニ贊成ヲ
 サレマシテ、衆議院ダケハ通過致シマシタガ、貴族院ニ於テ
 此案ヲ審査ノ繼續中ニ解散ニナリテ、遂ニ成立スルニ至ラ
 ナカト云フコトハ、諸君御承知ノ通りデアリマス、ソコデ
 今度政府ガ提出致シマシタ案ハ、前ニ自己ガ編成シタ原
 案ハソコ退ケテ現レテ來タノデアリマスカラ、吾
 ノ觀察デハ、多分此案ハ其儘ニ通過スルデアラウト考ヘテ
 居リマシタ、所ガ再び政友會ノ三土忠造君ヨリ昨日ニ至
 テ提出サレ、今度又手嚴シキ修正ガ現ハレタト云フ奇現象
 ガ含マレテ居ル此案デアリマス、是ハ昨日マデノ經過ヲ申
 上ダタノデアリマスガ、此外形上ノ經過ニ依テ見マシテ
 モ、如何ニ此案ガ杜撰粗漏デアラウト云フコトハ、諸
 君ノ御贊成ヲ得ルコトガ出來ルデアラウト思フ、繰返シテ申
 上ゲマスガ、政府案ガ一旦出タニ對シテ、政府ノ與黨デア
 ル所ノ政友會諸君ノ修正ニ遭テ、政府ハ一モ二モナクソレニ
 贊成ヲ致シテ、其案ガ解散ニ遭テ不成立ニナリ、再び出テ
 來タ案ハ、今度ハ其修正案ヲ原案トシテ出シタ、然ラバ其
 原案ガ通過スルカト思フト、又再び與黨カラ手嚴シイ大修
 正ガ行ハレタ云フノガ、此案ノ現在ノ狀態デアリマス、ソレニ
 對シテ政府ハ如何ニスルカト申シマスルト、政府ハ唯々トシ
 テ又此修正ニ同意ヲシタ、一體私共ノ考ヘル所デハ、政府
 ガ斯ノ如キ重大ナル案ヲ提出スルニ方リマシテハ、十分ノ
 審議ヲ盡シマシテ、自己ノ確乎タル確信ノ上ニ之ヲ提出
 シナケレバナラヌ、國民ノ利害ニ重大ノ關係ガアル、産業
 經濟ノ發達ニ非常ノ影響ノアル、斯ノ如キ重大ナル案ヲ出
 スニ方リマシテハ、十分ニ審査ヲ遂ゲ、此案ト云フモノハ假
 令何一ツト雖モ、此案ニ手ヲ觸レサセナイト云フ程ノ大確
 信ヲ以テ、提案ヲスルト云フコトガ、私ハ當前デアルト思フ、
 所ガ政府ガ此案ニ對シテ爲シタル狀態ハ、以上申上ゲマス
 通り、マルデ冗談ニデモ此原案ヲ提出シテ居ルカノ如キ態
 度デアリマス、尙ホ政府ハ豫算委員會ニ於テ説明シテ申シ
 マスノニ、何故ニ四十二議會ニ於テ、山本君ノ修正案ニ對
 シテ贊成ヲシタカト云フ質問ヲ致シマシタ答辯ニ於テ、山本
 君ノ修正案ハ洵ニ名案デアアル、政府ノ原案ヨリモ名案デア
 ルカラ之ニ贊成シ、之ヲ拜借シテ政府ノ原案トシテ今度出シ
 マシタノデアアル、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、所ガ四月前ニ改メ
 最モ政府ノ提出シタ原案ノ骨髓ニ觸レマシタ所ノ、詰マリ

原案ノ根本ヲ破壞スルト云テモ宜イ程ノ大修正ヲ加ヘ
 タ、如何ニ樂天的ノ其時ノ都合ニト云フヤウナコトニシテ
 切廻ス大藏大臣ト致シマシテモ、今度ノ修正案ニ對シマシ
 テハ、必ズヤ反對スルデアラウト考ヘテ、我ニカラ政府ノ態
 度ヲ質問致シマシタ所ガ、必シモ反對トコロデナク贊成デ
 アル、同意デアルト云フコトヲ明言サレマシタ、私ハ根本ニ
 於キマシテ、此政府ノ沒理想無確信ヲ以テ、斯ノ如キ重大
 ナル法案ヲ提出サレタト云フ態度ノ無責任ナルコトニ對シ
 テハ、實ニ驚キ言語道斷ノ至リト考ヘルノデアリマス、斯様
 ニ國家ノ盛衰利害ノ關係ヲ持チマス重大ナル案ヲ、何等ノ
 確信ナク、何等ノ理想ナク提出シタト云フ政府其者ノ態度
 ガ、甚タ不眞面目デアルト云フコトヲ以テ、私ハ遺憾ニ考ヘ
 マス、又一面カラ申シマス、内容ガ甚ダ不十分デアアル、政
 府ノ調査ガ甚ダ不徹底デアルト云フコトヲ、此外形上ヨリ
 諸君ガ遠視セラレシコトヲ希望スルノデアリマス、少シク我
 我ガ案其モノ、内容ニ缺點ガ甚ダ多イト云フコトヲ考ヘル
 第一ハ留保所得稅ノコトデアリマス、留保所得稅ハ、會社
 ノ積立金ニ對シテ稅ヲ課スルデアアル、御承知ノ通り會社
 ト云フモノハ、造タ以上ハ其基礎ガ堅實ナケレバナラヌ、
 基礎ヲ堅實ニスルト云フ爲メニハ、積立金ヲヨリ多ク成ルベ
 ク多ク積立テラト云フコトハ當リ前ノ話デアアル、所ガ此稅法
 ニ於テハ、留保所得稅ト申シマシテ、會社ノ積立金ニ持ッテ
 行ッテ稅ヲ課スルト云フ規定ガアリマス、然ラバ之ヲ削除ス
 ルカト云フニ、彼ノ留保所得稅ニ對スル課稅ヲ削除致シマ
 スト、此稅法ノ仕組デハ、脫稅ガ自由自在ト云フ結果ニナリ
 マス、若シ留保所得稅ヲ課スルト云フコトガ、會社ノ發達
 ヲ害スルト云フ爲メニ、ソレヲ免スルト云フコトニ致シマスル
 ナラバ、會社ハ配當スベキ金ヲ配當セズニ、會社ニ悉ク留保
 致シマシテ、免稅ヲ圓ルコトガ適法ニ容易ニ出來ルト云フ
 結果ニナリマスカラ、之ヲ絕對ニ免稅スルト云フコトモ出來
 マセヌ、併ナガラ之ヲ原案ノ通り課稅スルト云フコトハ、會
 社ノ發達ニ如何ナル影響ヲ及ボスカト云フコトハ、餘程ノ
 考慮ヲ要スベキ、重要ナル論點デアルト考ヘマス、又其外ニ
 無記名株券ノ脫稅ノ方法デアルトカ、或ハ株券ノ流通性ヲ
 失ヒ、現在日本ノ隅ニマデ行ハレテ居リマス所ノ、商取引ニ
 關スル善良ナル慣習ヲ打破ルニ云フヤウナ事柄カラ考ヘテ
 見マスレバ、此法案ノ内容ニ至リマシテハ、實ニ缺點ダラケデ
 アリマス、斯ウ云フ點ニ就テハ、私ハ今回ノ委員會ニ於キマ
 シテハ、大藏大臣ニ質問致シマセヌガ、前回ノ委員會ニ於
 テ、段々質問ガ出マシテ、大藏大臣ハ、是ハ缺點ハ缺點トシ
 テ認メテ居ル、サウ云フコトヲ諸君ハ言フガ、是ハ斯ウシテ

防ギ得ルト云フコトノ辯解ガ出來ナイ法案デアアル、其脫稅
 ガ自由自在ニ出來ル穴ダラケノ法案デアラ、之ヲ防グ方法
 モ攻究シテ居ナイト云フノガ、此所得稅改正案ノ内容デア
 リマスカラ、斯ノ如キ杜撰ナル案ヲ以テ、此重大ナル所得稅
 ト云フモノヲ決スルノハ、私共ハ甚ダ宜シクナイト云フ考ヲ
 致シマシタ、是ガ第一ノ案其モノニ對スル我々ノ觀察デアリ
 マス、第二ハ稅法ノ改正ガ他ノ地租若クハ營業稅其他ノ
 租稅ト、如何ナル均衡ヲ保ッテ居ルカト云フコトヲ研究シナ
 ケレバナリマセヌ、是ハ併ナガラ中ノ重大ナル事柄ガ非常ナ
 難事業デアアル、所得稅ト營業稅、若クハ地租、其他營業稅
 ト云フ如キ、直接國稅ノミヲ以テ並ヘテ見マシテ、比較致シ
 テ見マシテモ、果シテ均衡ヲ保ツヤ否ヤト云フコトヲ調査致
 シマスニハ、非常ナ長キ時日モ要シマセウシ、色々ナ材料ヲ
 必要ト致シマス難事業デアリマス、併ナガラ之ヲ審査セズニ
 置クト云フ譯ニハ行キマセヌ、如何ニ難事業デアラ、之ヲ
 調査甄別スル必要ガアルノデアリマス、然ルニ此期間ノ短
 イ特別議會ニ於キマシテ、之ヲ審査スルト云フコトハ事實
 上不可能デアアル、(拍手起ル)我々ハ此點カラ考ヘテ見マシ
 テモドウモ今之ヲ實行スルト云フノハイケナカラウト考ヘ
 マス、幸ヒ政府ノ説明スル所ニ依リマスレバ、目下財政經濟
 調査委員會ニ、此所得稅モ付議シテ居ル、共ニ付議シテ、
 非常ニ勉強シテ審査シテ居ルト云フ報告モゴザイマスカラ、
 今ヤ財政經濟調査會ニ於テ、官民ヨリ委員ガ出マシテ、熱
 心ニ調査シテ居ルト云フコトデアリマスレバ、其調査ヲ待ッ
 テ、而シテ後ニ此完全ナル法案ヲ提案スルト云フノガ、國家
 ニ對スル相當ノ處置デアリマセヌカ、(拍手起ル)然ルニ政
 府ハ倉皇トシテ此案ヲ提出シタ、他カラ修正ヲ受ケレバ、
 右ニ引廻サレテモ、左ニ引廻サレテモ、其主義ヲ沒却サレテ
 モ、其率ガ變更サレテモ、一言ノ異議ヲ言ハス、唯々諾々トシ
 テ之ニ追從スル政府ノ醜態態度ト云フモノハ、此有様カラ
 申シマシテモ、唯今之ヲヤルベキ時機チヤナイト考ヘル(拍
 手起ル)我々ガ政府カラ廻サレマシタル所ノ參考書ニ依リマ
 スレバ、所得稅改正ニ對スル建議及陳情書ト云フモノノガ、
 東京、大阪、名古屋アタリノ商業會議所、其他ノ經濟機關
 カラ出テ居リマス、其意見書ヲ見マシテモ、一トシテ税金ヲ出
 サナイト云フ苦情ヲ言ウテ居ル者モアリマセヌ、稅ノ均衡ヲ
 得ナイ、各稅ノ均衡ヲ得ナイカラ、其均衡ヲ保タスベキ完全
 ナル稅ノ制定ヲ希望スルト云フノガ日本ニ於キマスル各有
 カナル經濟機關カラ、建議若クハ陳情致シテ居リマス所ノ
 要旨デアリマス、稅ハ均衡ヲ得セシムルト云フコトガ非常ニ
 必要デアアル、若シ均衡ヲ得マシタナラバ、如何ナル重稅ト雖

モ國民ハ負擔スル併ナガラ若シ是ガ不公平ニ一不均衡ニ課稅サレマシタナラバ、國民ノ感覺、國民ノ苦痛ト云フモノハ非常ナモノデアリマス、之ガ爲メニ大藏大臣ノ御説明其儘申シマスガ、若シ此課稅ニ於テ不公平ガアツタナラバ、是ハ一大禍根デアリ、委員會ニ於テ大藏大臣ハ、各國ニ於ケル國亂ノ起ル原因ハ、大概稅ガ不公平ニ行ハレタノガ原因デアルト云フコトヲ、大藏大臣ガ委員會ニ於テ説明シテ居ル、我々モ左様ニ思フデアリマス、デアリマスカラ、此各稅トノ比較研究其均衡ヲ得セシメルト云フコトハ、稅法ヲ制定セシメル場合ニ於キマシテ、見道スベカラザル所ノ重要ナル點デアリ、所ガ何等ソコニ調査スルコトヲセズシテ之ヲ提案セラレ、之ヲ提案セラレタ大藏大臣ノ口カエ、稅ノ均衡ヲ失フ場合ニ於テハ、國亂ノ基トナル、各國ノ歴史ハ、之ヲ證明シテ居ルト云フ堂々タル演說ヲセラル、ニ至テハ、私ハ大藏大臣ノ意ノ存スル所ヲ村度スルニ苦シムデアリマス(拍手起ル)斯ウ云フ關係カラ我々ハ、幸ヒ政府ハ右申上ゲル財政經濟調査委員ニ之ヲ付託シテ、各種ノ稅、單リ此稅ノミナラズ、地租、營業稅、其他ノ稅、地方稅ニ至ルマデ調査ヲセシメツ、アルト申サレルカラ、其調査決定ヲ待テ完全ナル法案ヲ提出セラレタナラバ、我々必シモ此增稅ニ反對スルト云フ趣意デアリマセヌカラ、サウサレタラ宜カラウト云フノガ、私共ノ第二ノ意見デアリマス(拍手起ル)第三ハ此增稅ヲ行フニ就テノ時期如何、今ガ斯ノ如キ大増稅ヲ斷行スベキ相當ナル時期デアラヤ否ヤト云フコトヲ考ヘテ見マス、是ハ私ガ説明スルマデモナク、諸君ノ方ガ能ク御承知デアアル、今財界ノ混亂狀態ニ陥ッテ居ルト云フコトハ、説明スルマデモアリマセヌ、此財界ノ混亂狀態ニ陥ッテ居ル場合ニ於テ、斯ノ如キ大重稅、大ナル增稅ヲ其中ニ投込ムト云フコトノ爲メ家ノ亂暴ノ遺方ト云フモノガ、國家ニ如何ナル影響ヲ及ボスカハ説明スルマデモナイコトデアリマセウ、私ガ新聞雜誌ノ報道ヲ參酌シテ見マスルノニ、此我國財界ノ混亂ヲ惹起シタノニハ、種々ノ原因ガアルト云フコトデアリマスケレドモ、少クモ四十二議會ニ、政府ガ此所得稅改正案ヲ出サレタト云フコト、ソレガ之ヲ助長シタ所ノ一原因デアルト云フコトハ、今日ノ殆下輿論デアルト考ヘル(拍手起ル)ソレニ財界未ダ治ラズ、各人戰々競々タル有様デ居ル場合ニ、斯ノ如キ大増稅ヲ以テ政府ガ此財界ニ臨マウト云フコトニ至リマシテハ、大藏大臣ノ所謂國亂ヲ惹起ス原因ニハナラナイマデモ、少クモ國內ノ安靜ヲ妨ゲル一ノ原因ニナルデアラウト思フ(ヒヤ)ト呼フ者

アリ、拍手起ル)デアリマスカラ相當ノ時期ニハ財界ガ安定シマセウカラ、財界安定ノ時期ニ於テ、之ヲ提案セラレ、ノガ宜カラウト云フノガ、私共ノ考デアリマス、此案其物ノ上カラ考ヘ、又他ノ稅トノ比較ノ關係カラ考ヘ、又此提案ノ時期ト云フ三方面カラ觀察致シマシテ、我々ハ此原案ニ反對ヲ致シマス者デアリマス、斯様ニ何レノ點ヨリ觀察致シマシテモ、此稅法ヲ此儘此際ニ實行致スト云フコトハ、百害アツテ一利ナシ、斷ジテ此案ヲ通過セシムルハ、國家ノ爲メニ不利益デアルト私共ハ考ヘマスカラ、我々ハ一年延期ノ意味ニ於テ、此法案、否決シタイト云フノガ、我々ノ之ニ反對致シマス所ノ理由デアリマス(拍手起ル)併ナガラ本案ヲ延期致シマス爲メニ、少額所得者ニ對スル利益ヲ害スルト云フコトハ、甚ダ我黨ノ本意トセザル所デアリマスカラ、我黨ハ此缺點ヲ補フ爲メニ、一時的ノ立法ト致シマシテ、現行所得稅法ノ一部改正ヲ致シ、免稅點ヲ千圓以下ニマデ切上ゲマシテ、サウシテ切上ゲル計畫ヲ立テマシテ、之ヲ現在提案シテ居ルデアリマス、其詳細ハ此處ニアリマスケレドモ、之ヲ朗讀スルノハ無駄ナ時間ヲ費サデアラウト思ヒマスカラ、私ハ議長ノ許可ヲ得テ之ヲ速記録ニ登載シテ、我ガ現行所得稅ニ對シテ改正ヲ致シマシタ一般ノ趣意ヲ、諸君ニ御覽ヲ願ヒタイト考ヘマス、斯様ニ此案ニ反對致シマシテ、此案ガ否決ニナルト云フコト、ニナリマスレバ、茲ニ辻褃ノ合ハナイコトハ、歳出ニ不足ヲ生シマス、歳出ノ不足ヲ生ジマスガ、是ハ一時ノ事デアリ、我々ハ絕對ニ所得稅ノ改正案ニ反對スルノデアナイ、完全ナル案サハ提出サレ、バ、贊成ヲスルト云フノガ我々ノ態度デアリマスカラ、一時ノ不足ト云フモノニ對シマシテハ、幸ニ夥シキ剩餘金ガ我ガ國家ニアリマスカラ、此剩餘金ヲ流用補充致シマシテ、尙ホ他日完成シタル法案ヲ制定シタ場合、確定案デ財源ヲ造リマスマデハ、剩餘金ヲ流用シテ此歳出ノ不足ヲ補ヒタイト云フノガ我々ノ意見デアリマス、デ或ハ其剩餘金ヲ以テ、海軍擴張國防計畫ノ遂行ニ供セラレルモ宜シカラウ、其外ノ事ニ供セラル、モ宜シカラウ、要スルニ歳出ノ不足ニ對シテ、其不足分ダケハ剩餘金ヲ充當シテ、サウシテ一時ノ償ヲ付ケテ他日確定財源ヲ造ルト云フノガ我々ノ趣旨デアリマス、此點ニ就テ此後ニ反對セラレル論者ハ、必ズ此一時剩餘金ヲ以テ、國防計畫ノ財源ニ充當スルト云フヤウニ聞エルガ、左様ナ事ヲスルノハ危險デアリ、左様ナ不確實ナル基礎ノ上ニ國防計畫ヲスルト云フ論ガ、アルデアラウト考ヘマスケレドモ、私ハ政府ノ此原案ト雖モ、一時的ノ法律デアルト考ヘル、政府自身ガ言フヤウニ、財政經濟調査會ニ付議シテ居ルカ

ラ、其決定ニ依テハ、政府ハ其名案ニ從ウト云フコトハ、決シテ考デアイト云フコトヲ明言セラレル、政府ハ修正案デモ何デモ、名案々々ト言フテ服從スル態度ヲ執ラレラレ、アルカラ、恐ラクハ財政經濟調査會ノ決定查ニ對シテ、政府ハ直チニ之ヲ尊敬シテ服從スベキモノデアラウト推定致シマス、此見地カラ見マスラバ、政府ノ法律案ト雖モ、矢張一時的ノ立法事業ト見ルノガ相當デアラウト考ヘマスカラ、我々ガ一時剩餘金ヲ以テ此財源不定ヲ填補スルノモ、政府ノ此原案ニ基イテ、一時的ノ法律案ニ決シテ、所得稅ヲ徵收スルノモ其結果ニ於テハ同一デアリ、決シテ我々ハ此財政計畫ノ態度ガ、確乎不拔ナ堅實ナモノデアルトハ考ヘマセケレドモ、一時的ノ始末ヲ付ケルニハ、是レ以上ノ方法ガ無い、又斯様ニシタ方ガ國家ニ禍ヲ貽サズ、而シテ一時ノ始末ハ完全ニ出來得ルト思ヒマスカラ、前ニモ申上ゲマシタ通り、延期ノ意味ニ於テ、私ハ原案及修正案ニ反對ヲ致シマス(拍手起ル)

(參照)

所得稅法中左ノ通改正ス

第三條第一項第三種中「千圓以下ノ金額千分ノ三十」ヲ削リ「千圓ヲ超ユル金額千分ノ四十」乃至「三千圓ヲ超ユル金額千分ノ七十」ヲ左ノ如ク改ム

千五百圓以下ノ金額	千分ノ二十
千五百圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十
二千圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十
三千圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十
五千圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十

第四條ノ五第一項ヲ左ノ如ク改ム

第三種ノ所得ニ付前二條ノ規定ニ依リ算出シタル金額二千圓以下ナルトキハ二百圓ヲ其ノ所得ヨリ控除ス

第六條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

附則

本法ハ大正九年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

○議長(奧繁三郎君) 三土忠造君

〔三土忠造君登壇 拍手起ル〕

○三土忠造君 諸君、本員ハ唯今日程ニ上テ居リマス所ノ增稅ニ關スル諸案ニ就キマシテ、委員長ノ報告通り、全部贊成致スモノデアリマス、政府ノ屢々聲明サレマシタ通り、此度ノ增稅計畫ナルモノハ、國防充實ノ必要上、財源ノ缺陷ヲ補ウガ目的デアリマス、而シテ今日ノ稅法ノ下ニ於テ國民ノ擔稅能力カラ申シマシテ、最モ負擔ノ容易ナルモ

ノハ所得税、酒税、此二種ニ在ルト云フコトハ、殆ど天下議
論ノ無イ所デアリマス、就中酒造税ニ就キマシテハ、大體ニ
於テ第四十二議會ニ政府ガ本案提出ノ際以來、殆ど不贊
成ハ無カッタデアリマス、現ニ本院ニ於キマシテモ、憲政會
ノ諸君モ、國民黨ノ諸君モ、酒造税ノ増徴ニ就キマシテハ、
御反對ハ無カッタデアリマス、唯ダ所得税ニ就キマシテハ、
或ハ税法ノ内容ガ不完全デアルト云ヒ、或ハ増税其時機ニ
非ズト云ヒ、或ハ財政經濟調査會ノ審議ニ付シテ、一般稅
制整理ト共ニ之ヲ行フベシト云フヤウナ議論モアリマシタガ
大體ニ於テ國防充實其モノ、必要ナルコトニ就テハ、殆ど
國民反對スルモノハ無カッタ、國際聯盟條約ノ結果ニ依リ
マシテ、五大友邦ト共ニ世界人類ノ安寧幸福ヲ増進シ、殊
ニ東洋ノ平和維持ノ爲メニ、帝國ハ主ナル責任ヲ帶ビナケ
レバナリマセズ、此帝國ノ重大ナル使命ニ鑑ミマシテ、國防
ノ充實ノ必要ナルコトハ、我が六千万同胞ノ認ムルノミナラ
ズ、世界識者ノ總テ認ムル所ト考ヘマス、(拍手起ル)隨テ此
場合ニ於テ、相當ニ確定財源ヲ求メテ、國防ノ充實ヲ一日
モ早ク遂行スルト云フコトハ、最早茲ニ喋々ヲ要スル必要ハ
無イト思ヒマス、我々ハ四十二議會ニ於キマシテ、政府ノ提
案ニ就キマシテ、大體ハ同意デアリマシタ、唯ダ新タニ根本
的所得税ノ改正ヲ致シマスニ就キマシテ、急激ナル變化デ
アリマスカラ、慎重考慮ノ上、政府案ニ對シテ多少ノ修正ヲ
加ヘタルデアリマス、然ルニ今回又更ニ修正ヲ加ヘマシタニ
就キマシテ、唯今憲政會ヲ代表シテ本田君ハ、大藏大臣ガ
責任ヲ帶ビテ此案ノ提案ヲ致シ、四十二議會ニ於テ、非常
ナル修正ヲ受ケテ之ニ賛成、今亦本員ガ委員會ニ於テ提
出致シマシタ修正案ニ對シテ賛成致シタ、殆ど大藏大臣ハ
確乎タル定見ガ無イヤウニ非難サレタデアリマス、(其通
リト呼フ者アリ)我々ハ大藏大臣ガ我々ノ修正ニ對シテ、
同意ノ雅量ヲ示サレルトニ就キマシテハ、滿腔ノ敬意ヲ表
スルモノデアリマス、何故ナラバ元來カラ申セバ、税法ノ改正
上云フモノハ、經濟界ノ狀況如何ニ拘ラズ、一定ノ方針ヲ
以テ進ムベキデアリマスケレドモ、所得税ノ改正ノ如キハ、非
常ニ重大ナル問題デアリマス、申スマデモナク所得税ハ稅ノ
大宗デアリマス、之ヲ改正スルニ就キマシテハ、始メテ之ヲ實
行スルデアリマスカラ、之ヲ實行致シマス最初ノ時期ノ經
濟界ノ狀況上云フモノハ、餘程考慮ヲ加ヘナケレバナラズ、
然ルニ四十二議會ニ提案致シマシタ時ヨリモ、昨今ノ狀況
デハ、經濟界ニ一大變化ヲ來シテ居ルデアリマス、(ナラ
ズ、我々ハ此大體ノ主義ニ於テハ賛成デアリマスガ、而シテ
又政府ノ理想ト致シテ居ル所ノ綜合累進之義ハ、近來ノ

社會政策ノ方針ニ基ツキマシテ、最も賛成スル所デアリマス
唯ダ急激ナル變化ヲ致シマスル爲メニ、是迄ノ習慣ニ合ハ
ズ點ガアリマス、元來カラ申セバ我國ノ現行所得税法ハ、綜
合累進主義デ出來テ居ルデアリマス、唯ダ之ヲ制定致シ
マシタ當時ノ經濟界ノ事情ニ鑑ミテ、資本ノ合同、工業、商
業ノ發達ヲ増進スル爲メニ、特ニ株式會社ノ配當ニ限リ、
一定ノ定率ヲ課シテ居タデアリマス、然ルニ今回之ヲ綜
合スルト云フコトニナタノデアリマスガ、最早今日デハ我日
本ノ國ノ經濟界ノ發展ハ、隨分目覺シキモノガアリ、隨テ國
民ノ資本ノ非常ナ部分ハ、株式ニ投資サレテ居ルデアリ
マス、其上戰後世界全體ノ思想ノ動搖、經濟界ノ變化等
ニ鑑ミマシテ、何レノ國モ益、社會政策ニ重キヲ措キマス時
代デアリマス、此時代ニ於キマシテ税法ノ改正ヲスルニ方
テ、ドウシテモ今日迄ノ現行ノ儘ニハ拾遺クコトハ出來マセ
ズ、又世間一部ノ人々ハ、或ハ現行所得税法ノ儘ニシテ、唯
ダ國防充實ノ費用ニ必要ナル經費ダケヲ、率ヲ増進シテ徵
收スルコトニ致シタラドウカト云フ議論モアリマスケレドモ、
今日ノ經濟界ノ發展ノ結果、又貧富隔絶ノ結果、現行稅
法ガ既ニ不權衡極マルモノデアリマス、苟モ之ヲ改正致シ
スルニ就キマシテハ、ドウシテモ土壘カラ變ヘテ掛ラナケレ
バナラズ、政府ノ最初ノ提案ハ、土壘ノ改造ガ過ギタト云フ感
ガアルデアリマス、元來是マデ株式ノ所得ニ就キマシテモ、
法人ノ所得トシテ株式會社ニ於テ、各、百分ノ七、五ノ課稅
ヲ致シテ居ルデアリマスケレドモ、長イ間ノ習慣ト致シマシ
テ、個人ノ所得シタ上デ課稅セラレマセヌ關係カラ致シマシ
テ、個人ノ所得ニ對シテ課稅ハ、無稅デアルカノ如キ感ヲ
恰モ法人ノ所得ニ對シテ課稅ハ、少シモ株式會社ノ
致シテ居ルデアリマス、此場合ニ於テ、少シモ株式會社ノ
配當ニ課稅セズ、全部之ヲ個人ニ綜合スルコトニ致シマス、
ルト、如何ニモ急激ナル變化ノヤウナ感ガ致スデアリマス、
故ニ我々ハ是等ノ點ニ考慮ヲ加ヘ、相當ノ修正ヲ致シタ次
第デアリマス、憲政會ノ本田君ハ、政府ノ態度豹變ヲ痛ク
非難サレマスケレドモ、此増稅計畫ニ就キマシテ、憲政會ノ
態度モ亦甚シキ豹變ナリト謂ハナケレバナリマセズ、何故ナ
ラバ、四十二議會ニ於キマシテハ、所得税ニ就キマシテハ、一
年延期論デアリマシタガ、酒造税法ノ改正ニ就キマシテハ、
全然同意ヲサレタデアリマス、然ルニ僅ニ三四箇月ノ後ニ
於テ、今日ノ議場ニ於キマシテハ、酒造税ハ全然反對デア
ルカト私ハ思フデアリマス、(ノウ)「間違テ居ル」ト呼
フ者アリ)酒造税ハ賛成デスカ——唯今ノ本田君ノ御演說ヲ
伺ヒマスルト、委員長報告ニハ全部反對ト云フヤウナコトニ
承テデアリマス、(間違テ居ル)ト呼フ者アリ)ソレデハ私

ノ聽誤デアリマシタ、(頭ガ惡ルイニ默テ聽ク)ト呼フ者ア
リ)憲政會ノ延期論ノ理由ト致シマシテ、第一ニ今日ハ所
得税ノ改正ヲ遂行スベキ時期デナイ、成程經濟界ノ狀況カ
ラ申シマスレバ、我々トシテモ若シ國防ノ充實ガ一年若クハ
二年ノ延期ガ出來マスルモノナラバ、増稅ハ致シタクナイノ
デアリマス、唯ダ四圍ノ事情ニ鑑ミ、國防ノ現狀ニ照シマシ
テ、之ヲ一日モ忽ニスルコトガ出來ヌト云フコトヲ固ク信ジ
マスルガ故ニ、此時期ニモ拘ラズ、所得税法ノ改正ヲ斷行セ
ザルヲ得ヌデアリマス、即チ國防充實ノ問題ト、税法ノ改
正トノ輕重ノ問題デアリマシテ、已ムヲ得ズ之ニ出デタ次第
デアリマスカラ、六千万國民ト雖モ、悉ク此政府ノ計畫並ニ
我々ノ賛成スル所以ヲ十分諒トサレルトコト、考ヘマス、所得
税法改正ノ延期ニ就キマシテハ、國防充實ノ財源ヲ如何
ニスルカト申シマスレバ、本田君ノ御意見ニ依リマスルト、巨
額ノ剩餘金ガアルカラシテ、一時剩餘金ヲ繰入レテ置レバ
宜シイ、而シテ一年ノ間ニ稅制整理ヲ致シテ居ルデアルカ
ラ、總テノ稅制ノ整理ヲ待テ、其時ニ同時ニ改正ヲ致シタ
ラ宜イデアル、斯ウ云フ御議論デアリマス、我々ハ國防ノ
充實ト云フモノニ就キマシテハ、飽マデモ確定財源ヲ求ムル
コトヲ主張スルデアリマス、確定財源ナクシテ、一時ノ剩
餘金ヲ以テ、十數年ノ長キニ互ル國防充實ノ計畫ヲ立テ
ト云フヤウナコトハ、無責任ノ次第デアリマス、(拍手起ル)先
年大隈内閣ノ時ニ、防務會議ニ於キマシテ、例ノ八四艦隊
ノ計畫ヲ定メマシタ、議會ニ於テ是ガ計畫ノ遂行ノ豫算ヲ
出シマシタ時分ハ、僅ニ一巡洋戰艦ノ一箇年ノ費用ヲ要
求サレタデアリマス、此際ニ於テ我々同志ハ、其計畫ノ不
完全ナルコト、財源ノ不確實ナルコトヲ極力攻撃致シタノ
デアリマス、貴族院ニ於テモ同様ノ議論ガアッタ思ヒマスガ
左様ナル無責任ナル事ハ、私共ハ致シタクナイデアリマス、
(拍手起ル)苟モ巨額ノ金ヲ費シ、十數年ニ互ル國防計畫
ヲ立テマス以上ハ、ドウシテモ確定財源ヲ求メテ掛ラナケ
レバナリマセズ、故ニ茲ニ幾ラノ剩餘金ガアルト致シマシテモ、
此剩餘金ヲ以テ一時財源ヲ填補シテ、十數年ニ互ル國防
計畫ヲ立テルトコトハ出來ヌデアリマス、ソレカラ稅制ノ整
理ト申シマスルガ、此度ノ稅制整理ト云フコトハ、是マデノ
我國ニ於ケル稅制整理トハ非常ナル事情ガ違フデアリマ
ス、近代ノ經濟狀態ノ變化、人心ノ變化、殊ニ戰後ノ世界
的經濟狀態ノ變化、人心ノ動搖等ニ鑑ミマシテ、又一方ニ
於キマシテ多年問題トナシテ居リマス所ノ、地方稅制ノ整理
モ必要デアリマス、是マデノ稅制整理ノ如ク、現行税法ヲ或
ハ加ヘ或ハ減スト云フヤウナ、簡單ナル稅制ノ整理デアリ

マセヌ、此度ノ稅制整理ハ、中央地方ヲ通ジ、新タナル思想
 新タナル社會政策ニ基ツキマシテ、根本的ニ整理ヲ致サナ
 ケレバナラヌノデアリマス、斯様ナ場合デアリマスガ故ニ、一
 年ヤ一年半ノ簡單ナル事業デアリマセヌ、唯今モ本田君ガ
 述ベラレマシタ通り、容易ナ事業デナイ、殊ニ本田君ノ述ヘ
 ラレマシタ通り、所得稅、酒稅、地租、營業稅、其他諸般ノ
 諸稅ノ比較權衡ヲ考ヘマシテ、根本的稅制整理ヲ致シ、殊
 ニ中央地方ヲ通ジテノ稅制整理ヲ致スノデアリマスガ故ニ、
 餘程時日ガ掛カリ、餘程努力ヲ要スルノデアリマス、然ルニ
 僅ニ一年延期スルト申シマスルガ、最早只今ハ七月中旬デ
 アリマス、臨時議會ガ濟ミマスレバ、直チニ政府ニ於キマシテ
 ハ、大正十年度ノ豫算ノ編成ニ掛ラナケレバナリマセヌ、此
 數箇月ノ間ニ、此根本的ノ大事業タル稅制整理ヲ遂行シ、
 是下同時ニ國防充實ノ計畫ニ必要ナル財源ヲ備ヘテ、次ノ
 議會ニ出シテ來ルト云フコトハ、到底不可能ノ次第デアリ
 マス、左様ナコトヲ主張セラル、人ガ往々アルヤウデアリマス
 ケレドモ、是ハ行政整理ノ如何ナルモノカヲ解セナイト謂ハ
 ナケレバナラヌ、(ノウ)ト呼フ者アリ拍手スル者アリ)現
 ニ此度ノ所得稅法ノ改正ニ就キマシテモ、是マデノ株式配
 當ヲ個人ニ綜合致シマスル爲メニ、此一事ニ就キマシテモ、政
 府ノ調査ニ就テ如何ナル苦心ヲシタカト云フコトハ、諸君
 御存ジテ願ヒタシ、稅制整理一ツノ事ニ就キマシテモ、容易
 ナモノデアリマセヌ、故ニ我々ハ先ヅ國防充實ニ要スル財
 源ノ供給ノ爲メニ、所得稅法及酒造稅法ノ改正ヲ認メテ
 置クト云フコトハ、今日ノ場合已ムヲ得ヌト考ヘルデアリマ
 ス(拍手スル者アリ)ソレカラ四十二議會以來、憲政會ノ
 諸君ハ、政府ノ此度ノ増稅計畫ト云フモノハ、國防充實ニ
 名ヲ藉リテ居ルノデアアル、物價騰貴ノ爲メニ歳入ニ不足ヲ
 生ジテ、已ムヲ得ズ名ヲ國防充實ニ藉リテ、而シテ茲ニ増稅
 ヲ行フデアラウト、斯様ナ非難ガアツクデアリマスガ、今日又
 此非難ヲサレテ居リマス、併ナガラ苟モ豫算ノ歳入歳出ノ
 關係、此所數年間ノ實況ヲ御覽ニナシテ居ル御方ハ、斯様
 ナ議論ヲナサル者ハナイト考ヘマス、本員茲ニ四十二議會
 ノ豫算ノ討論ノ場合ニ於キマシテモ、此事ヲ數字ヲ舉ゲテ
 詳細ニ論議シテ居リマスルカラ、茲ニ重テテ論究スル必要
 ハ無イト考ヘル、而シテ日本ノ國民中デ左様ナ僻ミヲ持テ
 居ル御方ハ、憲政會ノ諸君ノ外一人モ無イト思フノデアリ
 マス、(ノウ)ト呼フ者アリ拍手スル者アリ)此度ノ所得稅
 法ノ改正ハ、勿論政府ノ聲明セル如ク、一時ノ増稅ニ過キ
 ナイノデアリマスルケレドモ、苟モ増稅ヲ致シマスル以上ハ、
 今日マデノ不權衡ナル基礎ノ上ニ立テルコトハ出來ナイ已

ムヲ得ズ一時ト雖モ、根本ノ土臺ヨリ改造シテ掛ラナケレ
 バナラヌ、是ニ於テ大體ノ方針ト致シマシテハ、是マデノ綜
 合主義ヲ擴充シテ、所得ノ大部分ヲ占ムル所ノ法人所得
 ヲモ亦個人ニ綜合致スト云フコトニ致シタノデアリマス、然
 ルニ法人ノ所得ナルモノハ、總所得ニ對シテ非常額ニ達
 シマスル爲メ、之ヲ一時ニ綜合シテ累進率ヲ課シマスルト
 云フト、一部ノ事業家、即チ財產ヲ主トシ株式ニ投ジ、若ク
 ハ借金ヲシテ事業ヲ經營シテ居リマスル、一部ノ人々ニハ
 非常ナル苦痛デアリマス、殊ニ昨今經濟界動亂ノ場合ニ
 於テ、一層其苦痛ガ甚シイノデアリマス、是ニ於テカ全國ノ
 實業團體カラシテ、各種ノ要求ガアリマシタ、我々努メテ是
 等ノ人々ニ接シテ論議ヲ圖ハシ、且ツ其實況ヲ研究致シマ
 シタ結果、急激ナル變化ヲ幾分緩和スルノ必要アリト考ヘ
 マシテ、法人ノ所得ニ對シマシテモ、矢張源泉ニ於テ一度
 課稅スル、僅ニ一百分之四ト云フ極メテ輕率ノ課稅ヲ致
 シ、其增收ニ依テ個人所得ノ稅率ヲ緩和致スト、斯様ニ致
 シタノデアリマス、抑モ所得稅法ノ改正ニ對シテ綜合累進
 率ヲ取ルト云フコトハ、世界ノ如何レノ國デモ行フ居ル事
 デアリマシテ、我ガ日本ニ於キマシテモ、此主義ニ反對スル
 人ハ無イ、今日此稅法ノ改正ニ對シテ延期論ヲ唱ヘラレル
 方デモ、此稅法其他ノ根本方針ニ就キマシテハ、不贊成ハ
 無イヤウデアリマス、唯チ此目前ノ四十二議會ニ於キマシテモ
 唯今モ憲政會ヲ代表サレマシタ本田君ハ、此點ハ極メテ杜
 撰デアル、不徹底デアル、故ニ今少シク研究ノ要ガアルカラ
 延期スルト云フコトモ、一ツノ延期ノ理由デアリマシタ、併
 ナガラ若シ此稅法ノ規定ニ於キマシテ不完全ナル所ガアル
 ナラバ、何故ニ修正案ヲ御出シニナラヌノデアリマス、此稅
 法ガ問題ニナリマシテ以來、既ニ半年ノ日子ヲ經テ居リマ
 ス、其間ニ於テ諸君ガ十分ニ御研究ニナレバ、十分其修正
 ガ出來ルノデアリマス、唯チ一部ノ缺點ヲ舉ゲラレマシテ、
 如何ニモ不完全ナ如ク申サレマスケレドモ、例ヘバ唯今御
 舉ゲニナリマシタ留保所得ノ如キ、其留所得ニ就キマシテ
 ハ、是マデノ稅法ニ於テモ、百分之七、五ノ稅率ガ課セラレ
 テ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、唯チ此度多少累進
 率ヲ課セルコトニナツクデアリマス、是ハ主トシテ政府ハ原
 案ニ對シテ、四十二議會ニ我々ガ修正ヲ致シタノデアリマ
 ス、綜合課稅主義ノ精神ヲ貫徹致シ、脫稅ヲ防止致ス爲
 メニ、已ムヲ得ズ此稅率ヲ課スルノデアリマス、若シ斯様ニ
 致サナカッタラバ、資本ノ尨大ナル會社ガ往々ニシテ、會
 社ノ社内ニ保留ヲ致シマシテ配當ヲ少クスル、斯ノ如クニ
 シテ、所謂天下ノ富豪ナル者ガ、頻々トシテ脫稅行爲ヲ爲

スト云フヤウナ憂ガアルノデアリマス、之ヲ防止致シマスル
 爲メ、而シテ又一方ニ於テ、個人ニ配當致シマシタル、第三
 種所得ノ累進課稅ト權衡ヲ得セシムル爲メニ、當然課稅
 シナケレバナラヌノデアリマス、苟モ綜合課稅主義——個人
 ノ所得ニ對シテ、法人ノ所得ノ綜合課稅主義ヲ認メマスル
 以上ハ、ドウシテモ此脫稅防止ノ方法及負擔ノ權衡上、此
 稅率ヲ課スルト云フコトハ已ムヲ得ヌノデアリマス、又其他
 ニ就キマシテ、此目前ノ議場ニ於キマシテモ、本田君モ段々例
 ヲ舉ゲテ御議論ニナリマシタガ、要スルニ我々ノ目カラ見マ
 スレバ、非常ナル簡單ナルモノデアリマス、凡ソ如何ナル國ノ
 稅法ニ於キマシテモ、如何ナル種類ノ稅法ニ於キマシテモ、
 世界ハ廣シ、歴史ハ長シト雖モ、未ダ嘗テ如何ナル方面ヨ
 リ見マシテモ、完全無缺ト云フ稅法ガアツク試シハアリマセ
 ス、唯チ稅法ヲ制定致シマスルニ就キマシテハ、各種ノ事情
 ヲ綜合シテ、其綜合致シタル事情ノ調和ノ上ニ決定スルノ
 デアリマスルカラ、一部々々ヨリ非難致シマスレバ、如何ナル
 稅法ト雖モ隨分不完全ナルモノデアリマス、我々ハ時代ノ
 要求ニ顧ミ、大體ニ於テ宜シキヲ制スルト云フヨリ致方ガ
 ナイノデアリマス、尙ホ我々ハ此度ノ修正ニ就テノ主要ナル
 點ニ就メマシテ、申述ベテ見タイト思フノデアリマス、前申シ
 マスル通り、法人ノ所得中配當所得ニ對シテ、百分ノ四
 ヲ課稅スルコトニ修正致シ、其財源ニ依テ、第三種所得ニ
 對シテ稅率ヲ緩和シタノデアリマスガ、其爲メニ殊ニ少額
 所得者ニ對シテ、非常ナル利益ニナルノデアリマス、既ニ政
 府ノ提案致シテ居リマス所ノ原案其モノガ、現行法ニ比シ
 テ非常ナル輕減デアリマス、現行法ニ於キマシテハ、千圓以
 下ニ對シテ特ニ特別控除ヲ致シマスルガ、千圓以上ニ對シ
 テハ特別控除ヲ致サヌノデアリマス、然ルニ政府ノ提案ニ
 依リマスル云フト、一万二千圓以下ニ對シテハ、一割ノ特別
 控除ヲ致シ、又六千圓以下ニ對シマシテハ、二割ノ特別控
 除ヲ致シ、其上一三、二千圓以下ノ所得者ニ對シマシテハ、老
 人子供ト云フヤウナ、扶養義務者ニ對スル特別ノ控除ヲ
 致スノデアリマスカラ、其結果トシテ是ダケデモ、非常ナル輕
 減ニナルノデアリマス、其上ニ稅率ノ輕減ガ、現行法ニ較ベ
 マスト、非常ナル差デアリマス、我々ノ修正致シマシタ所ニ
 依リマシテハ、極ク一一ノ例ヲ申シマスレバ、斯様ナ數字ニ
 ナルノデアリマス、八百圓以下ノ所得ニ對シマシテ——扶養
 義務者ニ對スル特別控除ハ別ニ致シマス、唯チ總テ二通ジ
 テ特別控除ヲ致シマスルモノダケヲ、引キマシタダケノ數字
 ニ依テ比較致シテ見マスルト、現行法ニ於キマシテハ、八百
 圓ノ所得者ニ對シテ、二十一圓ノ課稅ニナリマス、然ルニ

我々修正案ニ依リマスルト、僅カソレガ四圓ニナルノデア
 リマス、八百圓ノ所得ニ對シテ、現行法ハ二十一圓デア
 マスルノガ、四圓ニナルノデアアリマス、千圓ノ所得ニ對シマシ
 テハ、現行法ニ於キマシテハ二十七圓デアアリマスルノガ、六
 圓ニナルノデアアリマス、千五百圓ノ所得ニ對シテハ五十圓
 デアリマスルノガ、十六圓ニナリマス、二千圓ノ所得ニ對シ
 テ七十圓ガ三十一圓トナリ、三千圓ノ所得ニ對シテ、百二
 十五圓ガ七十一圓ニナルノデアアリマス、又五千圓ノ所得ニ
 對シテ、二百六十五圓ガ百七十一圓ニナルノデアアリマス、
 斯ノ如ク非常ナル大輕減ニナルノデアアリマシテ、此程度ノ
 修正ヲ致シマシタラバ、大多數ノ今日物價騰貴ノ爲メニ
 困テ居ル官吏、一方ニ於テ不十分ナガラ増俸ヲ致シ、恩
 給ノ増加モ致シ、同時ニ所得稅ノ輕減ヲ行フト云フコトニ
 ナリマスレバ、餘程其苦痛ガ和ゲラレルコト、考ヘマス、又
 之ニ類スル四五千圓以下ノ所得者ニ對シマシテハ、非常ナ
 ル恩典ヲ與フルコトニナルノデアアリマス、是ニ於テカ憲政會
 ノ諸君ハ此所得稅法案ノ延期論ヲ唱ヘ、之ニ反對サレマ
 スル結果トシテ、斯ノ如キ改正法ニ依ル少額所得者ニ對ス
 ル恩惠ヲ、憲政會ノ反對ノ爲メニ實行スルコトガ出來ヌト
 云フコトニナリマスルト、多數ノ國民ニ對シテ申譯ガナイ
 (拍手)是ニ於テカ憲政會ノ諸君ハ、一ノ案ヲ提出サレタ
 デアリマス、即チ現行法ニ對シテ、五千圓以下ノ所得者ニ
 對シテ、特別ニ減稅ヲスルト云フノデアアリマス、然ルニ憲政
 會ノ提案其儘ト致シマシテモ、其案ト我々ノ提案致シマシ
 タ修正案ト較ベマシテモ、憲政會ノ提案ノ方ガ遙ニ過大
 ナル稅ノ課ケテ居ルコトニナルノデアアリマス(拍手)憲政會
 ガ多數ノ國民ノ歡心ヲ失ハザランガ爲メニ、特別ニ工夫ヲ
 シテ出シマシタ苦心ノ案、其案ト修正案ト、比較致シマスル
 ト、此修正案ノ方ガ、遙ニ少額所得者ニ對シテ減稅ニナル
 ノデアアリマス(拍手)而モ憲政會ノ諸君ハ、此五千圓以下ノ
 所得者ニ對スル輕減、此輕減改正案ハ、遠ニ委員會ニ提案
 サレナカッタ、今ニ日程ニ上テ居ラヌノデアアリマスガ、若シ諸
 君ガ非常ニ御熱心ナラバ、何故ニ早ク日程ニ上セテ委員
 會ニ移シ、我々ノ審議ニ付セラレナカッタノデアアリマセウ、(ヒ
 ヤー)ト呼フ者アリ)唯ダ此處ニ出シテ置イタト云フコトダ
 ケデ、天下ニ對シテ申譯サヘスレバ宜イト云フ御考デアアリ
 セウカ(拍手)民衆ノ人氣ヲ氣ニサレル所ノ憲政會トシテ
 ハ、洵ニ怪シムニ足ラスコトダト考ヘマスケレドモ、我々ハ斯
 様ナ不眞面目ナル行動ハ、大政黨ノ面目ヲ保ツ所以ニ非
 ズト考ヘルノデアアリマス(拍手)「憲政會顔色ナシ
 「盲從議員默レ、政黨ニ關係ナシ」ト呼フ者アリ)要スルニ

増稅ニ就キマシテハ、今日經濟界動亂ノ時期ニ於テ、我々
 ハ決シテ好時機デナイト云フコトハ十分承知致シテ居リマ
 ス、出來ルコトナラバ、暫ク延期ヲ致シタイノデアアリマスケレ
 ドモ、一方ニ於テ國防充實ノ急務ナルコトヲ認メマスル以
 上ハ、國民御互ニ此苦痛ヲ忍バナケレバナラヌ、已ムヲ得ズ
 此増稅案ニ賛成致スノデアアリマス、而シテ政府ノ計畫ニ從
 ヒ、又我々ハ政府ニ督勵鞭撻ヲ加ヘテ、一方ニ於テ稅制整
 理、財政整理ノ根本計畫ヲ立テラレテ、一日モ早ク本議會
 ニ提案シ、中央地方ヲ通ジテ、歴史の大英斷ヲ以テ改革ヲ
 企ツルコトヲ希望スルノデアアリマス、併ナガラ此場合ニ於キ
 マシテ、特別ノ財源ヲ得ル爲メニ、所得稅及酒造稅ニ對シ
 テ一時ノ増稅ヲスルト云フコトハ、已ムヲ得ヌ事デアアリマシ
 テ、之ニ對シマシテハ、國民何レモ異論ハ無イコト、考ヘマ
 ス、現ニ先般來色ニナ團體カラシテ、所得稅法改正ニ就テ
 陳情ガアリマシタケレドモ、何處ノ團體ト雖モ、如何ナル苦
 痛ヲ最モ受ケテ居ル實業團體ト雖モ、國防充實ノ延期論
 ハ無カタトコロデアアリマス、而シテ又我々ノ接見致シマシタ
 限ニ於テハ國防充實ヲ認メマスル以上ハ、ドウシテモ剩餘
 金其他ヲ以テ、一時ノ財政ノ切盛りヲスル譯ニハ行カヌ飽
 マデモ、確定的ノ財源ヲ得ナケレバナラヌ、隨テ好時機ニ非
 ズト雖モ、此度ノ増稅計畫ハ已ムヲ得ヌト云フコトヲ申シ
 タ所ガ、何レモ其趣旨ヲ以テ適當ナリト諒知致シタノデア
 リマス(拍手)我々ハ最早今日ニ於キマシテハ、此増稅計
 畫ニ對シマシテ、根本的ノ延期論ヲ唱ヘル人ハ、政治上ノ
 實際ヲ諒解致サヌ人ハ、免モ角モ、政治上ノ實際ニ通ジマシ
 タ一能ク諒解致シマシタ人ニシテ、恐ラク反對スル人ハ
 無カラウト思ヒマス、故ニ極メテ簡單ニ理由ヲ申述ベルノデ
 アリマスガ本院ニ於キマシテモ、滿場一致ヲ以テ委員會通
 過ノ一請マリ我々修正案ニ對シマシテ、御贊成アラント
 ト希望致シマス(拍手)

○大口喜六君 議長

○議長(與繁三郎君) 大口喜六君

○議長(與繁三郎君) 大口喜六君

○大口喜六君 議長

エルノデアアリマスルガ、私ハ蓋シ政治ノ根本ヲ、自己ノカノ
 及テ限リハ研究致シタ積リデアアリマス、ドウカ是カラ長ク掛
 ルカモ存ジマセヌガ、自己ノ研究ヲ謹シテ諸君ノ前ニ披露シ
 テ見タイト存ジマスル故ニ、暫ク御清聴ノ上、更ニ御反對ガ
 アリマシタラ、御批評ヲ謹シテ仰ギクイト思フノデアアリマス、
 (拍手起ル)此増稅案ナルモノハ、申スマデナク、極メテ大切
 ナル案デアアリマシタ、我々國民ニ係ル所ノモノガ極メテ重
 大デアリマス、此案ガ愈實行ニナリマス曉ニハ、來年ヨリシテ
 一箇年ニ付キ一億三千五百萬圓ト云フ大ナル負擔ヲ、我々
 國民ハ受ケテハナラヌコトニ相成ルノデアアリマス、此大
 負擔ヲ國民ニ負ハシメ、又負ハサナケレバナラヌト云フコト
 デアリマスガ故ニ、公平ナル考ヲ以テ、茲ニ諸君ト共ニ此根
 本主義ニ就テ、討究スル必要ガアルヤウニ私ハ思フノデアアリ
 マス、唯今ハ今年ノ春、即チ四十二議會ノ時代ニ致シマス
 レバ、餘程是ハ容子ガ變テ居ル、是ハ三土君モ唯今是ニハ
 同意サレタヤウデアリマス、本田君モ亦之ヲ御唱ヘニナテ
 居ラヌデアアリマス、是モ亦深ク御考ヲ願ハネバナラヌ、即チ
 經濟界ノ事情ト云フモノガ、四十二議會ノ場合トハ大ニ
 異テ居ルノデアアリマス、ソレノミナラズ、我々ノ見ル所ハ解散
 後ノ議會デアアリマス、是ハ我々ハ大ニ頭ノ上ニ置イテ研究シ
 ナケレバナラヌ所ノ事デアアルト思フ、此春ノ四十二議會ハ單
 純ノ議會デアアル通常議會デアアル、而シテ今回ハ解散後ニ召
 集サレタル所ノ特別議會デアアル、此議會ニ於テ増稅案
 ノ議スルニ就テハ、頗ル是ハ研究ヲ要スルコトデアアルト私ハ
 考ヘテ居ルノデアアリマス、(謹聽)ト呼フ者アリ)先ツ此増稅
 案ト云フモノ、根本カラ私ハ論究シテ見タイト思ヒマスガ
 此増稅案ノ中ニ就キマシテモ、所得稅ガ主ナルモノデアアリ
 マスガ故ニ、私ハ先ツ所得稅案カラ、自己ノ所見ヲ述ベテ行キ
 タイト思ヒマス、而シテ此案ニ對シマシテ、四十二議會ニ於
 テ政府ハ之ヲ議會ニ提出サレマスル時ニ、政府ハ何ト云フテ
 之ヲ證明シテ居ルデアアリマセウカ、是ハ先刻本田君カラ大
 體御述ニナッタヤウデアリマスガ、其當時原總理大臣並ニ高
 橋大藏大臣ハ、斯様ニ説明サレテ居ルノデアアリマス、今回提
 出シタル所ノ増稅案ハ、國防計畫ノ財源ニ充ツル爲メニ、増
 收ヲ目的トシテ居ルモノデアアルガ、一面ニ於テハ社會政策
 ヲ大ニ加味シ、一面ニ於テハ稅制整理ノ一端ヲ現シタルモ
 ノト見ナシテ宜シイ、斯ウ云フコトヲ明ニ答ヘラレテ居ルノデ
 アリマス、而シテ稅制整理ト云フコトニ就テハ、何ト答ヘテ
 居ルカト云ヒマスレバ、當時原內閣總理大臣ハ我々ノ所得
 稅ノ委員會ニ現レテ、明ニ答ヘラレテ居ルノデアアリマス、稅
 制整理ト云フコトハ極メテ大切デアアル、殊ニ今時機ヲ得タ

ルモノデアルト信ズルガ故ニ、一日モ早ク之ヲ完成シタイト
思フ、而シテ其時機ニ對シテハ確實ニ言フコトハ出來ナイケ
レドモ、遅クモ此冬ノ議會、即チ大正九年ノ冬ノ議會マデ
ニハ、必ズ稅制整理案ヲ議會ニ提出スベシトノ希望ヲ以テ
進メテ居ル、斯ウ云フコトヲ明ニ答ヘラレテ居ルノデアリマ
ス(拍手起ル)我々ハ深ク之ヲ信ジマシテ、此冬ノ議會ニハ、
遅クモ稅制整理案ガ出ルモノデアル、是ト結付ケテ、増稅案
ナルモノヲ取扱ハナケレバナラヌト云フ考ヲ以テ意見ヲ立テ
タ、其當時我々修正案ヲ此議場ニ於テ述ベルニ就キマシ
テ、此事柄ヲ明ニ茲ニ申述ベテ、速記録ニ留マシテ居ル筈デ
アリマス、此意味ヲ以テ私共取扱フノデアリマス、然ルニ今
回此案ガ議會ニ提案サレルニ方リマシテ、今ノ政府ハ何ト
之ニ答辯サレマシタカ、關直彦君ノ當議場ニ於テ、總理大
臣ニ質問サレタ時ノ總理大臣ノ答辯、又委員會ニ於キマ
シテ、高橋大藏大臣ノ御答辯、之ニ依テ見マシテモ、今回
提出サレタ所ノ増稅案ナルモノハ、増收ノ目的ト致シタモ
デアル、即チ海軍擴張、陸軍ノ充實、國防計畫ヲ完備セ
シメンガ爲メニ、其財源トシテ増收ヲ計ルニ意味ニ於テ出シ
タルモノデアル、全ク稅制整理トハ懸離レタモノデアル、稅
制整理トハ何等關係ガ無イ、稅制整理ハ地方稅ヲ加ヘテ、總
取ル爲メニ整理スルモノデモ、何デモナイ、地方稅ヲ加ヘテ、總
テ均衡得ニ整スル爲メニ調査スルモノデアル、ソレト是ト
ハ全ク別問題デアッテ、増稅案ナルモノハ、全ク増收ノ目的
トスルモノデアルト云フコトヲ明言サレテ居ルノデアリマス、
今回四十三議會ニ於テ、此増稅案ニ對シテ政府ノ言明サ
レタコトハ、其根本ニ於テ頗ル相違ガアルト云フコトヲ私ハ
認メルノデアリマス(拍手起ル)殊ニ唯今御提出ニナリマシ
タ三土忠造君ヨリ出マシク所ノ修正案、之ニ對シテハ後ニ
少シク私ハ細カニ議論ヲ致シテ、反對ノ意見ヲ述ベテ見タ
イト思ヒマスガ、大要ヲ唯今此處申述ベレバ、結局政府ガ
提案シタル所ノ綜合課稅主義、此綜合課稅主義ヲ半バ
抛ッテ、源泉課稅主義ニ戻サウト云フ論據ニナリテ居ルノト、
唯今三土君ハ、綜合課稅主義ニハ贊成デアアル、我々ハ何所
マデモ贊成デアアルガ、奈何セン今マデノ習慣ガ習慣デアアルガ
故ニ、茲ニ半バ源泉課稅主義ヲ採用スルノ已ムナキニ至ル
ト云フ意味ニ、説明サレタノデアリマス、即チ提案者既ニ其
事ヲ説明シテ居ラレド、デアリマスガ故ニ、綜合課稅主義ガ
半バ抛タレテ、半バ源泉課稅主義ニ相成ッテ居ルコトハ明
事デアアル、之ニ對シテ大藏大臣ハドウデアアルコト云ハ、委
員會ニ於テ此三土君ノ修正說ニ對シテ、是ガ貴衆兩院ヲ

通過シタル曉ニ、政府ハ斷ジテ異議ヲ唱ヘズシテ、之ニ從フ
モノデアアルト云フコトヲ明言サレテ居ル、然ルニ大藏大臣ハ
今年ノ春四十二議會ニ、小川郷太郎君ノ質問ニ對シテ何
ト答ヘテ居ラレマスガ、此處ニ速記録ノ抜書ガアリマス、是
ハ一々讀上ゲルト時間ガ掛リマスカラ、大要ヲ私ガ述ベテ見
タイト思フ、綜合課稅主義ト云フモノハ、極メテ公平ナモノデ
アル、源泉課稅主義ハ大キナ配當ヲ得ルモノモ、小サナ配當
ヲ得ルモノモ同ノ率ヲ以テ稅ヲ取ラレルノデアアルガ故ニ、此
位不公平ナモノハナイ、此公平ヲ保ツニハ、ドウシテモ綜合
課稅主義ニ從ハナケレバナラヌ、即チ綜合課稅主義ト云フ
モノハ公平ナルモノデアアル、社會政策ヲ行フ所以ノモノデア
ラレテ居ルノデアリマス、然ルニ今回半バ綜合課稅主義デ
殘ルノデアアルガ、半バ之ヲ抛ッテ、源泉課稅主義ニ還ラウト
云フノニ、大藏大臣モ二モノナル之ニ同意セラレルト云フコト
ニ相成レバ、半バ不公平デアアルト云フコトヲ、大藏大臣ハ明
ニ承認サル、所ノモノデアリマス(拍手起ル)凡ソ我々此租
稅ト云フモノハ、極メテ公平デアッテ、均等デナケレバナラヌ、
均衡ヲ得テ居ラナケレバナラヌト云フコトヲ常ニ思フモノデ
アリマス、然ルニ我々日本帝國ノ租稅ハドウデアリマセウカ、私
ガ申スマデモナク、諸君ガ能ク御承知ノ如ク明治初年以
來、例ヘバ地租ヲ課シ、ソレカラ漸次進シテ所得稅トナリ、
色々ノ稅金ガ出來テ居ルノデアリマスガ、未ダ一度モ根本
的稅制整理ヲ爲シタコトハ無イ、何時デモ歲出ノ急ニ追ラ
レ、國防ハ已ムヲ得ザルモノデアアル、何ハ一日モ忽セニスベカ
ラザルモノデアアルト云フ一言ノ理窟ノ爲メニ壓倒サレテ出サ
ナケレバナラヌモノデアアルト云フガ如キ觀念ニ押ヘラレテ結
果トシテ、何時モ一己ムヲ得ズ其上ニ増稅又増稅デ、出
來合ノ増稅デ今日マデ至タト云フノガ、日本ノ稅制ノ現
象デアリマス(拍手起ル)ソレニ今日我々日本ノ稅制ト云フ
モノハ、是デ決シテ均衡ヲ得テ居ルモノデアアルトハ、滿堂ノ
諸君決シテ御認メニナラヌデアラウト私ハ思フ、三土君モ
唯今ノ御演說ノ中ニ其意味ガアツタヤウニ思フ、現ニ營業
稅デ申シマシテモ、大ナル損失ヲシテ居ッテモ、營業ヲシテ居
レバ相當ノ營業稅ヲ納メナケレバナラヌト云フノガ、今日ノ
狀態デアリマス、斯様ナ事柄ヲ爲シテ居ッテ、到底我國ノ實
業ノ發展ノ出來ル所以デハナイ、所得稅ト營業稅トノ關係、
其他相續稅、地租、有ユルモノ、關係ヲ調ベテ、根本カラ
シテ此稅制ノ整理ヲシナクテハナラヌト云フコトニ就テハ、
一人ノ異議者モ無イ所デアアル、假リニ私一人ノ一家言デ
アルガ、私ハ此所得稅ノ案ヲ議スルニ方ッテ、常ニ斯ウ云フ

考ガ頭ニ浮シテ居ル、何ガ故ニ日本ハ亞米利加ノ如ク、有
ユル所得ニ稅ヲ課セナイノデアラウカ、或ハ大藏大臣ノ言ハ
レルニハ、此頃ノヤウニ一是ハ此春ノ事デアリマスガ、此頃
ノヤウニ株ガ騰貴シテ、所謂「スベキレーション」投機熱ガ
熾ニナリテハ困ル、ソレ故ニ或ル方法ヲ以テ之ヲ抑ヘナケレバ
ナラヌト云ハレタ、我々モ此主義ニ對シテハ寔ニ同感デアッ
タノデアアル、併ナガラ我が日本國ノ所得稅ハドウナッテ居リマ
スカ、今回ノ改正案ハドウデアアルカ、三土君ノ修正ニナリタ結果
ハドウデアアルカ、決シテ此「スベキレーション」ヲヤル者ニ對シ
テハ、稅ヲ取ルコトガ出來ナイノデアアル、是ハ既ニ其通り明言
シテ居ラレド、デアアル、自分ガ株ヲ買ッテ、其間ニ投機ノ利
益ヲ得テ、以テ富ヲ成シタル者ニ對シテハ、稅ヲ課セルコトガ
出來ナイ、株ノ賣買ヲ商賣スルコトニナリマシタナラバ、稅ヲ
課セルコトハ出來ルケレドモ、所謂一時ノ投機ノ量見ヲ以テ
「スベキレーション」ヲ目的トシタル者ニ對シテハ、稅ヲ課セル
コトハ出來ナイ、斯ノ如キ者ガ悉ク稅ヲ連レテ、眞面目ニ實業
ヲヤッテ居ル者ハ、何時デモ相當ノ稅ヲ取ラレルト云フコトニ
ナリテ居ルノガ、今日ノ狀態デアアル、ソレ故ニ私ハ十分ニ所
得ノ有ル者ニ對シテハ、有ユル所得ヲ積算シテ、儲ケタ者ニ
對シテハ稅ヲ取ルガ宜イ、其代リ借金ノ有ル者ニ對シテハ、
所謂亞米利加流ニ有ユル借金ヲ調ベドウ云フ借金デモ
宜イ、其借金ニ對スル利子ハ之ヲ控除スルガ宜イ、眞二個
人々々ノ所得ヲ調ベテ、其所得ニ對シテ取ル稅金ナラバ取
テ宜イ、サウ云フ方法ヲ考ヘナケレバナラヌト思フ、ソレデア
リマスカラ、私ハ全體所得稅ノ根本的改正デハ、必ズサウナ
ウナクテハナラヌト常ニ心ニ浮シテ居ッタノデアリマス、左様
ナ譯デアリマスルガ故ニ、稅制整理ト云フモノハ極メテ必要
デアッテ、稅制ノ根本的整理ヲシナクシテ、直チニ今アル稅ニ
對シテ一少數ノ稅ニ對シテ之ニ増稅ヲスル割増ヲスル、
之ヲ一部ノ改正ヲ爲シテ、多クノ稅ノ之ニ向テ取ルト云フ
ガ之ヲ企テルノハ、結局國家全體ノ上カラ不均衡ヲ起スモ
ノデアアルト云フコトヲ我々ハ思ハナクテハナラヌト考ヘルノ
デアリマス(拍手起ル)而シテ此稅制整理ニ就テ、今回ノ
議會ニ於テ、原總理大臣ガ何ト答ヘテ居ラレルコト云フト、
六箇月ヤ五箇月デハ、到底此ノ稅制整理ハムツカシイガ故
ニ、之ヲ爲スコトガ出來ナイ、併ナガラ二年三年ト云フガ如
キ氣永ノ事ヲ致シテ居ラヌト云フコトヲ明ニ答ヘテ居ラレ
ル、サウシテ見マスト、此稅制整理ナルモノハ、七箇月ヨリ
速カラズ、二年ヨリ遅カラザル間ニ於テ、政府ハ之ヲ仕途
決心ヲ持ッテ居ラレルト云フコトハ、私ハ明カデアラウト思
フ、乃チ此稅制整理ナルモノ、出來上ルノモ、決シテ遠キ將

來デハナイト云フコトヲ、言フニ憚カラヌコトデアルト思フノ
 デアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスルガ故ニ、今回提案サ
 レタ所ノ政府案、是ハ先刻本田君が言ハレタガ如ク、今年
 ノ春ノ議會ニ於テ、委員會ニ於テ修正セラレ、大藏大臣ガ
 之ニ賛成ヲサレタデアリマス、其時ニ如何ナル趣意ニ依テ、
 此委員會ノ修正ニ大藏大臣が同意ヲサレタコト申シマスレ
 バ、先刻矢張本田君カラ述ベラレタ如ク、政府ノ提案ヨリ
 モ、ヨリ名案デアルト信ジテ賛成ヲサレタコト云フコトヲ、今
 ノ委員會ニ於テモ明言シテ居ラレルデアリマス、然ラバ今
 回三土君が修正サレタ案ガ、政府提案ヨリモ尙ホ更ニ名案
 デアルカドウデアるか、是ハ名案デアルトハ言ヘナイケレドモ、
 已ムラ得ズンテ賛成ヲスルト云フコトデアル、サウスルト先
 刻申シタ通り、一番不公平デアルト云フコトヲ承知シテ、唯
 ダ稅ノ增收ヲ目的トシテ、之ニ同意サレタコト云フコトニ歸
 著スルノデアルガ故ニ、增收サヘ得レバ、稅ノ結果ハドウナ
 テ宜イト云フ稅ノ歸著點ニナレバ、我々決シテ之ヲ默過ス
 ルコト出ルナイデアリマス、(拍手起ル)此趣意ニ於テ政
 府ノ趣意甚ダ明カナラズ、此増稅案ニ對シテハ、大體ニ於
 テ我々ハ、之ニ反對ヲシナケレバナラヌト云フ結果ニ相成ル
 ノデアリマス、而シテ此稅制整理ナルモノハ、或ハ此冬ノ議
 會ニハ出ナイカモ知レナイ、原總理大臣ハ先刻申シタ如
 ク、前ノ議會ニ於テ、遅クモ此冬ノ議會ニハ、稅制整理ヲシ
 テ之ヲ出サレト云フ御希望デアルト言ハレタ、或ハ時勢
 已ムラ得ズ冬ノ議會ニ出サレナイカモ知レナイケレドモ、併
 ナガラ此所得稅改正案ナルモノヲ、一度稅制整理委員會
 ニ諮問サレルト云フコトハ、サシテ時間ノ掛ラ問題デハナイ、
 何故私ガサウ言フカト申シマスレバ、此稅制整理ヲ託サレ
 テ居リマス所ノ經濟調查會ニ於テ、頻リニ今調査ノ歩ヲ進
 メラレツ、アルト云フコトデアル、一面ニ國家ノ機關ガ出來
 テ、其機關ガ稅制ノ調査ヲシテ居ルノデアリマスカラ、之ニ
 此諮問ヲシマスレバ、其調査ノ結果トシテ、此位ノ程度マデ
 ハ之ヲ修正シ、此位ニシテ置ケバ後日稅制整理ノ結果ガ
 來テモ、大ナル變動ガ來ナイト云フコトガ判ラナケレバナラ
 ノデアリマス、是ダケノ事ヲ致スダケデモ、我ガ國民ニ對シテ、
 非常ナル利益ヲ與ヘルノデアル、朝令暮改——今日ハ斯ノ
 如キ事ヲ爲シ、明日ハ稅制整理ノ結果、形ノ如ク變更ヲナ
 サナクテハナラヌト云フ、比較的ノモノガ出來ナケレバナ
 ラズ、此位ノ手續ヲ履シテ、重キヲ措キ、慎重ニ慎重ヲ重ネ
 テ爲スベキ法案デアルガ故ニ、我々ハ漫ニ此原案ニ賛成ヲ
 スルコトガ出來ナイト云フノガ、私ノ大體ニ於テ反對スル理
 由デアリマス、(拍手起ル)ソレカラ三土君ノ修正デアリマス

ルガ、是ハ私ハ深ク論ゼズトモ先刻私ガ大體ヲ論ジタ事ニ
 依テ、御解リニナルコトデアラウト思ヒマスルガ、此修正案ニ
 依リマスルト、先刻御說明ガアリマシタ如ク、第三種ノ所得
 ニ於テ、成程其累進率ハ減ゼラレテ居リマス、而シテ三土君
 ハ、先刻八百圓以下ノ少額所得者ノ稅率ガ減ジタケ
 フ述ベラレタデアアルガ、決シテソレノミデハナイ、五千圓ヲ
 超ユル所ノ多額ノ納稅者ニ對シテモ、其率ハ非常ニ減ゼラレ
 テ居ルノデアリマス、上ニ行ク程比較的多クノ率ガ減ゼラレ
 ル所ノ富豪階級ノ者ガ、餘程廉クナル所ノ修正デアルト私
 ハ思フ、(拍手起ル)殊ニ私ハ一言致シタイノハ、千圓ヲ超ユ
 ル人——三千圓ヲ超ユル金額マデノ此所謂中産階級——
 極メテ日本ニ多キ所ノ中産階級ノ人ニ對シテ、此累進率ナ
 ルモノガ少シモ減ゼラレナイノハ、如何ナル理由デアリマセウ
 カ、是ハ三土君ヨリ聽クコトガ出來マセウケレバ、次ノ方カラ
 之ヲ説明ヲ願ヘバ洵ニ私ノ幸福デアルト思フ、既ニ千圓ト
 カ二千圓トカ三千圓トカマデノ、所謂中産階級ノ人々ハ、
 今回ノ如キ綜合課稅主義ヲ執ラレマスレバ、非常ニ大ナル
 負擔ヲシナケレバナラヌト私ハ信ジテ居リマス、然ルニ千圓カ
 ラ三千圓マデノ間ノ人ニ對シテ、此率ヲ減ゼラレナイコトニ
 相成テ、寧ろ五千圓カラ何百万ト云フ所ノ大ナル所得ノ
 有ル人ノ方ガ、甚シク稅率ヲ減ゼラレタト云フニ至テハ、寧
 口所得額ノ大ナル人ニ對シテハ利益デアッテ、多數ノ中産
 階級ノ人ニ對シテハ不利ニシテ、延テハ實業ノ發展ニ影響
 スルモノデアリナイト私ハ疑フデアリマス、ソレカラ少額所
 得者ニ對シテ、非常ニ是ハ減ルノデアル、或ハ憲政會ノ諸君
 ハ之ニ反對セラレレバ、ソレガ爲メニ少額所得者ヲシテ、禍
 ニ陥レルモノデアルト言ハレタデアリマスガ、成程一寸考ヘ
 レバサウ云フ風ニ見エレルノデアリマス、併ナガラ此缺陷ハ何
 デ補テ居ラレルカ、其結果ハ矢張是ハ源泉課稅ニシテ居ル
 ノデアリマスルガ故ニ、若シ此少額ノ租稅ヲ納メル所ノ人ハ、
 全ク株券ナドヲ持タヌデアルカラシテ、三土君ノ言ハレル
 結果ヲ來スデアラウトハ思フガ、是等ノ人々ガ持ッテ居ル株
 券ト云フモノハ極メテ少額デアリマス、其少額ノ株ニ對シテハ、
 不公平ナル源泉課稅ヲ負ハシメラレト云フコトニ相成ル
 ノデアルガ故ニ、一面ニ於テハ八百圓以下ノ人ハ率ヲ減サレ
 テ宜イヤウデアアルガ、此人ハ一面ニ固有ノ財產トシテ株券ヲ
 所有シテ居ル場合ニ、大切ニ致シテ居ル僅カナ株券ニ對シ
 テ、其會社ニ於テハ大財産家ト同シ率ヲ以テ、其株ニ對シテ
 矢張賦課ヲセラル、コトニ相成ルノデアリマス、殊ニ此會社
 ガマダ之ヲ株主ノ頭ノ上ニ課ケル場合ハ宜イノデアリマス

ガ、是ガ會社ノ營業上廻リ廻テ、其會社ニ課ケラレル所ノ
 百分ノ四十ナルモノガ、其營業スル所ノ物資ニ課カルト云
 フコトニ相成テ參ッテ時ニハ、ソレガ禍スル所ハ矢張下層
 階級ニ及ブデアリマシテ、所謂社會政策ノ上ニ於テ、決シ
 テ是ハ公平デアリ宜シモノデアラウトハ我々ハ思ハヌノデ
 アル、(拍手起ル)ソコデ斯ノ如キ主義ハ、今年ノ春此案ヲ提
 出サレ、綜合課稅主義ヲ熱心ニ唱ヘラレタ時ニハ、屢、其意
 見ヲ私ハ拜聽シタヤウニ思フノデアリマス、結局五千七百
 萬圓ト云フ所得稅ヲ取ラレルモノハ、取ラレルノデアリマス
 ルガ故ニ、此案ヲ認メタル以上ハ、目先コソ色ニ變リマス
 ルガ、矢張我國民ハ是ダケヲ負擔スルコトニナル、之ヲ所得
 稅ト酒稅トノミデ負ハナクテハナラナイト云フノハ、抑、如何
 ナル理由デアるか、是モ亦一ツ別ニ研究スル要ガ我々ハアル
 ト思フノデアリマス、是ガ稅制整理ヲ爲シ、又少ナクトモ稅
 制整理ノ委員會ニ之ヲ諮問セシメテ、此冬ノ議會ニ於テ提
 出セラレテ、決シテ晚シト爲サレル所以デアルノデアリマス、
 斯ノ如ク論ジテ參リマスルト、私共ハ少シク此國防計畫ノ
 事ニ立入りマシテ、國防計畫ノ財源トナルベキ是ハ稅源
 デアリマス、故ニ其根本ニ遡テ、國防計畫トハ果シテ如
 何ヤウナモノデアるか、之ヲ此際研究ヲ致シマシテ、諸君
 ノ前ニ披露スル必要ガアルト思フデアリマス、勿論國防
 計畫ト云フコトハ大切ナ事デアアル、世界ノ趨勢上一層大
 切ナル事デアルト云フコトヲ、頻リニ述ベラレルノデアリマス
 ルガ、之ニ對シテ誰モ反對ノアル人ハ無カラウト思フデア
 リマス、我々モ國防計畫ニ極メテ重キヲ措キマシテ、海軍ノ
 中ニ於テモ、軍艦製造費ノ如キハ、彼ノ山本内閣時代ニ當
 リマシテスラ、此世ノ中ノ有ユル非難ヲ排シテマデモ、之ニ
 賛成ヲ致シテ居ル、國防充實——國防ノ大切デアルト云フ
 コトニ就キマシテハ、決シテ我々モ人後ニ落ツルモノデアナイ
 ノデアリマス、勿論此國防計畫ノ必要ナルコトハ認メテ居
 ルノデアリマス、併ナガラ一面ニ之ヲ以テ國防計畫ナリト稱
 シ、國防計畫デアルト云ヘバ、之ニ反對ヲスレバ、何カ國家
 ノ爲メニ不利益ヲ來スガ如キコト、思ハレルノハ、是ハ蓋シ
 私ハ思ハザルノ甚シキモノデアルト思フデアリマス、
 元來私ハ此帝國議會ニ於キマシテ、國防ト云フコトニ就テ、
 其内容ニ立入テ餘リ論議サレナイコトヲ、常ニ不滿ニ感ジ
 テ居ル者デアル、勿論之ニハ色々ナ事情ガアリマシテ、其計
 畫等ニハ秘密ニ屬スル事モアルデアリマセウガ、故ニ、公開
 ニ於テハ或ハ之ヲ論ズルコトハ、甚ダ難シイトスルヤウナ事
 情モアルデアリマセウケレドモ、此國防ト云フモノハ、所謂國
 民一致ノ國防ナクテハナラナイ、之ヲ我々ハ海軍ニ委任

起ル)ソレデアアルカラ、果セル裁議會ガ解散スルト同時ニ海軍陸軍兩大臣ハ、國防ノ事ハ一日モ之ヲ忽セニスベカラズ、僅カナ費用デモ之ヲ延セバ國防ガ忽セシナルト、今年ノ春唱ヘラレテ増稅ヲ我ニ要求スラレタ、其苦ノ根ノ未ダ乾カザルニ議會ヲ解散シ、而シテ斯ク繰延ベテ決心サレテ括トシテ居ラレルコトハ、是蓋シ責任ヲ有テ居ルモノト百レマスカ、(拍手起ル)此點ガ私ハ國防計畫ニ於テ、非常ニ遺憾ニ感ズル所ノ事デアアル、斯ノ如ク申シマシタナラバ、陸軍大臣、海軍大臣ニ於テハ色々御議論ガアリマセウ、私ハ茲ニ精密ニ調ベタ物ヲ持テ居ルケレドモ、是ハ全體豫算ノ對議ニ就テ論ズベキ事デアアル、(議廳々々)下呼フ者アリ)稅制ノ整理ニ就テ、稅制案ニ於テ餘リ深入リヲシテ論ズル事デアリマセウ故ニ、同僚ノ議員カラシテ、豫算會議ニ於テ是ハ詳シク申述ベルトデアラウト思フガ、斯ノ如キ事カラ之ヲ考ヘテ見レバ、此國防ト云フモノガ議會ヲ解散シ、而シテ今日ニ至ラテ之ヲ特別議會ニ要求シテ、一日モ忽セニスベカラザルモノデアアル、之ヲ忽セニスルガ如キハ、國家ニ害ヲ爲スモノデアルト云フコトハ、陸軍海軍兩大臣ノ口カラハ、我ニ對シテハ言フコトガ出來ナイノデアルト思フ、(拍手起ル)殊ニ海軍陸軍兩省ノ國防費ト稱セラレ、モノ、内容ノ一二ヲ舉ゲテ見ヤウト思フ、我ニハ海軍ノ國防費ト云フモノハ、軍艦製造費ガ主ナルモノデアルト、實ハ恥カシキ事デアアルガ、議席ニ列ナテカラ既ニ殆ト十年ニ近イノデアアルガ、今日マデ我ニハ軍艦製造費ガ主ナルモノデアアルガ如ク、此演壇ニ於テ告白スルガ、洵ニ國民ニ對シテ恥シキ事デアアルガ、我ニハ左様ニ思フテ居タ、然ルニ今回之ヲ精密ニ調査シテ見レバ、本年——大正九年度ニ於テ軍艦製造費トシテ要求サレテ居ル追加額ハ、僅ニ八百六十六萬圓ニシテ、其餘ハ水陸設備費ヲ除ク外ハ、殆ト軍艦製造費ニ關係ノ無キ所ノ事柄デアアル(拍手起ル)其一ニヲ舉ゲテ見レバドウデアアルカ、唯今申シマシタ通り、航空陸ニ關スル事柄、是ハ洵ニ必要ナ事デアアルニ違ヒナイガ、今マデ普通豫算ニ於テ要求サレテ居ル、然ルニ今回大藏省ノ都合ニ依テ、稅目ノ色々編成ノ上カラ必要ガアルト云フコトデ、之ヲ新規國防計畫費中ニ加ヘテ新タニ要求サレルトハ、我ニ極メテ疑ヲ置ク所ノ事デアアルノデアリマス、(拍手起ル)ソレノミナラズ、火藥廠ノ臨時設備費デアルトカ、或ハ無煙火藥ノ更新費デアルトカ、此無煙火藥ノ更新費ノ如キモ、我ニハ實ハ大ニ論ジテ見タイノデアアルガ、是ハ矢張國防上ノ——此處デ公開ニ於テ論ズルコトハ、國家ノ爲メニ好マシクナイ事デアアルガ故ニ、若シモ御異論ガアルナラバ、イツ何時デモ我ニ信ズルダケ

ハ辯明スルノデアアル、此席ニ於テハ私ハ唯今之ヲ略シテ置カウト思フ、斯ノ如ク種々ナル問題ガアル、決シテ軍艦製造費ノミデハナイモノデアアル、是ハ此壇上ニ於テ、我日本帝國ノ臣民諸君ニ訴ヘテ置カナケレバナラズ事柄デアアルト私ハ信ジテ居ル、(拍手起ル)陸軍ハ先刻申シマシタ通りニ、割合ニ整テ居ル算盤ノ立方ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、矢張之ヲ細カニ研究ヲ致シテ見ルト、之ヲ新規國防計畫トシテ繼續年度——十二箇年ノ繼續生年度ノ中ニ入レテ、必シモ要求シナクテハナラナイト云フ費用ベカリデハナイ、是ハ陸軍大臣ガ御考ニナタナラバ、直チニ分ル事柄デアラウト私ハ思フノデアリマス、(拍手起ル)即チ是ハ毎年々々議會ノ協賛ヲ經ラレテ、適當ノ財源ヲ以テ概令剩餘金デアラウト何デアラウト、毎年々々國家ノ歲計ヲ鑑ミマシテ、一々議會ニ要求サレテ、適當デアルト思フ所ノ費目ハ澤山ニアル、然ルニ之ヲ繼續費ノ中ニ加ヘテ、國防計畫費ナリト稱シテ、一度我ニ協賛ヲ得レバ、十二箇年ノ繼續生年度内ニ於テ、自由ニ繰廻ハシガ付ケヤウナコトヲシナクテハナラナイト云フコトハ、果シテ是ハ豫算ニ深切ナルモノナリヤ否ヤ、我ニハ之ニ對シテ疑ヲ持ツ(拍手起ル)詰マリアリマ、一言ニシテ言ハバ、國防計畫ト云フハ、斯様ナルモノデアリマス、我ニハ國防計畫ニ對シテ、決シテ反對ヲ唱ヘルモノデハナイ、國防計畫ノ必要ナルコトヲ認メ、軍艦増設、其他軍備ノ補充、之ニ對シテハ大體ニ於テ之ヲ賛成シ、之ヲ認メ、之ニ對シテ熱心ナルコトハ、決シテ諸君ニ後ル、所モノデハナイト我ニハ信ジテ居ルノデアリマス、併ナカラ今回出サレタル所ノモノヲ、全部新規國防計畫デアルト云フ美シキ名前ノ下ニ隠レテ、我ニ之ヲ賛成シナケレバ、如何ニモ國民カラ國防ヲ妨ゲルガ如ク言ハレルコトガアツテハ、遺憾デアルト云フガ如キ臆病ナル考ヲ以テ、我ニハ默スルモノデハナイ、何ト國民ガ言ハウトモ我ニハ信ズル所ニ向ヒ、國家ノ爲メニ相成ルコトハ信ズレバ如何ヤウナ事デアラツテモ、臆面ナク飽マデ赤心ヲ吐露シテ諸君ニ訴ヘルノガ、之ガ我ニ執ルベキ責任デアルト感ズル次第デアアルノデアリマス、(拍手起ル)大體ニ於テ我ニハ斯ノ如キ點カラ、此國防計畫ト云フモノハ、必シモ本議會ニ於テ今回要求サレタ所ノモノヲ認メナクテモ、後ノ年度ニ於テ政府ガ爲サント欲スレバ、必ズ一定ノ年期内ニ出來得ルモノデアルト云フコトヲ、我ニハ確信スルモノデアリマス、何ガ故ニ斯ノ如キコトヲ言フカ、成程船渠ヲ造ルコトデアルトカ、或ハ陸軍ニ於テノ一部ノ仕事デアルトカ云フガ如キコトハ、繼續豫算ノ頭ヲ出サナケレバ、仕事ヲスルニ困ルト言ハレルノデアリマセウ、成程是ハ一面ノ理窟デアアル、併ナガラ實際之

ヲ研究スレバ、斯ノ如キモノヲ是マデ既ニ國防費トシテ繼續費トシテ、今既ニ繼續生年度中デアアル、之ニ對スル追加豫算デアアル、唯ダ金ダケノ問題デアアル、金ハドウデアアルト云ハバ、先般大藏大臣ハ我ニ質問ニ對シテ答ヘラレテ居ル、金ハ政府ニハ有ル、剩餘金モ有ル、色々ナモノガアルケレドモ、唯ダ理窟ニ迫ラレテ自由ニナラナイト云フノガ、日本ノ經濟デアルト云フコトヲ我ニ答ヘラレテ居ル、然ルニ此陸軍海軍ニ對スル事柄ハ、是ハ繼續事業トナテ居ルノデアリマスルガ故ニ、陸軍大臣、海軍大臣ガ全責任ヲ帶バレテ、國家ノ爲メニ自ラ任ジ、國防ノ充實上大決心ヲ以テ之ヲヤラル、ナラバ、今回ノ請求ヲ我ニガ否決シテモ、延期シテモ、一定ノ年限内ニ於テ決シテヤレナイモノデナイ、斯ウ云フ事ヲ信ジナケレバナラズ、殊ニ我ニハ言葉尻ヲ咎ムルヤウデ宜シクナイガ、海軍大臣ハ會テ濱口君ノ質問ニ對シテ、斯ウ云フコトヲ答ヘテ居ラレル、現ニ今期ニ於テ要求シテ居ル所ノ新規國防計畫費ト云フモノハ、數百萬圓ニ過ギナイ、後ニ言ヒ直サレテ、八百幾十萬圓ニ過ギナイ、是ハ一二年ノ間ニ補充セラレテ、ト答ヘタ、所得稅ノ委員會ニ於テハ何上訂正セラレタカト云フ、左様ニ議場ニ於テハ答ヘタガ、本年內ニ於テハ必ズ之ヲ填込ム積リデアアル、是ニ於テ我ニハ豫算ノ上カラシテ非常ニ疑問ヲ起シタ、一二年ニ充實シ得ル計畫ヲ立テテデアアル、本年內ニ於テ充實スルト云フ決心ヲ爲ヌコトハ如何ナル豫算ヲ繰廻シテノコトデアアルカ、海軍大臣ノ言ハレタ八百萬圓ハ、如何ナルモノデアアルカト云フコトヲ研究シテ見タケレドモ、能ク理由ガ判ラナイ、海軍ノ政府委員ノ言ハレタ所ヲ聽キ、之ヲ信ズルト、海軍大臣ガ八百萬圓ト云ハレタノハ、八百六十萬圓ノ軍艦製造費ノ四箇月分、二千萬圓ト云フ後年ニ繰延シタ水陸設備費、此中ノ四箇月分デアラウト云フノデアリマス、之デアレバ我ニ極メテ疑ヲ起サナケレバナラズ、軍艦製造費ノ設備費デアレバ、四箇月延ビレバ或ハ其四箇月ト云フモノハ、月割ニシテ差引クコトガ出來ルガ、水陸設備費ヲ月割ニ計算スルノハ誤ツタ事デアアル、斯ノ如ク海軍大臣ノ言ハレルコトハ、殆ト根據ヲ認メルコトガ出來ナイ、要スルニ繼續事業デアラツテ、永イ間ニ一遍理窟ヲ立テ、此議會ニ於テ協賛ヲ經レバ、其年度内ハ當局大臣ニ於テ自由ニ出來ルノデアアルガ故ニ、海軍大臣ハ現ニサウ云フコトヲ言ハレマシタ、私ハサウ云フ細イ事ハ言ハナクテモ、一定ノ年限内ニ一定ノ物ヲ拵レバ、責任ガ立ツモノデアアルト現ニ言フテ居ラル、其通りノ思想カラ行ケバ、決シテ今期ノ案ニ對シテ増稅ニ反對シ、ソレガ爲メニ國防計畫ナルモノハ、決シテ忽セニスルモノデナイ、是ハ爲ササルノデ

アテ、爲セバ行ケルモノデアルト断定シテ疑ハナイデアリマス、殊ニ私ガ一言茲ニ附加ヘテ置キタイト思ヒマスノハ、此特別議會ト此國防費ノ事デアリマス、是ガ勿論普通ノ臨時議會デアラナラバ、斯ノ如キ案ヲ出サレルト云フノハ、又別ノ意味ガ無クテハナラヌデアリマスガ、此特別議會ナルモノハ、言フマデモナク、議會解散後ニ當然開カルベキ議會デアリマス、ソレ故ニ有ユル法律案ノ如キモノヲ提出スルト云フコトハ、我々ハ少シモ差支ナイト思フテ居ル、併ナガラ此財政ニ關シテハ、餘程攻究ヲ要スル事柄デアラウト思フ、即チ憲法ノ定メタル所ニ依テ、議會ガ解散ニナラズ、豫算ガ不成立ニ相成クモ、前年ノ豫算ニ依テ事ヲ處理スルノガ當局大臣ノ責任デアリマス、併ナガラ必要已ムヲ得ザル經費ガアルナラバ、國家必要上デアレバ、追加豫算ヲ提出スルコトハ差支ナイト思フ、併ナガラ此國防計畫ナルモノハ如何デアルカ、既ニ本年ノ春ノ議會ニ提出セラレテ、衆議院デ可決シテ通過シタモノデアリ、其通過ヲ認メナガラ、ソレヲ知ツテ居ルニモ拘ラズ、議會ヲ解散シルニ就テ、此國防計畫ハ全ク是ハ棒ニ振ラナケレバナラヌト云フコトハ、覺悟ノ上ノ解散デナケレバナラナイト思フデアリマス、(拍手起ル)然ルニ之ヲ再ビ追加豫算ヲ以テ提出シテ來ルノハ、此議會解散ノ原因ガ國防費ノ問題カ、又ハ増稅案ノ事デアリ、解散ニナラズモデアラナラバ、ソレハ當然此特別議會ニ御提出ニナルベキモノデアラケレドモ、サウデアハナイ、議會ノ解散ノ原因ハ普通選舉ニ依ル、既ニ此國防計畫ハ可決ニナリ、ソレヲ知リツテ議會ヲ解散シタノデアラカラ、憲法ノ定ムル所ニ依テ、政府トシテハ前年度ノ豫算ニ據ルベキモノデアラコトヲ認メナクテハナラヌ、ソレヲ特別議會ニ出シテ來ラレテ、我々ハ之ヲ普通ノ時ト同ジヤウニ、成程御尤デアルトシテ之ニ協賛ヲ與ヘルコトガ出來ナイ、即チ最初カラ申ス通り時期ガ違フト云フコトハ、經濟ノ上ニ於テ非常ニ宜シキ時期ニ非ズ、又ソレト同時ニ解散後ノ特別議會ニ於テハ、我々ハ國防ニ傷ガナイト信ズル限り、斯ノ如キモノニ對シテ、如何ニモ是ハ協賛ヲ與ヘルコトガ出來ヌデアリマス、此譯合デアルガ故ニ、我々ハ一日モ早く稅制整理ヲ致サレテ、有ユル根本的稅制整理ヲスルト同時ニ、増稅ヲスルナラバ然ルベキ増稅ヲシ、之ト共ニ國防計畫ヲ出サレシコトヲ望ム、若シモ稅制整理ガ左様ニ早く出來ナイト云フナラバ、少ナクトモ此所得稅法案ノ如キハ、稅制整理委員會ニ諮問サレテ、其等ノ意見ヲ徵シ、比較對照シテ、整理ノ曉ニ大ナル變動ノ無イコトヲ豫期シテ、此議場ニ提出セラル、ヤウニ、本年ノ冬ニ至リマシテ其順序ヲ踏ンデモ、決シテ曉シトシナイ、我々ノ意見ナル

モノハ斯ノ如キモノデアル、此趣旨ニ依リマシテ、此修正案ニ對シテモ反對スル所ノ者デアリマス(拍手起ル)
 ○議長(奥紫三郎君) 堀切善兵衛君
 (堀切善兵衛君登壇、拍手起ル)
 ○堀切善兵衛君 諸君、私ハ所得稅法外五件、此提案及政友會ノ修正案ニ對シ、贊成ノ意見ヲ述ベヤウト思フノデゴザイマス、唯今大口君ハ延期論、殊ニ今度ノ國防計畫、是ハ既ニ四箇月モ延バシタモノデアリマスガ故ニ、更ニ今後八箇月之ヲ延バシタリトテ、ソレ程差支ヲ生ズルモノトハ思ハヌ、殊ニ其國防計畫ノ内容ヲ詮議致シマスルト、ドウモ一日モ緩ウスベキモノヤラ、スベカラザルモノヤラ、甚ダ疑ハシイト云フヤウナ説カラ、滔々御論ジニナリマシタガ、約半分以上是ハ豫算ノ問題ニ關係致シテ居ル、隨テ私ハ是ハ省略致シマス、唯タ既ニ陸海軍ノ當事者ガ、國防充實ノ爲メニ一日ヲ緩ウスベカラズトシテ提出シタルモノガ、已ムヲ得ザル事情ノ爲メニ、今日マデ四箇月モ遅レテ居ルカラ、更ニ八箇月モ遅レサスト云フコトハ、是ハ私ハ難キヲ人ニ強ユルモノデアラウト思フテ居リマス、隨テ我々ハ陸海軍ノ當局ノ説明ニ信賴シテ、國防充實ノ必要ヲ一日モ緩ウスベキモノデアナイト云フ見地ヨリシテ、隨テ之ニ要スル費用、最モ是ハ取り易イ所又是非取ラナケレバナラヌ所ヨリ、之ヲ政府トシテ徵收シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、然ラバ何所ニ此財源ヲ求ムベキカト言ヘバ、今回政府提出ノ通り、酒稅ノ増徴及所得稅ノ増徴ヲ以テ、私ハ最モ適當ナリト認メ、此中酒稅ニ就キマシテハ餘リ異論ハ無イカラ略シマシテ、所得稅ニ就テ卑見ヲ申述ベマスナラバ、此増稅ノ目的ハ、前申上デマシタ通り、國防充實ノ費用ニ充テル爲メデアル、併ナガラ現在ノ所得稅ヲ此儘ニシテ、徒ラニ其稅率ヲ擴張シテ參リマスルト、現在ノ所得稅ノ缺點、是ガ多、益、現レテ參リ、負擔ノ不公平ハ愈、甚シキヲ加フルノデアリマス、現在ノ日本ノ所得稅ニ依リマスルト、財產所得ノ中ノ最モ著シキモノハ、即チ株式ノ配當金、斯様ナルモノニ對シテ之ヲ受取タル個人ニ對シテ何等ノ課稅ヲシテ居ナイノデアリマス、而モ近年日本ノ商工業ガ非常ナル發展ヲ來シタル結果、株式配當金ハ驚クベキ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、昨年ノ統計ニ依リマスルト、全國ノ會社ノ拂込額ガ約六十四億圓、積立金十七億圓、是ヨリ配當セラル、金額ガ實ニ七億千三百餘萬圓ニ達シテ居リマス、七億圓カラノ配當ガ各人ノ「ポケット」ニ入ルニ拘ラズ、之ニ對シテ政府ハ一文モ其個人ヨリシテ稅ヲ取ツテ居ナイノデアリマス、所謂源泉課稅法ニ依テ會社ニ課稅ヲシテ居リマスガ、會社ヨリ配當ヲ受ケ

タル個人ニ對シテハ、一錢ト雖モ其「ポケット」カラハ徵收シテ居ナイノデアリマス、是ハ折角七億ヲ算スル所ノ國家ノ大事ナル財源ヲ、唯ダ徒ラニ抛擲シテ居ルバカリデナイ、此缺陷ノ爲メニ國民ノ負擔ノ公平ヲ期スル上カラ申シマシテモ、甚シキ缺點ガ茲ニ現レテ居ルノデアリマス、是ハ理論ヲ申シマスルヨリモ、私ハ最モ著シキ五六ノ例ヲ茲ニ申上ゲテ置クノガ、一番明カデアラウト思フ、是ハ大正六年度ノ日本國デ一番ノ金持ノ人カラ——金持ノ人デアリマセヌ、一番所得ノ多カタ人カラ段々ト其所得ヲ綜合シ、而シテ是等ノ人々ノ拂ヒマシタ所ノ稅額ヲ列ベマスルト、斯ノ如キ事ニナレテ居ル、大正六年度ニ一番ニ所得ノアツタ人ハ八百七十一萬五千餘圓ノ所得ヲ有シテ居ル、此人ハ幾ラ所得稅ヲ拂ツカト申セバ、四百七十三圓ヲ納メテ居リマス、二番目ニ所持ノ多カタ人ハ七百八十萬圓カラノ所得ヲ有テ居ル、之ニ對シテ拂ツカト所得稅ハ實ニ三百一十一圓ト云フコトデアル、三番目ノ人ハ四百八十八萬四千圓ノ所得ヲ有テ居ル、拂ツカト所得稅ハ七千七百圓ニナレテ居リマス、其次ハ四百三十四萬一千圓ノ所得ヲ有テ居ル、所得稅トシテ支拂ツカトモノガ九千三百三十八圓、其次ノ人ハ二百五十三萬九千餘圓ノ所得ヲ有テ居ル、所得稅トシテ支拂ツカトモノガ實ニ三百二十一圓、斯様ナ有様デアル、何百萬圓ノ所得ヲ以テシテ、而シテ政府ニ納ムル所僅ニ千分ノ一、或ハ二千分ノ一ニ足リナイ有様デアル、是ハ決シテ是等ノ大ナル所得者ガ脫稅ヲシテ居ルモノトハ、私ハ決シテ考ヘナイノデアリマス、是ハ法律ノ規定ノ如ク租稅ヲ拂ツテ居リ、政府ハ規定ノ如クキリ——ト取立テ、居リマシテモ、今日ノ所得稅法ニ於キマシテ、是以上取ルコトハ出來ナイノデアリマス、斯ノ如キハ現行所得稅法ノ、非常ナル缺陷ト申サザルヲ得ナイノデアリマス、僅ニ二千圓ノ所得ヲ以テシテ、而シテ相當ニ高イ稅額ヲ一方ニ於テハ納メナケレバナラヌ、何百萬圓ノ大所得ヲ以テシテ、僅ニ數百圓、精々數千圓位ノ所得稅ヲ納メテ居ル、而シテ是デ負擔ノ公平ヲ期シタイト申スコトガ出來マスカドウカ、我々ハ先ヅ斯ノ如キ點ニ向テ改正ヲ施シテ、負擔ノ大ナルモノハ、負擔ノ小ナル者ノ負擔以上ニ、大ナル納稅ヲ國家ノ爲メニシテ貫ハナケレバナラヌト云フ考デアリマス、況ヤ是ガ世界ヲ通ジテ今日ノ風潮デアル、世界ヲ通ジテ是ガ一大現象デアルト申シテモ宜シイノデアリマス、斯ノ如ク負擔ノ非常ニ大キナ所ヨリハ餘計ニ之ヲ徵收シテ、而シテ負擔ノ力ノ非常ニ無イ方面ヨリ、我々ハ大ニ輕減ノ途ヲ開イタノデアリマス、尤モ

今回ノ修正案ニ依リマスルト云フト、一番小ナル所得者ニ對シテ僅ニ百分ノ〇、五課稅ヲ爲スコトニシテ、先程大口君ハ今回ノ政友會ノ修正案ハ、上ノ方ノ稅率ヲ減ズタケレドモ、小サイ方ノ稅率ヲ減ズル割合ガ甚ダ少ナイト云フコトヲ言ハレマシタガ、今マデ政府ノ案ニハ百分ノ一トアツタモノフ、〇、五ト致シタノデアリマスカラ、輕減ノ割合カラ申シマスルト、修正案ハ實ニ五割ヲ減ジタノデアリマス、更ニ其上ニ於キマシテモ、或ハ千圓或ハ千五百圓程度ニ於キマシテハ、成程金額ハ少ナイカモ知レマセヌケレドモ、輕減ヲ致シタル其割合カラ言ヘバ、大所得者ノ稅率ヲ輕減シタル割合ヨリモ遙ニ大キイノデアリマス、ソレカラ二一圓、三三圓等ノ少額所得者ニ對シテ、何故ニ修正案ニ於テ修正ガ現レテ居ナイカト云フ御質問デアリマシタガ、今回修正案ノ結果是等ノ少額所得者ニ對シテハ、或ハ家族ノ多少ニ應ジテ控除金ヲ増ストカ、或ハ其勤勞所得ニ對シ、從來ハ僅ニ一割ノ控除額ニ過ギサリシモノヲ、今回六千圓以下之ヲ二割ニ増シタルガ爲メニ、事實ノ上ニ於テハ二一圓、三三圓等ノ少額所得者モ、多大ノ恩典ヲ被ラテ居ルト申シテ差支ナイノデアリマス、決シテ修正案ガ大所得者ニ對シテノ稅率ヲ減ジ、下ノ方ニ對シテハ甚ダ冷淡デアツタト云フガ如キ御批評ノアツタノハ、事實顛倒致シテ居ルモノナリト、私カラ申上ゲテ差支ナカラウト思フ、次ニ憲政會ノ本田君、或ハ國民黨ノ大口君モ、政府ガ修正案ヲ提出スレバ、政友會ハ之ヲ修正スル四十二議會ニ於テ然リ、今回モ亦然リ、斯ノ如ク修正バカリシテ居ラハ、政府ノ提案ノ精神ハ殆ド滅却セラレタデハナイカ、斯ノ如クニシテ政府ハ尙ホ責任ヲ感ゼザルヤ否ヤ等ノ、甚ダ激越ナル御質問ガゴザイマシタケレドモ、併ナガラハ是ハ所得稅ノ改正ト云フガ如キ極メテ重大ナル法案ヲ諸君ハ餘リニ輕ク御考ニナツテ居ル爲メニ、斯様ナ御疑問ガ起ルノダラウト思フノデアリマス、是ハ何處ノ國ニ於キマシテモ國家ノ稅法ノ根本トナツテ居ル所ノ所得稅、此改正ニ際シマシテハ、二年ヤ三年ノ間ニ容易ニ是ガ出來ルモノデアハナイノデアリマス、幾年モ掛テ何回カ修正ニ修正ヲ重ネ、而シテ漸ク是ガ出來上テ居ル、英吉利ニ於キマシテモ、佛蘭西ニ於キマシテモ、昨年出來マシタ伊太利ノ所得稅等ニ於キマシテモ、殊ニ佛蘭西ノ如キハ、昔佛戰爭以來何十年ノ間所得稅改正ガ大問題デアツテ、漸ク二三年前ニ佛蘭西デ是ガ出來上テタト云フヤウナ次第デアリマス、決シテ一年ヤ二年ノ間ニ完全ナル物ヲ拵ヘヤウト云フテモ、ソレハ出來ルモノデモ何デモナイノデアリマス、隨テ政府ガ四十二議會ニ始メテ提出シ、而シテ今回茲ニ提出シテ、多少ノ

修正ヲ得テソレガ上下兩院ヲ通過シテ、綜合主義ニ基ツク所ノ所得稅法ガ我國ニ實施セラレタトスレバ、是ハ政府ノ私ハ大成功ナリト申シテ差支ナイダラウト思フ、(拍手スル者アリ)況ヤ此修正ニ依テ、政府ノ主義方針ガ減却シタノデアハナイカデアリマス、主義精神ハ儼トシテ、少シモ之ガ爲メニ減セラレテハ居ナイ、即チ政府ハ社會政策ヲ加味シナケレバ、綜合主義ヲ採用シナケレバ負擔ノ公平ヲ期スル譯ニハ參ラヌ、是ガ政府ノ考デアリマス、而シテ社會政策ハ加味セラレタデアリマセヌカ、綜合主義ノ其原則ハ少シモ之ガ爲メニ傷ケラレテハ居ナイノデアリマス、綜合主義ニ依テ個人ニ綜合シテ課稅スル、是ト同時ニ社會ナリ源泉ナリニ別ニ課稅スルト云フコトヲ、何モ廢ス必要ハナイノデアリマス、ソレハ日本バカリデナイ、國際聯盟ニデモ加盟シテ居ルヤウナ歐米ノ大國デハ、一面ニ於テ綜合主義ニ依テ、各個人ニ悉ク課稅ヲシテ居ルト同時ニ、源泉ニ依テ同ジク會社其他ノ法人ニ、悉ク課稅シテ居ルノデアリマス、是ハ當然私ハ然ルベキ事ト思フ、ト云フノハ抑、法人ヲ組織スル林主等トハ全然是ハ別ナモノデアアル、獨立シタルモノデアリマス、國家ハ法人ニ對シテハ、自然人以上ニ之ヲ保護シ、而シテ營業ヲ爲サシメテ居ルノデアリマスカラ、會社銀行其他ノ法人ハ、之ニ對シテ營業稅モ拂ヒ、所得稅モ拂フノハ當然デアアル、是ト同時ニ法人ヨリ配當ヲ受ケタル人々、或ハ賞與金ヲ貰タル重役等ハ、之ニ對シテ又別ニ綜合シテ課稅サレテ、是ハ何モ差支ナイノデアアル、而シテ今回政府ガ初マリハ、綜合課稅ニ依テ課稅ヲスルト、會社ノ方ハ之ヲ課セナイコトニシヤウトシタノガ一ツノ主義原則デアリマスケレドモ、併ナガラ片方ヲ止メテシマッタ方ガ宜イカ、綜合課稅ニ依テ先ツ取り、同時ニ源泉課稅シテ、兩方課稅スルノゴトガ宜イカト云フタナラバ、私ハ是ハドチラデモ議論ノ立ツ問題デアルト思フ、恐ラクハ今後我國ノ稅制ニ於キマシテモ、世界各國ノ例ト等シク、個人ニ綜合シテ所得稅ヲ課シ、同時ニ其源泉タル會社銀行其他ノ法人ニ對シテモ、亦相當ノ課稅ヲシテ置クコトニナルト思フノデアリマス、隨テ今回ノ政友會ノ此修正ハ、何等政府最初ノ提案ヲ傷ケタルモノデモ何デモナイノデアリマス、(拍手起ル)同時ニ憲政會ノ諸君、殊ニ唯今ノ大口君ノ如キハ、所得稅改正ト云フガ如キ此重大ナル問題、是ハ何モ此際ニ急イデアル必要ハナイ、遠カラズ財政經濟調查會モ開カルノデアアルカラ、須ラク其議ニ付シテ、而シテ其他稅ト一絡ニ調査研究シテ改正ヲスルガ宜シト、斯様ナル御意見デアリマス、一應御尤ノ御意見見ダハアリマスガ、併ナカラ三土君モ申サレタ如ク、財政調查會ノ議ノ出來上

ルノハ、果シテ半年ヤ一年デ出來ルカドウカ、先程モ申シマシタ如ク、佛蘭西其他ノ所得稅改正ニハ、何十年ノ歲月ヲ掛テ居ルト云フ例ヲ以テ見テモ、理想的ノ所得稅法ガ茲ニ出來ルガ爲メニハ、半年ヤ一年デ到底ムツカシイダラウト私ハ思フ、然ラバ理想ノ修正案ガ出來ルマデ、我々ハ待テ居ナケレバナラヌカドウカト申シマスルト、先程モ申シタ如ク、現在ノ所得稅ハ餘リニ不完全ナモノデアリマス、餘リニ負擔ノ不公平ガ甚シイノデアリマス、理想ノ案ノ出來ルヲ待タズシテ、我々ハ之ニ對シテ相當ノ修正ヲ試ミナケレバナラヌダラウト考ヘル、(拍手起ル)而シテ此財政調查會ガ開ケヤウト、或ハ如何ナル調査會ガ開ケヤウト、苟モ今後ノ日本ノ租稅制度ノ中ニ於テハ、所得稅ハ其根本ヲ成サナケレバナラヌモノデアリマス、所得稅ヲ中心トシテ、其他地租トカ、營業稅、其他ノ國稅ハ色ミデアリマスケレドモ、所得稅ガ其中心デナケレバナラヌ、又此所得稅ニハ將來世界ノ大勢力ニ順應シテ、社會政策ヲ加味シナケレバナラヌト云フヤウナ點、又其所得稅タルヤ、是ハ綜合主義ニ依テ課スルニ非ズンバ、負擔ノ公平ヲ期スルコトガ出來ナイト云フガ如キ、今回我々ガ採用シマシタル所ノ大ナル精神、此原則ハ如何ナル調査會ガ日本ニ出來ヤウト、斷ジテ私ハ變ルコトアルベカラズト確信スルノデアリマス、(拍手起ル)然ラバ何モ此財政經濟調查會ノ案ガ出來ルノヲ待テ居ル必要ハナイ、直チニ之ヲ改正シテ然ルベシト思フノデアリマス、殊ニ此點ニ就キマシテハ、憲政會ノ諸君ナドモ、十分能ク御承知ノ通り、或ハ今回歐羅巴ノ大戰爭以後、我國ノ人心ノ上ニハ主權變化ヲ生ジテ居ルノデアリマス、殊ニ戰爭後ノ我が經濟ハ非常ナル發展ヲ來シテ、歐洲戰爭前マデハ、日本全國ニ於テ一人百圓以上ノ所得ノアツタ者ガ、僅ニ五指ヲ屈スルニ過ギナカッタモノガ、今日ニ於テハ三四十名ヲ算シテ居ル、貧富ノ懸隔ハ益々甚シキヲ加ヘントシテ居ルノデアリマス、然ルニ此租稅分擔ノ根本的タル所得稅、此負擔ガ公平デナイト云フコトデアツタナラバ、階級間ノ反感、衝突、軋轢等ハ、今後益々甚シキヲ加ヘザルヲ得ナイ譯デアリマス、(拍手)殊ニ中ニハ所謂煽動政治家ナドモアツテ、此間ニ乘ズルナラバ、(拍手)實ニ階級間ノ衝突、軋轢ハ何所マデ激成サレルカ、測リ知ルベカラサルモノガアラウト思フ、是等ノ點ニ對シテ我々ハ深キ考慮ヲ拂ヒ、是等ノ原因ヲ今ニ於テ一掃シナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアアル、今回ノ修正案ハ此意味カラ出來タノデアリマシテ、苟モ此修正案ニ反對セラレル人ハ、將來斯ノ如キ憂慮スヘキ現象ガ或ハ我國ノ將來ニ起ル

カモ知レヌト云フ此危險ナル惡影響ニ對シテ、考及バザル淺薄ナル考ノ人ト申サ、ルヲ得ナイノデアアル、而シテ今回ノ此改正案ガ實行セラレバヤウニナクナラバ、我々同志ノ諸君ノ中ニ、殊ニ此改正案ニ贊成セラレル所ノ諸君ノ中ニモ、從來ニ比シテ、或ハ何倍或ハ何十倍ノ高キ租稅ヲ負擔シナケレバナラヌ所ノ人モ、少クナイダラウト思フ、然ルニ是等ノ諸君ガ何レモ自分ノ利害得失ヲ度外視シ、而シテ唯ク國家ノ爲メ社會ノ爲メニ、正シキ所ニ向テ進マントセラレテ居ル所ノ其御精神ニ對シテ、恐クハ世ノ中ノ有識者ハ、私ハ多大ノ敬意ヲ拂フコトニ躊躇シナイダラウト思フ

○議長(與繁三郎君) 靜ニ...

○堀切善兵衛君(續) 要スルニ本案ニ贊成ヲスルト反對ヲスルトハ、一面カウ言ヘバ是ハ黨利ノ爲メデアアルカ、國家ノ爲メデアアルカ、此岐レ路デアリマス、己レヲ犧牲ニシテ、國家社會ノ爲メニ進ンデ行クカ、或ハ利己心ノ爲メニ制セラレルカノ岐レ路デアルト申シテ差支ナイノデアアル、此意味ニ於テ私ハ、己レヲ犧牲ニシテ、而シテ國家ノ爲メ社會ノ爲メニ此案ニ贊成セラレタル所ノ諸君ニ對シ、深キ敬意ヲ拂フト同時ニ、此案ノ通過ヲ妨害セラレ、ガ如キ諸君、或ハ徒ラニ非難攻撃ヲ試ミル諸君ニ對シテハ、寸時モ早ク御反省アランコトヲ切望スル次第デアリマス(拍手)

○議長(與繁三郎君) 津原武君

(津原武君登壇拍手)

○津原武君 諸君我々ハ連日慷慨激烈ナル論議ヲ聽クコトニ疲レタノデアリマス、本案ニ就キマシテハ、須ラク冷靜ナル研究ノ態度ニ於テ、又嚴正ナル批判ニ於キマシテ、之ヲ取扱フコトガ至當ナリト考ヘルノデアアル、私ハ極メテ簡單ニ私ノ所信ヲ述ベマシテ、我黨ノ本田君ノ意見ヲ支持シタイト考ヘルノデアリマス、申スマデモナク我々尊敬スル三土君ノ言ハル、通り、所得稅ナルモノハ、實ニ直接國稅ノ中樞デアアル、又其國民ニ普通ナル意味ニ於キマシテ、此改正案ガ極メテ重大デアルト云フコトハ、我々ト致シテ之ヲ認メザルヲ得ヌノデアアル、固ヨリ現行ノ所得稅法ナルモノガ、多クノ缺點ヲ含ムト云フコトハ事實デアアル、又之ト同時ニ此修正案——政友會ヨリ提出セラレタル所ノ修正案ナルモノガ、多クノ進歩シタル立法ヲ含シ居ルト云フコトハ、我々固ヨリ之ヲ否定シナイノデアアル、併ナガラ諸君、昔ヨリ申シマス通り、時ノ經過ハ惡稅ト雖モ、可ナリ之ヲ良稅トスルト云フ言葉ガアル、現在ノ所得稅ガ幾ラ理想ニ合ハナイト致シタ所デ、我國民ハ此稅法ノ下ニ於キマシテ、其經濟組織ヲ定メテ居ルノデアアル、然ラバ即チ之ニ向テ重大ナル改革ヲ與ヘルト云フコトニ就テハ、十分ナル考慮ヲ加ヘナケレバナラヌト云フコトハ、恐ラク反對黨ノ諸君ト雖モ御同感ト信ズルノ

デアリマス、然ルニ政府ガ此重大ナル法案ヲ此短期ノ臨時議會ニ提出セラレタルコトハ、果シテ國民ニ忠實ナルモノデアアルカドウカ、唯今堀切君ノ御意見ヲ承ルト、世界ニ於ケル所得稅ノ改正ナルモノハ、短キモ一二年、現ニ佛蘭西ノ如キハ二三ノ年ヲ經テ漸ク其改正ヲ完結シタノデアアル、故ニ現内閣ガ短期ニ此所得稅ノ改革ノ目的ヲ達シ得タラバ、確ニ大成功デアルト云フ御言葉ガアツタ、私ハ此點ニ就テ多少ノ疑ヲ持ツデアリマス、若シ極メテ短キ議會ニ於テ、十分ナル考慮モ加ヘズ致シマシテ、此法案ヲ通過致シマシタラバ、或ハ虞ル此法案ガ粗製濫造ニ陥ルコトハナイデアアラウカドウカ、私一個ヨリシテ申シマスナラバ、此法案ニ就テハ今少シ十分ナル研究ヲ致シ見タイ、況ヤ現在ノ經濟界ノ變調ニ處シテ、輕々シク斯ノ如キ重大案ヲ通過セシムルト云フコトハ、甚シキ一種ノ怖レヲ懷カザルヲ得ヌノデアリマス、尤モ本案ハ元ト國防充實ノ資源ヲ得ルコトニ淵源シタ案デアリマス、十分ノ考慮ヲ致サナケレバナラヌコトハ勿論デアアル、然ルニ大正九年度ノ陸軍ノ新規充實計畫ハ二億二千二百萬圓デアリマス、海軍ニ於ケル新規充實計畫ハ一億一千八百萬圓、合計一億四千圓デアリマス、此數字ハ恐ラク違ハスト思フ、固ヨリ國防ノ充實ナルモノハ、無論之ニ對シテハ、十分ノ優越ノ權利ヲ與ヘナケレバナラヌコトハ、勿論デアアル、諸君、更ニ他ノ數字ヲ考ヘテ見ナケレバナラヌ、今國庫ニ何程ノ剩餘金ガゴザイマスカ、現在我國庫ニハ、大正七年度ト八年度ノ剩餘金ト致シマシテハ、大正九年度以降ニ繰越スベキ所ノ剩餘金ハ、三億二千七百圓デアリマス、尙ホ其以外ニ於テ、大正八年度ノ租所中自然增收ニ係リマスルモノガ、其外ニ二億二千五百萬圓デアルト云フコトヲ、固ク御諒解ヲ乞ヒタイノデアリマス、而シテ此増稅案ニ依テ產出ス所ノ金ガ何程デアアルカト申シマスナラバ、大正九年度ニ於キマシテハ僅ニ二千三百萬圓、此増稅案ニ依テ產出ス所ノ歳入金額ハ、僅ニ二千三百萬圓デアルト云フコトヲ、又同時ニ知ラナケレバナラヌノデアリマス、サスレバ單ニ大正九年度ノ國防計畫ヲ——新規國防計畫ト云フモノヲ切離シテ、考ヘテ見マスル時ニ於キマシテハ、此増稅案ト云フモノハ、海ニ何等ノ價值モナク、大シタ問題デアナイノデアリマス、唯ク問題ハ將來ノ問題デアリマス、恒久ノ財源ヲ得ルト云フコトガ主眼ニナテ、提出セラレタノデアリマスルカラ、此點ニ就キマシテ、充分ニ考慮ヲ致シ見ナケレバナラヌト云フノガ實ニ今日ノ問題デアアル、私共ト雖モ固ヨリ國防ノ計畫ヲ不確實ナル財源ノ上ニ置クト云フコトハ、何所迄モ之ヲ避ケナケレバナラヌト云フコトハ勿論デアリマス、併ナガラ先程三土君ノ御議論ヲ承リマスルト云フコト、此我々ノ今手ニ

アル所ノ増稅案ナルモノハ、一時的立法デアアル、無論將來——近キ將來ニ於テ、根本的ニ改正セラレベキモノデアアルト云フコトヲ言ハレタノデアアル、政府ノ意思果シテサウデアアルカドウカト云フコトハ、別問題トシマシテ、若シ此議論ニ依リマスルナラバ、所謂一時的立法デアアル以上ハ、此場合ニ於テ必シモ極久ノ財源ヲ調査スル必要モナク、權變的の一時的手段ニ依テ、大正九年度若ハ十年年度ヲ支ヘルト云フコトハ、必シモ不當デアルトハ信ズルコトガ出來ナイノデアリマス、ソレカラ御注意ヲ乞ヒタキ事柄ハ、委員會ニ於キマシテ、山本農商務大臣ハ斯ノ如ク言ハレタノデアリマス、此増稅案ナルモノガ我々現在ノ經濟社會ヲ刺撃シ、産業ノ上ニ惡キ影響ヲ惹起スト云フコトハ、之ヲ認メルノデアアル、併ナガラ何ニセヨ國防計畫ナルモノハ、總テノ産業政策ノ上ニ優越スルモノデアアル、隨テ産業政策ト云フコトハ、或程度マデハ犧牲ニ致シテモ、此計畫ヲ是認シタノデアアルト云フ意味ノ御答辯ヲ我々ハ拜聽致シタノデアリマス、併ナガラ此増稅ナルモノハ、近キ將來ニ於テ改正セラレベキモノデアアル、又大正九年度、又大正十年度ニ於ケル、新規國防計畫ノ金高ト云フモノハ、何程ノモノデモナシ、一面ニ於キマシテハ前ニ數字ヲ掲ゲテ申上ゲタルガ如キ、大ナル剩餘金ヲ持テ居ル、然ラバ此場合ニ於テ、必ズシモ産業ノ發展ヲ阻害致シ、經濟界ニ大ナル衝動ヲ與ヘテマデ、急ニ之ヲ改正シナケレバサラヌト云フ必要ガアルデアアラウカ、如何デアアルカ、私共ト致シマシテハ、甚シク此點ヲ疑フノデアリマス、而モ此案ニ就テノ主義精神等ヲ玩味致シテ見マスルト云フト、私共ハ少シ臍ニ落チナイ點ガアリマス、唯今堀切君モ御說明ニナクタクヤウデアリマスガ、此改正案ガ多クノ社會政策ノ精神ヲ取入レ、而シテ綜合課稅主義ニ依テ生レタモノデアルト云フコトハ、大體ニ於テ之ヲ認ムルノデアアル、併ナガラ其主義精神ガ果シテ徹底シテ居ルカ、果シテ此主義精神ガ十分ニ徹底的ニ、此法文ノ上ニ現レテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見ルノニ、我々ガ手ニ致シテ居リマス所ノ參考書ニ依リマスレバ、現行法ニ於テ——現行ノ所得稅法ニ於キマシテ、第三種ノ所得稅ト、ソレカラ第一二二種ノ所謂源泉課稅ニ屬スルモノト、歩合ト、改正法ニ依ル所ノ源泉課稅ニ屬スルモノト、第一二種ノ所得稅ト個人ニ綜合シタル第三種ノ所得稅トノ金高ヲ對照シテ見マスルト云フコト、奇妙ナ計算ガ出ルノデアリマス、現行法ニ依リマスレバ、源泉課稅ニ屬スルモノト綜合課稅ニ屬スルモノトガ、五分々々ニナテテ居リマス、然ルニ此改正案ニ依リマスルト云フコト、源泉課稅ニ屬スルモノガ五分六厘トナテ、綜合課稅ニ屬スルモノガ四分々々トナテテ居ルノデアアル、是デモ綜合課稅ノ主義ガ、十分ニ徹底シテ居ルモノト云ヒ得

ルカドウカ、又社會政策ノ主義ガ如何ニ取入レラレテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見ルノニ源泉課税ノ方ヲ御殖シニナタト云フノハ、殊ニ政友會ノ修正ニ依テ、配當所得ト云フモノヲ加ヘラレマシク結果、小サイ株主ノ配當又小サキ銀行預金者ノ所得ト雖モ、齊シク所得稅ヲ課セラレルノデアリマス、是ガ如何ニシテ社會政策ノ主義ガ、十分ニ徹底的ニ取入レラレタリト云ヒ得ルカドウデアラウカ、ドウモ此點ニ就テ、十分ニ主義精神ノ徹底ガ缺ケテ居ルト思フノデアリマス、(ヒヤ、)ト呼フ者アリ)ソレカラ若シ政友會諸君ノ提出セラレタル所ノ修正案ヲ、是認致スト云フコトニナリマスレバ、會社關係ノ所得ニ於テハ、四重ニ課税ニナルト云フコトヲ注意シナケレバナラヌ、第一ニ配當ニ於テ百分ノ四ヲ取ラレ、第二ニ超過所得ニ於テ百分ノ二カラ百分ノ十五マデヲ取ラレ、第三ニ留保所得ニ於テ、百分ノ七、五カラ百分ノ十五マデヲ取ラレ、サウシテ之ヲ個人ニ配當セラレタル場合ニ於テハ、累進的ニ課税セラレ、ノデアアル、會社ノ所得カラ實ニ斯ノ如ク四重ノ課税ヲセラレテ、而モ是ハ小株主ト雖モ、總テ課税セラレ、ノデアリマス、果シテ然ル時ニ於テハ、此法案ガ如何ニ現在ノ株主ヲ刺戟シ、其結果ハ企業心ヲ沮喪セシメ、一面ニ於テハ銀行ニ於ケル擔保價格ヲ下落セシメ、其經濟界ニ及ボス所ノ衝動ガ、如何ヤウデアアルカト云フコトヲ考ヘ來リマス、容易ニ此ノ案ニ向テ贊同ヲ表スルコトガ出來ナイノデアリマス、(拍手)ソレカラ現行法ニ於テ——此改正案ニ於テ甚シク面白クナイト思ヒマス、事ハ、此改正ノ法律ヲ過度ニ既往ニ遡ラスト云フ點デアリマス、此點ニ就テハ委員會ニ於テ本員ハ質問ヲ致シテ、委員會ノ速記録ニモ載テ居ルコト、考ヘマス、大正九年八月一日ヨリ實行スル所ノ法律ヲ所得稅關係ノ——第三種ノ所得稅關係ニ就テハ、本年一月一日ニ遡ラセルト云フノデアアル、固ヨリ稅法ニ於キマシテハ、四月一日ヨリ實施スベキ法律ヲ、一月一日ニ限ラセルト云フ如キ事例ハ多クノデアアル、ケレドモ八月一日ト申シマス、ナラバ、既ニ一年ノ半バ以上ヲ經過シテ居ルノデアリマス、所得稅關係ニリ申シマス、ナラバ、本年ハモウ剩ス所僅ニ五箇月、過去ノ七箇月間ノ利益ト申スモノハ、或ハ之ヲ消費シ、或ハ之ヲ資本ト致シテ居ルノガ實際ノ模樣デアリマス、然ルニモ拘ラズ此八月一日カラ實施スル所ノ法律ヲ、一月一日ニ遡ラシテ、或ハ消費シ、或ハ資本化シテ居ル所ノ金額ニ向テマデ、増稅ヲ課スルト云フコトニナリマシタナラバ、ソレハ國民ノ財產ノ安固ヲ缺キ、一種ノ財產ヲ追奪スルト云フ如キ結果ニ陥ルノデアラフテ、斯ノ如キ立法ハドウモ公正ノ原則ニ反スルト思フノデアリマス、(拍手)次ニ此法律ハ課税

ノ最低限ガ甚ダ低イノデアリマス、即チ現行法ノ五百圓ト云フノ六百圓ニ引上ゲタ、尙ホ其以外ニ於テ、勤勞所得ニ對スル控除アリ、扶養義務者ニ對スル所ノ特別控除アリ種々ノ長所ハゴザイマス、長所ハゴザイマス、ケレドモ、此租稅ノ最低限ヲ六百圓ニ致シタト云フコトハ、我々ハ其低キニ驚クノデアリマス、如何トナレバ之ヲ東京市中ノ物價指數ヲ標準トシテ考ヘテ見マシタナラバ、大正一二年頃ノ物價指數ト今日ノ物價指數ヲ較ベテ見マシタナラバ、大正二年一月ノ東京市中ノ物價指數ヲ百トスレバ本年ノ三月ノ物價指數ハ三百十七デアリマス、斯ノ如ク物價ノ引上ゲタト云フテ居ルニ拘ラズ、此最低限ノ僅カ百圓タケ引上ゲタト云フコトハ、我々ト致シマシテハ、如何ニモ遺憾ニ存スル譯デアリマス、此故ニ我々ニ於キマシテハ、此最低限ヲ一千圓ニ引上ゲルト云フ所ノ修正案ヲ提出致シテ、三土君ノ御言葉ヲ精リテ言フナラバ、是ハ唯タ徒ラニ民衆ニ媚ブル爲メニ案ヲ提出シタノデアラフ、眞ニ之ヲ遂行スル意思ノナイト云フコトハ明デアアル、若シ眞ニ民衆ノ爲メニ斯ノ如キ修正案ヲ提出致シタノデアラフナラバ、何ガ故ニ今日マデニ之ヲ日程ニ上ボシ、此増稅案ノ委員ニ付託シナカッタノデアアルカト云フコトノ御議論モゴザイマセウケレドモ、此點ニ就キマシテハ、我々ト致シマシテハ、増稅案ノ委員會ニ於テ十分ニ當局者ノ意見ヲ確メ、然後ニ此案ヲ提出致シタノデアリマス、モ此増稅案ハ、政友會諸君ノ御都合ヨリ致シマシテ、豫算關係ノ案デアリマス、若シ早ク繰上ゲタノデアラフイマス、ガ故ニ、遂ニ此案ヲ上程スルノ機會ヲ得ナカッタト云フコトハ、私共ト致シマシテハ甚シク遺憾ニ感ジマス、デ若シ(簡單)ト呼フ者アリ)憲政會ノ人々ガ民衆ニ媚ビシガ爲メニ、此最低限ヲ引上ゲント云フコトノ案ヲ提出シタモノデアアルト云フコトヲ言ハル、ナラバ、或ハ政友會諸君ヨリ提出セラレタル所ノ此修正案ナルモノモ、寧ロ第三種ノ稅率ヲ變更セラレ、點ニ於キマシテ、或ハ資産階級、若クハ中産階級ヲ放棄シタル、其以下ノ階級ニ媚ビタルモノデアアルト云フ如キ、非難ヲ御受ケニナツテモ同ジ事ニ相成リハシナイカト思フノデアリマス、私ハ免三角斯ノ如キ重大ナル法案ハ、今少シ冷靜ニ考慮致スコトガ至當デアルト思フ加ニ現在ノ經濟界ノ狀態ハ、皆様モ御承知ノ通り、金融ハ梗塞致シ信用ハ狹マリ、工場ハ閉鎖シ或ハ廢業シ、或ハ操業ヲ短縮致シ、有ユル方面ニ於キマシテ、悲觀材料ニ富シテ居ルノデアリマス、此悲觀材料ノ多キ經濟界ニ向ヒマシテ、斯ノ如キ法案ヲ實行致スコトニナリマスレバ、甚シク衝動ヲ與ヘマシタ結果、實ニ我々ガ豫想以上ノ恐慌若クハ亂調ニ陥ルコトヲ虞ル、ノデアリマス、(拍手起ル)簡

單ニト云フ御注文モゴザイマシタカラ、私ハ簡單ニ私ノ所見ヲ述ベマシテ、本案ヲ否決スベキ本田君ノ意見ニ贊成スルノ意志ヲ表明致シマス、(拍手起ル)
 ○議長(與繁三郎君) 森格君
 (森格君登壇、拍手起ル)
 ○森格君 我々委員長ノ報告ニ賛成ノ意見ヲ述ベントスル者デアリマス、本案ハ財政整理ノ目的ヲ以テ提出セラレタモノデアリマス、國費ヲ得シガ爲メニ、增收ヲ目的トシテ修正案ヲ提出セラレタ、國費ヲ得シガ爲メニ、增收ヲ目的トシテ充分徹底サレマシタナラバ、四十二議會ニ於ケル質問應答竝ニ今回ノ委員會ノ席上ニ於テ各派ヲ代表サレテ、御質問ナリ應答ナリサレタル人達ノ其結果ヲ、仔細ニ御研究ニナリマシタナラバ、今日マデ各派ヨリ發セラレマシタル所ノ反對ノ聲ト云フモノハ、悉ク解釋シ去ラレタルモノト斷ジテ宜シト私ハ感ズルノデアリマス、(拍手起ル)諸君、的確ナル收入ヲ得ントシマシタナラバ、勢ヒ國民ノ最大多數ニ關係ガアツテ、國庫收入ノ中樞トナリ、稅政ノ根本ニ觸レル所ノ所得稅ニ著眼スルト云フコトハ、自然ノ歸結デアリマス、既ニ所得稅ニ手ヲ觸レルト云フ以上ハ、從來ノ如キ有様ニ之ヲ放置スルト云フコトハ、之ヲ許サナイノデアリマス、ドウシテモ改正ヲ加ヘテ、最も負擔力ノ多キ者ニ國費ノ負擔ヲ加ヘ擔稅能力ノ少キ者ニ成ルベク輕クスルト云フコトハ、必要ナル事デアアルノデアリマス、(拍手起ル)此方針ヲ以テ社會政策ヲ行ヒ、負擔ノ公正ノ上ニ現實セシムルト云フコトハ、サウシテ一面增收ヲ圖リ、他面ニ於キマシテ綜合課稅主義、累進課稅主義ノ理想ニ出來得ル限リ近ヅカシメテ置タト云フコトハ、政府當局者ガ屢、明言セラレタ所ノ本改正案ノ精神デアリマス、本案ハ四十二議會ニ於キマシテ、既ニ多數ヲ以テ本案ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、國防計畫ニ就キマシテハ、更ニ多クノ言ヲ費ス必要ガナイノデアリマス、國防費ガ確定的ノ財源ニ依ラナケレバナラナイト云フコトハ、既ニ何人モ異論ヲ唱ヘナイ所デアリマス、此必要ノ爲メニ改正案ヲ提出致シマシタ所ノ政府ノ今回ノ態度ト云フモノハ、我々當然認シナケレバナラナイモノト私ハ考ヘマス、(拍手起ル)本案ハ當ニ國防費ヲ捻出スルノミナラズ、同時ニ私ハ斯ノ如キコトヲ考ヘマス、又文明國民ノ最上ノ名譽トスル所ノ、納稅義務ノ履行スル所ノ機會ヲ、此改正案ガ與フルモノデアアルト云フコトヲ私ハ感ズルノデアリマス、(ノウ「ナッテ居ラス」ト呼フ者アリ)從來ノ稅法ハ唯タ稅金ヲ收入スルト云フ單ナル點カラ立案サレテ居リマス、本案ハ國民ノ責任感念ニ應ヘ、負擔力ノ大小輕重ヲ顧ミマシテ、サウシテ社會政策ノ運用ヲ試ミント致シテ居ルモノデアリマス、即チ所得稅法ノ本質上當然ノ歸結タル所ノ綜合課稅

主義、並ニ累進課稅主義ノ精神ヲ實行シテ、負擔ノ權衡ヲ圖ラントスルモノデアリマスカラ、此改正案ハ帝國ニ於ケル稅正上ノ一大事業ヲ政府ガ企テントスルモノデアルト私ハ考ヘルノデアリマス（拍手起ル）私ガ稅法ノ組立ヲ攻究シテ參リマスト、唯今憲政會ノ津原君ヨリ、其他國民黨ノ諸君ヨリ御指摘ニナリマシタ通り、其間ニ多少ノ缺點ガアルコトヲ認メマス、又矛盾モアリ、細目ノ點ニ至リマシテハ、批評ノ餘地ガアルト云フコトヲ拒ムコトガ出來ナイノデアリマス、併ナガラ是等ハ要スルニ、枝葉ノ問題デアアルノデアリマス、唯今津原君ハ短期ナル四十二議會ニ本案ヲ提出シタルコトハ、忠實ナル所以ニ非ズ、或ハ虞ル、粗笨濫造ニ陥リハシナイカト云フコトヲ言ハレマシタ、（其通り）ト呼フ者アリ）併ナガラ此案ハ四十三議會ニ於テ、始メテ提出セラレタルモノデアアリマセヌ、四十二議會ニ於テ、各政黨ノ間ニ二十二分ノ議論ヲ盡サレタ問題デアリマス、議論シ盡サレタルガ故ニ、既ニ四十二議會ヲ通過致シタルデアリマス、若シ諸君ガ濫造デアアル、或ハ粗笨デアアルト云フコトヲ認ムルナラバ、此議會ニ於テ何故ニ濫造デアアルカ、如何ナル點ガ粗笨デアアルト云フコトヲ御指摘ニナルベキ義務ガアルト思フノデアリマス（拍手起ル）内容貧弱ナリ（黙レト呼フ者アリ）大體ニ於キマシテ私ハ、政府案ト云フモノハ其要領ヲ盡シテ居リマス、若シ漸ヲ追ウテ之ヲ改革シテ行クナラバ、此案ガ日本ノ新シキ稅制ノ根柢ヲ築クモノデアアルト云フコトヲ確信スルノデアリマス（拍手起ル）故ニ私ハ本案ハ時代ニ應ジタル所ノ改正案デア、政府ガ大體ニ之ヲ實行セントスルト云フコトハ、國民ニ取テ大ナル幸福デアルト私ハ信ジマス（拍手起ル）ノウノ下呼フ者アリ）諸君、四十二議會ニ於キマシテ爲サレタル所ノ質問應答、或ハ此度ノ委員會ニ於テ爲サレタル質問應答ノ跡ヲ考ヘマスト云フト、諸君ハ本案其物ノ精神ヲ是認シ、目的ノ主ナルモノニ對シテ異論ハナク、僅ニ枝葉ノ點ニ於テ、所見ヲ異ニセラレルト云フコトニ歸著スルノデアリマス、或ハ本案ハ經濟界ノ慣習ヲ破リ、財界ニ大ナル變動ヲ與フルト云フコトヲ言ハレマシタ、（ソレガ大事ガ）ト呼フ者アリ）私モ大ナル變動ヲ或ハ與フルカモ知レナイト認ムルモノデアアル、併ナガラ此問題ハ全體カラ見テ、或ハ個人カラ見テ、富シキ者カラ見、富マザル者カラ見、而シテ働ケル者カラ、働カザル者カラ之ヲ見マスト云フト、本法ノ施行ニ依テ生ズル所ノ變動ナルモノハ、決シテ排斥スベキモノニ非ズシテ、歡迎スベキ所ノ變動デアルト私ハ存ズルノデアリマス、（何ヲ言フノダ、原稿ヲ讀ミ給ヘ）ト呼フ者アリ）其他發言スル者多シ）

○議長（奥繁三郎君） 靜ニ...

○森恪君 又今日ノ産業ニ關係シテ居ル所ノ者ハ、多ク借金ヲシテ居ル、故ニ自由ニ資本ノ融通ヲ爲シタ結果、産業ヲ破リ、社會政策ヲ裏切ルノ虞ガアルト云フコトヲ言ハレル、私ハ之ヲ認ムル譯ニ行カナイノデアリマス、何トナレバ純理カラ申シマシタナラバ、今日ノ如ク事業ニ附隨スル所ノ危險ニ對スル了解、リスタクニ對スル所ノ了解ナキ投資者起業者ガ寄テ出來タ所ノ産業狀態ト云フモノハ、決シテ健全ナル狀態デアナイノデアリマス、是ハ何レノ時ニ於テカ、根本のニ立返ラナケレバナラヌ所ノモノデアリマス、私ハ即チ今日此日ガ其時デアルト云フコトヲ考ヘルノデアリマス（拍手起ル）故ニ此改正案ガ實行サレマシタナラバ、是等ノ誤トタ所ノ起業主或ハ事業者ト云フモノハ、多少抑制セラレマシテ、其所ニ根本の或ハ健全ナル産業振興ノ基ヲ成スノデアラウト云フコトヲ信ズルノデアリマス、財政上カラ立法致シマスト、各國トモ今ヤ其立場ヲ自覺致シマシテ、各種ノ改造創造ニ努力ヲ試ミテ居ルノデアリマス、（ヒヤ）ト呼フ者アリ）我國モ亦此大勢ニ順應シテ、大ニ施設ノ、改造ニ努力スル必要ガアルノデアリマス、此場合ニ於キマシテ、從來ノ如ク廉ク文明ヲ購ヒ、廉ク文化ノ増進ヲ圖ラントスルガ如キ希望ハ、所謂時代錯誤ノ思想デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、恰モ兵役ニ於キマシテ、國民ガ義務ノ遂行ヲ名譽ト心得ルガ如ク、今日ニ於キマシテハ、國費ノ負擔ヲスルト云フコトハ、國民ノ名譽アル義務デアルト同時ニ、權利デアルト考ヘナケレバナラヌ時代デアアル、然ルニ其實際ニ於キマシテハ、動モスレバ國民ノ或ル部分ノモノハ、此權利ナルモノヲ國費ノ負擔ヲ爲スガタメニ行使セズシテ、國費ヲ如何ニシテ免ル、カ、或ハ如何ニシテ負擔ヲ削減センカノ點ニ於テ、此權利ノ行使ヲ爲サントスル所ノ弊ガアルノデアリマス、（ソレハ資本家ダ）ト呼フ者アリ）私ハ歐米各國ガ今日孰レモ綜合課稅主義ヲ採用シテ、其利益ヲ舉ゲテ居ルト云フコトヲ認メルノデアリマスガ、其形勢ヲ具サニ觀察致シマスト云フト、各國トモ幾多ノ困難、幾多ノ波瀾ヲ經テ、綜合課稅主義ヲ採用ノ途ニ至ッテ居ルノデアリマス、我國モ亦同ジ徑路ヲ辿ラナケレバナラヌト考ヘルノデアリマスガ、過去ニ於キマシテ我々ハ、歐羅巴各國ガ所謂血ヲ以テ購ツタル所ノ憲法モ、獨リ我國ニ於テハ泰平ニ之ヲ獲得シ得タト云フ此實驗ニ鑑ミマシテ、私ハ各國ガ此紛擾ヲ來シ、或ハ幾多ノ困難ヲ經テ得タル所ノ、此租稅史上ニ於ケル一大基礎的革新トモ謂フベキ本案ノ如キハ、在野黨ノ諸君、特ニ憲政會ノ諸君ガ、（能ク原稿ヲ見テ）ト呼フ者アリ）泰平ニ本案ヲ解決サレル所ノ雅量ヲ示サレンコトヲ希望シテ此壇ヲ降ルノデアリマス（拍手起ル）

○議長（奥繁三郎君） 前川虎造君

○前川虎造君 私ハ通告ヲ取消シマス

○國務大臣（男爵高橋是清君） 議長

○議長（奥繁三郎君） 大藏大臣

（國務大臣男爵高橋是清君登壇）

○國務大臣（男爵高橋是清君） 此所得稅改正法案ニ就キマシテ、之ニ反對スル諸君ノ中、此改正案ニ對シテ非難セラレルハ、四十二議會ニ於テ政府原案ヲ出シ、修正ガ之ニ加ハリ、其修正ノ加タモノヲ、今回其儘ニ提出シタルモノニ更ニ又修正ガ加ハル、二回モ修正ガ加タト云フコトハ、即チ政府ノ原案ニ於テ、其趣旨等ハ總テ破壞サレタモノデアアル、斯ノ如キ杜撰ノ法案デアアルカラ反對ヲスルト云フノガ、一ツノ理由ニナッテ居ルヤデアリマス、政府ガ初メ之ヲ提出シタル時ニ何ト申シマシタ、稅制整理ヲ目的トスルニ非ズト云フコトヲ度ニ申シテ居ル、國防ノ爲メニ必要トスル恆久財源ヲ得ルガ第一ノ眼目デアアル、而シテ現在ノ所得稅法ヲ其儘ニシテ、增收計畫ヲ致ス以上ハ、其不均衡ナルモノヲ利益、不均衡ヲラシムル憂ガアル、是ニ於テ稍、根本ニ觸レテ改正ヲシタイト云フコトヲ述ベテ居ルノデアアル、而シテ其稍、根本ニ觸レタ改正ヲ致シタルト云フ意味ハ、是マデ會社ノ配當金ニ就テハ、之ヲ他ノ個人所得ト綜合シテ、個人ニ課稅セズニアツタモノヲ、之ヲ個人ニ綜合シテ課稅スルト云フノガ、即チ稍、根本ニ觸レタル所ノ改正デアアル、然ルニ四十二議會ニ於ケル改正ト云ヒ、本日又唯今問題トナッテ居ル所ノ政友會ノ改正案ト云ヒ、何レノ點ニ於テ政府ノ當初ヨリ主張シタル所ノ、其配當金ヲ個人ニ綜合シテ課スルト云フ趣旨ヲ破ッテ居ルカ、一モ無イ、又國防ノ充實ニ必要トスル所ノ財源ヲ減ラシタデモナイノデアアル、シテ見レバ政府ガ修正ニ就テ同意ヲシテ見タ所デ、何等初ヨリ政府ノ主張スル所ノ目的ヲ達セザルニモ非ズ（拍手起ル）趣旨ヲ破ラレタルニモ非ズ、又此改正案ヲ非難スル一ノ理由トシテハ、脫稅ノ餘地ガアルト云フコトヲ言ハレテ居ル、併ナガラ世ノ中ニ不德義漢ガナクナラヌ限リハ、何レノ稅法ニ於テモ、稅ノ途ノナイコトハ無イノデアアル、併ナガラ此改正案ニ於テハ、世ノ中デ脫稅ノ途ガアルト云ウテハ釜シク言ハレタ點ニ於テ、即チ相當ノ防ギガ出來テ居ルノデアアル、又延期ヲシロト云フ御論ガ中ニ盛デアアルガ、是ハ度々申シマシタル通り、國防充實ニシテ既ニ延期ヲ許サ、ル爲メニ、是ガ恆久財源ヲ得ルコトニ就テ延期ノ出來ナイコトハ、三歳ノ童子ニモ明ニ分ルコトデアアル、唯ダ剩餘金ヲ以テ間ニ合ハセル、斯様ナ不確實ナル財政ノ計畫ヲ立テタ場合ニ於テ、若シ政府ガ左様ナ不確實ナル財政計畫ヲ立テタル場合ニ於テハ、諸

君ハ堂々之ヲ政府ニ迫ラナケレバナラヌモノデアアル、國防ノ如キ十數年ニ亙テ完成スベキ所ノ計畫ニ對シ、其金額ノ財源ヲ同時ニ國民ニ承認ヲ求ムルノハ當然ナ事デアアル、而シテ最後ニ津原君ハ國頭ニ於テ、現行ノ所得稅法ハ甚ダ不完備ナリ、缺點ガ多ク、即チ政府ノ原案モ政友會ノ修正案モ、現行法ニ比シテ見レバ、優ルコト萬々ナリト云フコトヲ以テ國頭ニ言ハレテ居ル、既ニ現行法ヨリ優クト云フコトヲ認メラレタナラバ、直チニ同意サレテ然ルベキコトデアアル、(拍手起ル)又非難ノ一トシテ現行法ハ遡ル、逆及スル八月一日カラ施行スル法律デアリナガラ、本年一月一日ニ適テ稅ヲ取ル、斯ウ一概ニ言ハレレドモ、其逆及スルノハ、納稅者ニ利益ノアル點ノミ逆及スルノデアアル、即チ控除スル金額、其點ダケガ逆及スルノデ、増徴スル上ニ於テハ決シテ逆及シナイデアリマス、(拍手起ル)此段一言辯シテ置キマス

○議長(奥繁三郎君) 發言ノ通告ノアツク人ハ總テ演說サレマシタ故ニ、討論ハ終結サレタルモノト認メマス

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 採決致シマス、所得稅法改正法律案所得稅法ノ施行ニ關スル法律案、即チ日程第十五、第十六、此二案ニ對シマシテ二讀會ヲ開ク、否ヤヲ記名投票ニ依テ採決致シマス、(議長「公平」ト呼フ者アリ)……モウ一度申シマス、第二讀會ヲ開クベシトノ諸君ハ白票、第二讀會ヲ開クヘカラストノ諸君ハ青票ト開鎖——氏名點呼

(原田書記官氏名ヲ點呼ス)

○議長(奥繁三郎君) 投票漏ハアリマセスカ——投票漏ハナイト認メマス——開鎖——開匣——投票ノ結果ヲ報告シマス

(寺田書記官長朗讀)

投票總數 四百十二

可トスル者 二百七十三
否トスル者 百二十九

(拍手起ル)

第二讀會ヲ開クヘシトスル議員ノ氏名左ノ如シ

- 石井 三郎君 今井 今助君 今泉嘉一郎君
- 石川 善盛君 岩崎宗茂助君 市村 貞造君
- 岩切 重雄君 一宮房治郎君 禰 苗代君
- 岩崎 勳君 井上敬之助君 池田 龜治君
- 井坂 豐光君 岩崎幸治郎君 井上角五郎君
- 石川 玄三君 岩本 平藏君 伊坂秀五郎君
- 伊澤平左衛門君 磯田三郎君 伊藤 廣幾君
- 池田猪三次君 原田 十衛君 八田 宗吉君

- 林 毅陸君 花岡 次郎君 波多野喜右衛門君
- 蓮井 藤吉君 長谷川宗治君 長谷場 敦君
- 花城 永渡君 原田佐之治君 原 夫次郎君
- 原田藤次郎君 濱口吉兵衛君 萩 亮君
- 波多野承五郎君 泰 豐助君 原 敬君
- 鳩山 一郎君 西澤 定吉君 西川 嘉門君
- 西村 正則君 西村 伊亮君 本多貞次郎君
- 堀切善兵衛君 友常毅三郎君 戸狩權之助君
- 富安保太郎君 床次竹二郎君 陣 軍吉君
- 小田切磐太郎君 岡崎 邦輔君 小山田信藏君
- 小川 平吉君 大久保虎吉君 大石 大君
- 岡田伊太郎君 大島實太郎君 大林森次郎君
- 岡田 育造君 岡 順次君 渡邊 修君
- 若尾 幾造君 若林 德懋君 渡邊 祐策君
- 河相 三郎君 柿原政一郎君 河崎 清君
- 金光 庸夫君 川口誠三郎君 加藤久米四郎君
- 海原 清平君 粕谷 義三君 河上 哲太郎君
- 川村 數郎君 海江田準一郎君 吉原祐太郎君
- 横田千之助君 吉植庄一郎君 米田 穰君
- 吉原 正隆君 吉木 陽君 横山寅一郎君
- 米澤與三次君 吉野小一郎君 高橋 辰二君
- 高橋 本吉君 高見 之通君 高柳淳之助君
- 高橋長七郎君 瀧 正雄君 高橋 義信君
- 田中 定吉君 田邊 熊一君 高島七郎右衛門君
- 田村順之助君 竹内明太郎君 大道寺慶男君
- 高木第四郎君 竹澤 太一君 高野 毅君
- 高橋金治郎君 玉置 良直君 田中 隆三君
- 高山 長幸君 龍野周一郎君 塚原 嘉藤君
- 高橋善五郎君 津崎 尚武君 中西六三郎君
- 坪田 十郎君 根本 正君 成田 榮信君
- 中山 佐市君 中村 清造君 南里 琢一君
- 成田直一郎君 中倉万次郎君 中橋德五郎君
- 長峰 與一君 中島 守利君 永屋 茂君
- 永井 作次君 中島 鵬六君 向井 倭雄君
- 仲田 德三君 中村 喜平君 上塚 司君
- 武藤 金吉君 梅田 潔君 鶴澤 總明君
- 植場 平君 宇野 勇作君 内山安兵衛君
- 上埜安太郎君 植竹龍三郎君 野口忠太郎君
- 野村勘左衛門君 野副 重一君 野口重政亮君
- 野田卯太郎君 野呂 駿三君 熊谷 直太郎君
- 久木田 叶君 黒住 成章君 久下 豐忠君
- 久慈 貫一君 藏内治郎作君 山本条太郎君
- 國澤新兵衛君 山口 義一君

- 山本清三郎君 山田 永俊君 山口 熊野君
- 谷津新八郎君 柳原九兵衛君 矢野 丑乙君
- 山本悌二郎君 山崎 猛君 山口 嘉藏君
- 牧山 耕藏君 松實喜代太君 松岡 俊三君
- 前田 米藏君 舞田壽三郎君 松田 源治君
- 松野 鶴平君 松山常次郎君 松本孫右衛門君
- 牧野 良三君 九山嵯峨一郎君 益谷 秀次君
- 麓 純義君 福井 三郎君 深見寅之助君
- 小鹽八郎右衛門君 古林 與六君 古林 新治君
- 小泉策太郎君 小橋 一大君 兒玉亮太郎君
- 小久保喜七君 小坂 順造君 江崎幸太郎君
- 遠藤 良吉君 穴水 要七君 阿部武智雄君
- 淺石 惠八君 青木恆太郎君 有馬 秀雄君
- 秋本 喜七君 東 武君 赤田 瑳一君
- 天春 文衛君 青柳郁次郎君 佐藤 良平君
- 坂本素魯哉君 齋藤 壽雄君 佐藤 貞雄君
- 阪上 貞信君 櫻内 幸雄君 佐々木志賀二君
- 崎山 克治君 榊田清兵衛君 齋藤 賢太郎君
- 澤 來太郎君 清瀬規矩雄君 吉良 元夫君
- 菊池長右衛門君 木下謙三郎君 木村作次郎君
- 菊川 惣吉君 木下基三郎君 木村作次郎君
- 木村清三郎君 木下謙次郎君 三好 徳松君
- 木下十四三君 木下成太郎君 水野吉太郎君
- 宮崎三之助君 三善 清之君 三土 忠造君
- 宮崎友太郎君 宮古啓三郎君 下出 民義君
- 白井 博之君 志賀和多利君 清水市太郎君
- 島本 信二君 島田 俊雄君 廣瀬 鎮之君
- 廣岡宇一郎君 匹田 銳吉君 平田民之助君
- 樋渡次右衛門君 日野 辰次君 元田 肇君
- 樋口伊之助君 毛里保太郎君 妹尾 順平君
- 森 恪君 望月 圭介君 菅野傳右衛門君
- 清 峯太郎君 菅原 傳君 鈴木 錠藏君
- 鈴木 巖君 鐸木三郎兵衛君 鈴木 悦造君
- 鈴木 義隆君 井内 歡二君 萩田 納富君
- 若尾 璋八君 鎌田三郎兵衛君 吉村鉄之助君
- 類波作之進君 上田彌兵衛君 納富 陳平君
- 矢島 專平君 松田 三徳君 佐々木平次郎君
- 木村權右衛門君 三輪市太郎君 守屋松之助君
- 仙波 太郎君 井上 孝哉君 副島 義一君
- 野溝傳一郎君 松下 積二君 宮田 光男君
- 第二讀會ヲ開クヘカラストスル議員ノ氏名左ノ如シ
- 一柳仲次郎君 磯貝 浩君 石井 研二君
- 井上 剛一君 橋本 喜造君 早川 龍介君

濱口 雄幸君	早速 整爾君	本田 恆之君
中馬 興九君	大竹 貫一君	岡本 幹輔君
大津淳一郎君	太田信治郎君	小野 重行君
尾崎 行雄君	春日 俊文君	加藤 定吉君
香川 保忠君	川副 綱隆君	門屋 尚志君
金澤安之助君	神谷 彌平君	河野 廣中君
金尾 稜嚴君	金田平兵衛君	横山勝太郎君
吉田 磯吉君	横山金太郎君	吉川吉郎兵衛君
武内 作平君	田川大吉郎君	田中 武雄君
頼母木桂吉君	龍口 了信君	高田 耘平君
高橋久次郎君	田中 萬逸君	高木 正年君
田中 善立君	添田飛雄太郎君	津原 武君
内藤 濱治君	永井柳太郎君	紫安新九郎君
野呂丈太郎君	野村 嘉六君	野尻彌重郎君
山移 定政君	野田文一郎君	野原 泰義君
八井 武治君	山道 襄一君	山邊 常重君
藤井 啓一君	正木 照藏君	松井 鉄夫君
古屋 慶隆君	福本清之輔君	降旗元太郎君
小池 仁郎君	古賀三千人君	小山 松壽君
出口 直吉君	木槍三四郎君	小泉又次郎君
安達 謙藏君	手島 鉄司君	淺賀長兵衛君
阿由葉勝作君	秋 帛太郎君	荒川 五郎君
佐々木千秀君	淺野 順平君	綾部惣兵衛君
齋藤宇一郎君	作間 耕逸君	佐竹 庄七君
定行 八郎君	坂口仁一郎君	齋藤巳三郎君
三浦得一郎君	佐藤 啓君	菊池 良一君
重松 重治君	箕浦 勝人君	三木 武吉君
下田 勤次君	清水三郎君	島田 三郎君
關 和知君	下岡 忠治君	樋口 秀雄君
鈴木富士彌君	森 達三君	森山儀文治君
石川長右衛門君	鈴木周三郎君	鈴置倉次郎君
大口 喜六君	犬養 毅君	板野 友造君
中川幸太郎君	濱田 國松君	西村丹治郎君
植原悦二郎君	渡邊 昭君	高柳覺太郎君
福地 錢吉君	長場龍太郎君	村田虎之助君
有森 新吉君	倉石 知藏君	前川 虎造君
最上 直吉君	小橋藻三衛君	鮎川 盛貞君
砂田 重政君	清瀬 一郎君	湯淺 凡平君
奥村安太郎君	關 直彦君	鈴木梅四郎君
小菅劍之助君	飯塚春太郎君	奥村千太郎君
田淵 豊吉君	上益三郎君	山邑太三郎君
	森下逸太郎君	大濱忠三郎君
	中野 正剛君	山本 厚三君

山科慎次郎君 安藤 正純君 秋田 清君
 佐々木安五郎君
 ○議長(奥繁三郎君) 多數ニ依リマシテ、第二讀會ヲ開クコトニ致シマシテ、

○岩崎勳君 日程第十五、及第十六ノ二案共一括シテ、直チニ第二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 異議ナシト認メマス、直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

所得稅法改正法律案(政府提出)
 第二讀會(確定議)
 第一讀會(確定議)

○議長(奥繁三郎君) 委員長報告ニ異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 異議ナシト認メマス

○岩崎勳君 兩案共第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定アラント望ミマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ(拍手起ル)

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君發議通リ異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ第三讀會ヲ省略シ、委員長報告通リ決シマシタ(拍手)——次ニ日程第十七、酒造稅法中改正法律案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ諮リマス

〔第二讀會ヲ開クニ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○岩崎勳君 直チニ本案第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

酒造稅法中改正法律案(政府提出)
 第二讀會(確定議)

○本田恆之君 酒造稅法中改正法律案ノ修正ノ動議ヲ出シマス、即チ第八條第二項但書中「清酒ハ査定石數ノ百分ノ五」トアルヲ「百分ノ六」ト改ム、第十三條中「金四圓ヲ七圓ニ改ム」トアルヲ「金四圓ヲ六圓ト改ム」ト修正致シマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 賛成アリマスカ

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 成規ノ賛成アリト認メマス

○本田恆之君 簡單ニ修正ノ理由ヲ此處ヨリ申上ゲマス、第五條中清酒ノ査定石數百分ノ五トアリマスノハ、滓引貯藏減ヲ合セテ百分ノ五ヲ控除スルト云フ、原案デアリマス、併ナガラ既往五箇年ニ於ケル大藏省ノ統計ニ依リマスレバ、貯藏減ハ五分ニ強ニナリ居リマス、貯藏減ガ既五分ニ強ニナリ居リマシテ、滓引ガ既往ノ經驗ニ依リマシテモ、一分ト云フコトニナリ居リマス、雙方合セマスト七分ニ強ニ控除スルノガ、相當デアリマス、ケレドモ併ナガラ此統計ハ、僅ニ五箇年ニ過ギナイデアリマスカラ、其中ノ幾分ヲ斟酌シマシテ、滓引及貯藏減ヲ合セテ七分トナシテ居リマスノヲ、其中間ヲ取テ、六分ヲ控除スルノガ相當デアルト云フノデ、百分ノ六ト改メマシタ譯デアリマス、第十三條ノ「四圓ヲ七圓ト改ム」トアルヲ「金四圓ヲ六圓ト改ム」ト致シマス、是ハ納稅保證金デアリマス、現在四圓デアルノニ對シマシテ、五割増シテ六圓ニ改メルノデ、國家徵稅上ノ損失デアルカラ、五割増シノ修正トシテ、四圓ヲ六圓ニ致シマス譯デアリマス、簡單ニ……

○議長(奥繁三郎君) 本田君提出ノ……

○三土忠造君 唯今本田君ノ提出サレマシタル修正案ニ就キマシテハ、此場合遺憾ナガラ反對ヲ致シマス、實ハ此點ニ就キマシテハ、我々モ相當考慮ヲ拂フタノデアリマスガ、唯今本田君ノ引用サレマシタ書類ハ、部分々々ニ於テハ正シイモノカ知リマセヌガ、總體カラ申シマスト云フト、マダ十分ニ之ヲ根據トシテ、數字ヲ割出ス譯ニ行カスト存ジマス、ソコデ財源ト關係モアリマスルガ故ニ、大藏大臣ハ、是ヨリ更ニ基礎的數字ヲ調ベテ、相當考慮ヲ費シテ見ル、斯ウ云フコトニナリテ居リマスガ故ニ、此場合ハ右ノ事情ヲ申述ベテ

込神樂坂警察署ノ警察官ノ爲メニ檢束サレト云フ場合ニナリマシタ、所ガ其檢束ノ方法ガ極メテ苛酷ナリシガ爲メニ、遂ニ同人ハ人殺シデアアル、ドウカ助ケテ呉レト悲鳴ヲ發スルニ至リタデアリマス、ソレヲモ聽カズシテ警察官ハ之ヲ引致セントシタル爲メニ、同人ハ遂ニ其場ニ昏倒スルニ至リタデアリマス、昏倒シタル際ニ、其警察官ハ之ヲ麒麟亭ニ昇込シテ、警視廳ノ石橋醫師ヲ招イデ、應急ノ手當ヲ爲シタルガ爲メニ、纒ニ蘇生スルニ至リタデアリマス、斯ノ如キ事柄ハ何ノ必要アリテ、神樂坂署ノ警察官ガ惡辣ナル檢擧ノ方法ニ出デタルモノデアリマス、私ハ其真相ヲ聽カントスルデアリマス、殊ニ其坂本義信ガ昏倒シテ居リマス際ニ、森谷天洞ナル者ガ其友人タルノ誼ニ仗テ彼ヲ介抱シツ、アタリデアリマス、之ヲモ警察官ハ拉シ去リタデアリマス、何ガ故ニ病人ヲ介抱シテ居ル所ノ者ヲ、拘禁スルデアアルコト云フコトノ詰問ヲ致シマシタ所ガ、其警察官ガ險ナ顔デアアルカラシテ、オ前ヲ拘禁スルト云フコトデ、(笑聲起ル)之ヲ或方面ニ拉シ去リタト云フ事實ガアリマス、諸君、顔ノ善惡ハ是ハ或ル大臣ノ言草デアリマセヌガ生付デアリマス、其生付ノ顔ガ甚ダ危險デアルトカ、宜シクナイトカ云フ事柄デ、友人ノ看護ヲシテ居ル者ヲ警察官ガ之ヲ拘禁スルニ至リタハ、無常識モ亦極レリデアルト私ハ考ヘマス、(拍手起ル)果シテ我ガ内務大臣ハ之ヲ御計ニナサツデアリマス、其邊ノ詳細ノ事情ヲ承リタイト思ヒマス、第二ニ承リタイノハ、是モ新聞紙ニモ詳細ニ書イテゴザイマスガ、神田ノ青年會館ニ於テ、全國學生聯盟政府問責大會ナルモノガ開催セラレマシタ、其際ニ學生ノ一人タル眞鍋儀十ナル者ガ座長ニ推薦セラレマシタ、此座長ニ推薦セラレタ者ヲ何等理由ナク、何等ノ理由ヲ明示セズシテ、警察官ガ不法ニ之ヲ亂打致シタデアリマス、數十人ノ警察官ニ依テ袋叩ニサレタト云フ事實ガ、新聞紙ニモ書イテゴザイマス、諸君ガ斯ノ如キ事實ヲ當リ前デアルトシテ看過セラレルカモ知リマセヌガ、申スマデモナク警察官ハ、人民保護ノ重責ヲ有テ居ル者デゴザイマス、(拍手起ル)此人民保護ノ公職ヲ有テ居ル所ノ警察官ガ、民衆ノ面前ニ於テ、何等ノ罪ナキ學生ヲ亂打スルニ至リタハ、果シテ警察官ノ本分ヲ盡シタルモノデアアルカドウカ、私ハ甚ダ疑問トスルデアリマス、(拍手起ル)要スルニ昨日ノ日比谷公園、竝ニ青年會館等ニ於ケル警察官ノ民衆ニ對スル態度ハ、恰モ犯罪人ニ對スルカノ如キ態度ニ在リタト云フコトハ、洵ニ遺憾千萬デアアル、抹消スベカラザル事實デアルト私ハ思ヒマス、(ヒヤ)ト呼フ者アリ、(拍手起ル)是等ノ事實ヲ綜合シテ見マスルニ、政府

ニ反對スル演說ヲスルトカ、政府ニ反對スル會合ヲスレバ必ズ多數ノ警察官ガ除ヲ成シ來テ、是等ノ者ニ妨害ヲ致シ、其人ヲ拘禁スルト云フ事柄ハ、果シテ警察官ノ本然ノ任務デアアルヤ否ヤ、甚ダ私ハ疑無キ能ハズデアリマス……

〔此時發言スル者アリ〕

○議長(與繁三郎君) 靜肅ニ……

○横山勝太郎君(續) 警察官ハ政府擁護ノ爲メニ存在シテ居ル機關デアリマセヌ(拍手起ル)國家ノ安寧秩序ヲ擁護スル重大ナル任務ヲ有テ居ル者デアリマス、(拍手起ル)然ルニ學生若クハ其他ノ者ガ政府ニ反對ノ會合ヲスル、政府ニ反對演說ヲスルト云フ一事ニ依テ、人ヲ拘禁シ、此會合ヲ妨害スルト云フ事柄ハ、私ハ警察官ノ本然ノ任務ニ背クモノデアルト考ヘマス、(拍手起ル)斯ノ如キ事ヲ内務大臣ハ果シテ命令ヲ致シタデアアルカ、若シ命令ヲセズトスルナラバ、斯ノ如キ行爲ノアタコトヲ看過スルデアアルカ、私ハ斯ノ如キ事實ノ真相ニ關シテハ、内務大臣自ラ此議場ニ於テ其真相ヲ明ニシテ、有ル事ハ有ル、無イ事ハ無イトシテ、サウシテ斷然其事實ノ真相ヲ公表スルト云フコトガ、政府者ノ責任デアルト考ヘマス、(拍手起ル)是故ニ我ニヨリシテ斯ノ如キ事柄ガ新聞紙ニ出テ居ルノヲ質問スルマデモナク、天下ノ大新聞ニ悉ク官憲ノ暴壓ノ行爲ガ表シテ居ル以上ハ、自ラ進シテ國民ノ代表者ノ前ニ辯明スルガ當然デアルト考ヘマス、(拍手起ル)是故ニ甚ダ時間ガ遅刻シテ御氣ノ毒ニ存ジマスガ、私ハ國民ニ代テ、此警察官ノ不法ノ行爲ヲ内務當局ニ承リタイデアリマス、(拍手起ル)

〔國務大臣床次竹二郎君登壇、拍手起ル〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 横山君ノ御尋ニ御答シマスガ、神田青年會館ニ於テ眞鍋儀十ト云フ人ヲ、警察官ガ亂打シタト云フ事ハゴザイマセヌ、(ノウ)ト呼フ者アリ(但シ亂暴ノ行動ヲ致シタ爲メニ檢束ヲシタト云フ事ハアリマス、ソレカラ日比谷ノ麒麟亭附近ニ於テ、坂本某ナル者ノ事ニ就テハ、其當時非常ニ混雜致シテ取締制止ヲ致シタニ拘ラズ、一時群衆ガ集テ騷擾ヲ來シタ、其時ニ坂本某ナル者ガ卒倒ヲシタト云フ事實ハアリマス、併ナガラ(ノウ)ト呼フ者アリ)ノウトハ何デスカ、ソレナラ御聽ニナラヌガ宜シイ——卒倒シタト云フ事實ハアル、併ナガラ其卒倒ガ、警察官ノ行動ニ依リタモノデアハナイ、斯ウ云フ事ダケハ分テ居リマス

○横山勝太郎君 一言致シタイト思ヒマスガ、唯今内務大臣ノ御答辯ニ依リマスル、私ノ質問ノ趣旨ハ、全然事實ニ相違シテ居ルト云フ意味ノ御答辯デアアルカノ如ク解

釋致スデアリマス、然ラバ更ニ一言内務大臣ニ御尋致シタイノハ、御讀ニナツタ如ク都下ノ大新聞紙悉ク極大ノ筆ヲ以テ、私ノ申上ゲタ意味ノ記事ヲ書テ居ルデアリマス、斯ノ如キ新聞紙ノ記事ヲモ全然否認セラル、デアリマス、カ、即チ若シ新聞紙ニ出テ居ル記事ガ誤テ居ルト云フコトデアリマスレバ、之ニ對シテ取消ノ手續デモ御執リニナル御考デアリマス、此點ヲ確メテ置キマス

〔國務大臣床次竹二郎君登壇〕

○國務大臣(床次竹二郎君) 横山君ノ質問ニ就テハ、唯今御答シタ通りデアリマス、新聞ノ記事ニ就テハ、御答スルニ及バヌト思ヒマス

○議長(與繁三郎君) 本日ノ日程ハ總テ議了サレマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、明日モ本會ヲ開キマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時五十三分散會